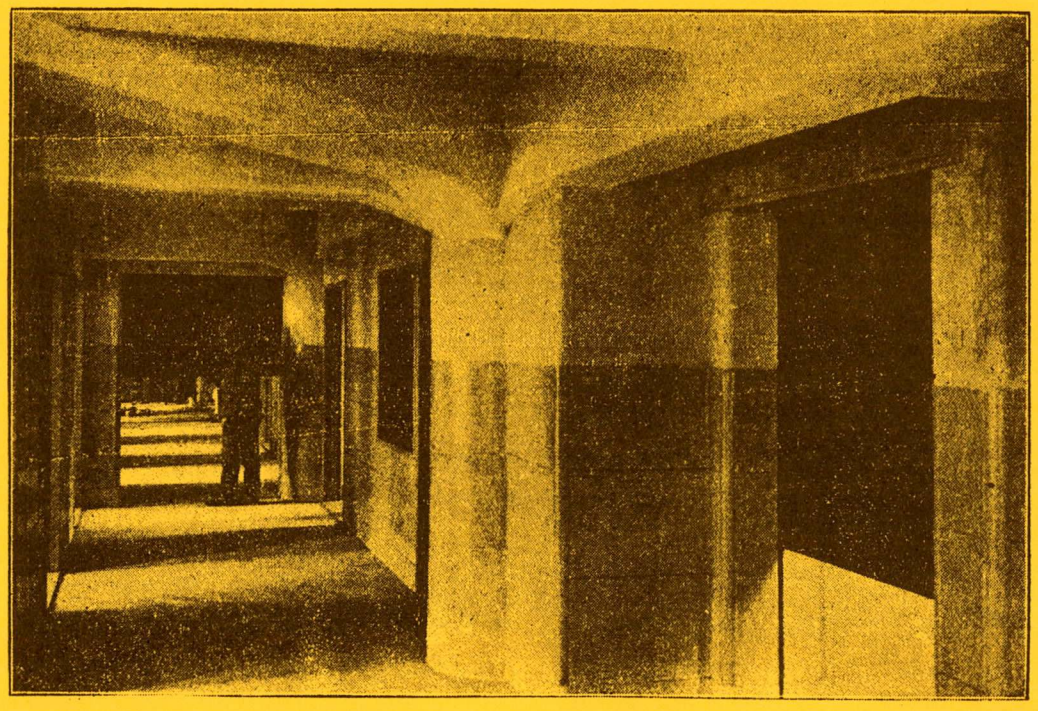
大正十五年九月十日印刷　昭和二年九月一日發行（毎月一回）

建築と社會

第拾輯　第九號

日本建築協會

昭和二年九月一日



Oosaka Sonezaki Daidoo Byooin.
Sekkei to Sekoo: Takenaka Koomuten.

Kayoona Rooka no Tobira niwa
N.K.B. Tebiki *Shutter* ni Kagirimasu.

Goomei Kwaisya Hanken Seisakusyo.
Oosakasi Konohanaku Okizima Kitanotyoo 11.
DENWA: TOSABORI 4020.

Dairiten: {**Mitui Bussan Kabusiki Kwaisya.**
Sanki Koogyoo Kabusiki Kwaisya.

覺王山日暹寺鐘樓建築設計圖案懸賞募集規程一部改正

本誌七月號に於いて發表せる名古屋市覺王山日暹寺鐘樓建築設計圖案懸賞募集規程中　左之通改正いたしましたから應募の向は御承知ありたし

第二條　應募設計圖案ハ昭和二年十月三十一日正午迄ニ到達スルヤウ名古屋市東區覺王山日暹寺事務所ニ提出スヘシ

第十一條　審査ハ昭和二年十一月十五日ニ結了スルモノトス

第十四條　當選セサル設計ハ十二月末日迄ニ提出者ニ希望アルモノニ限リ日暹寺ノ費用ヲ以テ之ヲ還附スヘシ

附記・・・の箇所改正

名古屋市東區田代町
覺王山日暹寺
鐘樓建築事務所

懸賞論文募集締切期日延期

本誌第十輯第五號に於いて募集せる懸賞論文『將來の日本の住居』は都合に依り締切期日を來る十月十日迄延期いたします。

應募せらるゝ向は此の際奮つて御執筆ありたし。

追て發表は十一月一日發行本誌に於いていたします。

社團法人
日本建築協會

朝鮮總督府營林署御出材

豆滿江産

一、落葉松、電柱、杭木

各需要規格相當品
長サ十八尺上六十尺迄　末口四寸上壹尺迄

強弱比較表

大正十五年九月　農林省林業試驗所調
大藏省臨時建築局調

名稱	産地	抗伸強	抗壓強	抗彎強	抗剪強
松	内地	四〇六	五二四	五七六	六八
杉	〃	四四七	四〇〇	五七六	五二
檜	〃	五七八	六一四	四六八	六九
落葉松	豆滿江	六九五	六三八	八二七	九〇

豆滿江出材の營林署材は電柱杭木等として卓越せる使命を有し内地松杉檜に比し何れの點に於ても優秀材たることは比較表に依り立證せられ且又既に業界の是認せる所なり

紅松丸太

上材
浦鹽港積出
尺上
貳尺五寸迄

各種材
さも御注文
により何れの
港へも入船可
致候

大阪市港區小林町市電交叉點前
外材直輸入商
北村梅七商店
電話櫻川一一一七番
受電略號　オオサカキタモク
振替口座　大阪二八九番

特許第七九三五號（延長許可）

大野式防火捲上ヶ戸

（特許大野式シヤッター）

這般の大震火災に於て兼て御定評を蒙り居り候日常開閉の至便、防火耐熱力優秀にして內外國同種類品中最も御安心相願はれ得可きものなることは左記事實に依り能く之を證明致候

一捲上ケ戸の閉鎖が咄嗟の間に完全に行はれたること

一戸鈑の連鎹堅牢にして烈火に面したる場所に於ても戸鈑各個の脫落、鋲鎹の破壞を來したるものなかりしこと

一戸鈑と戸鈑との間、戸鈑と溝金との間、上方捲込口煙返し等の密着充分にして間隙を生じたるものなく能く火炎熱風の浸入を阻止し防火の效を奏したること

以上數多の實蹟に徵し更に一段の注意を拂ひ御期待に副ひ可申確信の下に努力罷在候處幸ひ御承認を辱ふし他製品取換の御注文を始め有數建築物の復興工事 新建築物防火設備等着々御採用を蒙り居候、何卒多少に拘らず御用命被仰付度奉希候

合資會社 大野製作所

東京市芝區三田四國町二番地（電話高輪 長五五七七番 三二二三番）

出張員詰所・上福島中二丁目六〇 電話土佐堀二七二五番

繪口

水邊に於ける建築
＝大阪・堂島川田蓑橋畔＝
大阪・農人橋　大阪・宇和島橋
大阪・千代崎橋及水分橋　大阪・新町橋
大阪・大手橋　大阪・戎橋
フラスカチのアドルブランテインの噴水
羅馬・ボルゲーゼ別莊・海馬の噴水（バロツク紀・ベルニニ作）
ベルヂアのマヂヨーレの噴水（中世紀・薄田のルネツサンの傑作）
羅馬・ヌオーバ廣場三噴水の內（ベルニニ作バロツク紀）
ボルニヤ・ベピリラツカの噴水
アツシツシ・エマヌエル五世廣場の噴水（中世紀）
ピラルボ・フヲンタナ廣場の大噴水（中世紀）
ボボローニヤ・海神の噴水
ピテルボ・ピアノ・スカラノ噴水
ピテルボ・テルテの廣場の噴水

◇　◇　◇

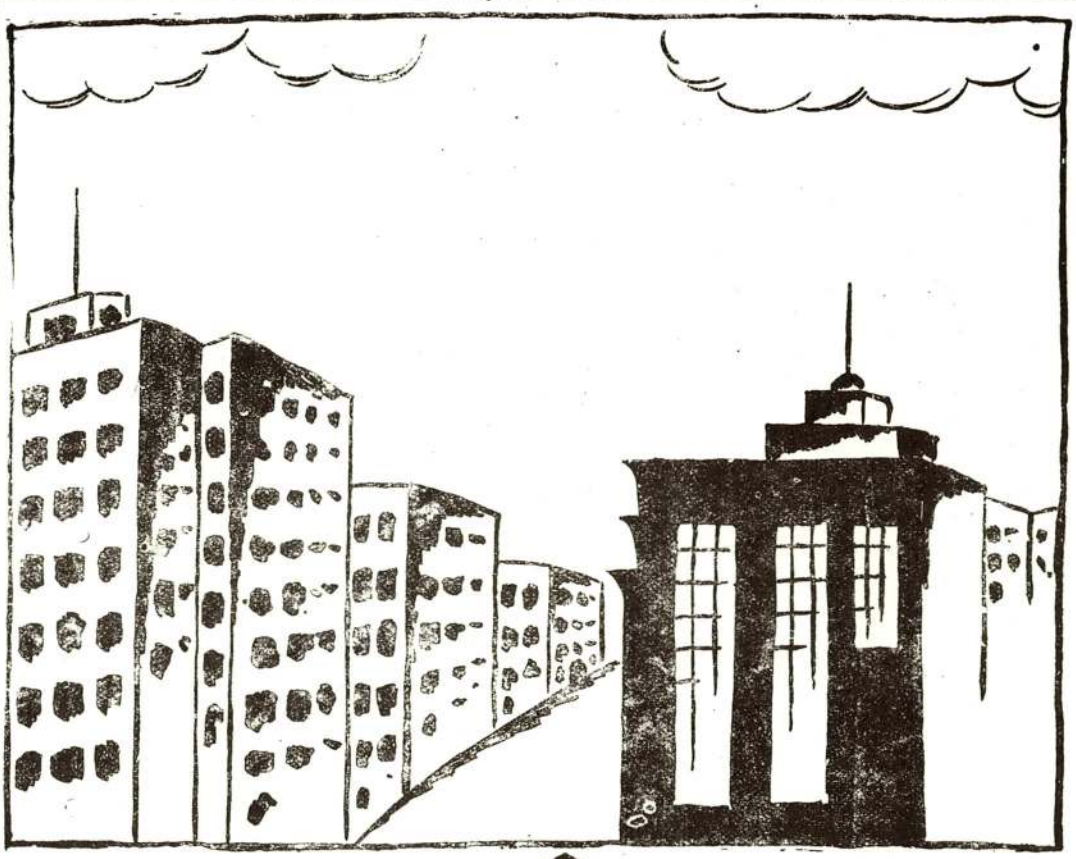
▼河川と建築……佳山生…一
▼水に惠まれたる伊太利の庭園と噴水……會員　古宇田實氏談…二—八
▼大阪の橋に就いて……合資會社大阪橋本組社長　橋本政吉…九—一四
＝ロンドン・巴里・米國の橋＝
▼建築技術の進むべきみちと日本建築協會の將來……會員　八木幸次郎…一五…一八

▼水と建築……會員 Y H 生…一九—二〇
▼水橋閑筆……佐古慶三…二一—二四
▼河岸地の利用と建築……會員 池田實…二五—二六
▼子供のよろこぶ徒渉地……會員 方米治郎…二七—三一
‖夏の子供に惠まれたバラダイス‖
‖その徒渉池の設計と管理に就て‖
▼擬寶珠と建築……會員 池田谷久吉…三二—三八
▼元祿時代に於ける大阪の埋立工事の概要……災害委員 池田宮彦…三九—四二
▼大阪名橋考……佐古慶三…四三—四八
▼名士の考へて居る邸宅……四九—五〇
▼ハウスマン……藤田進一郎…五一—五六
‖都市計畫家銘々傳‖

新築紹介

芦屋・佛教會館外觀 芦屋・佛教會館玄關
芦屋・佛教會館大講堂 芦屋・佛教會館平面圖

▼芦屋佛教會館建築の概要……六〇
▼日本建築協會會報……



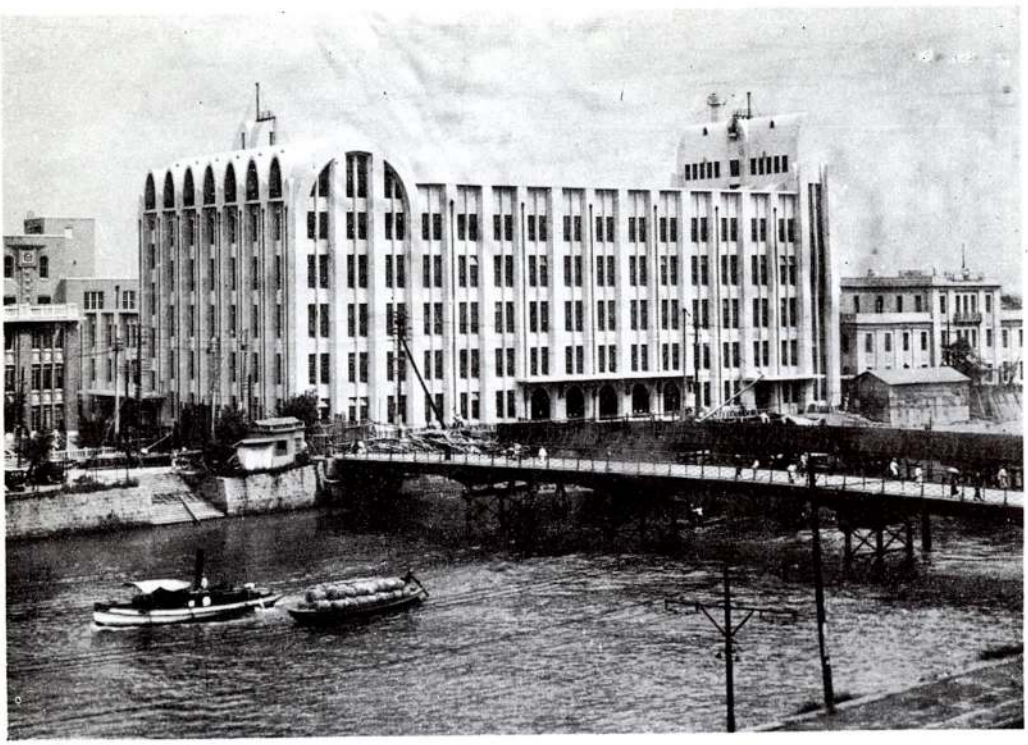
I.S

伊奈製陶株式會社

本社 愛知縣常滑町 電 七〇五 二〇〇

土木工事用
各種高級陶管
并地中電纜管

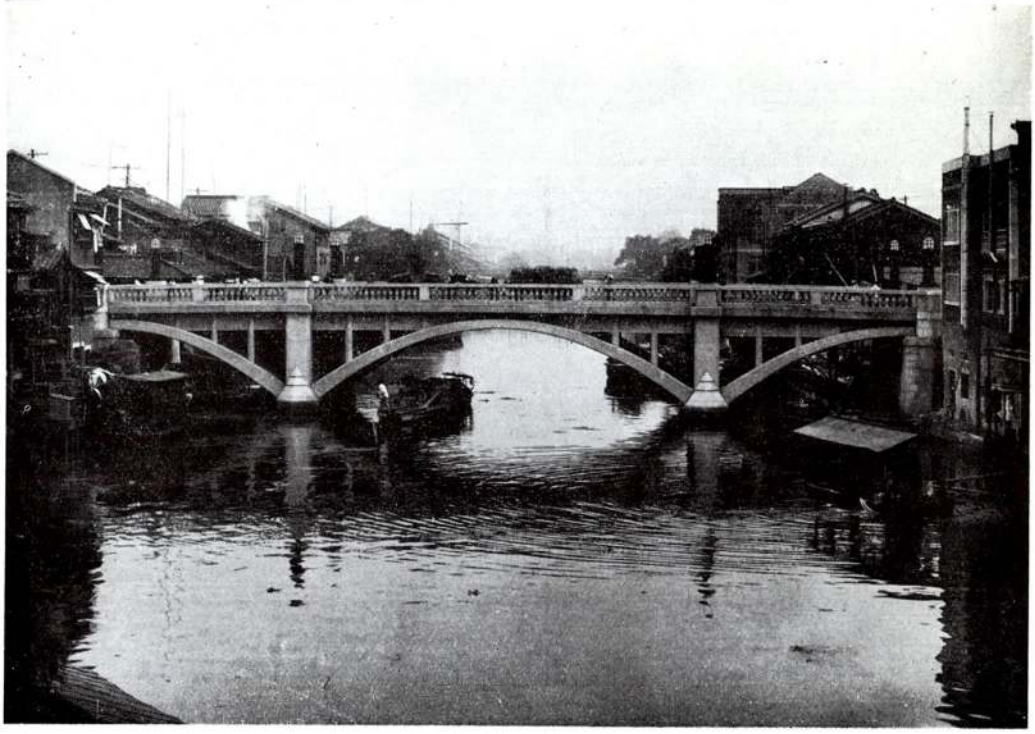
建築工事用
テラカッタ
タイル
モザイク
タペストリ
スクラッチ



水邊に於ける建築

大阪・堂島川田裝橋畔

橋下の歸舟



大阪・農人橋

橋畔の揚柳



大阪・宇和島橋

江上滿舟



大阪・千代崎橋及水分橋

橋姿楚々



大阪・新町橋

孤影投水

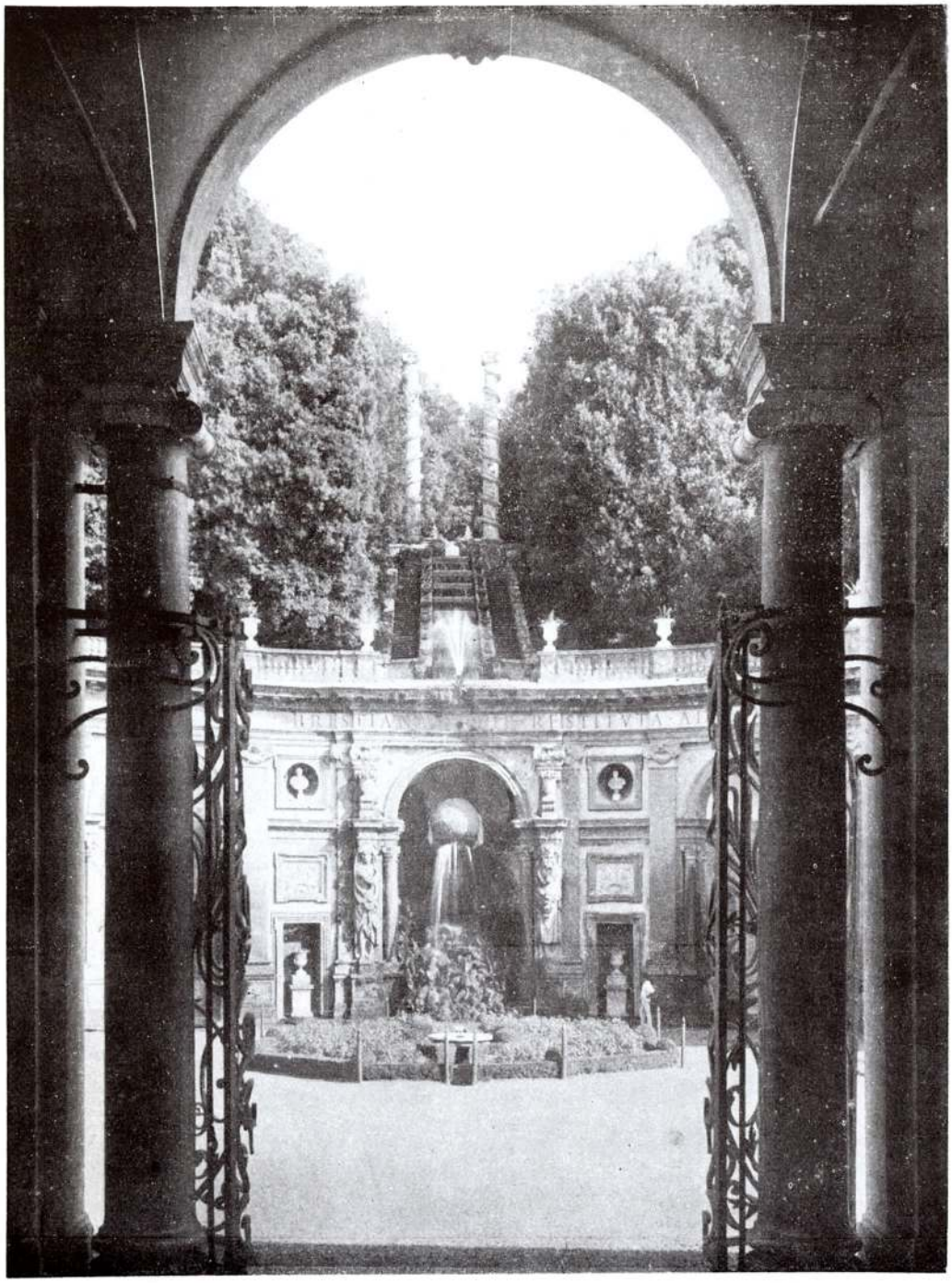


大阪・大手橋



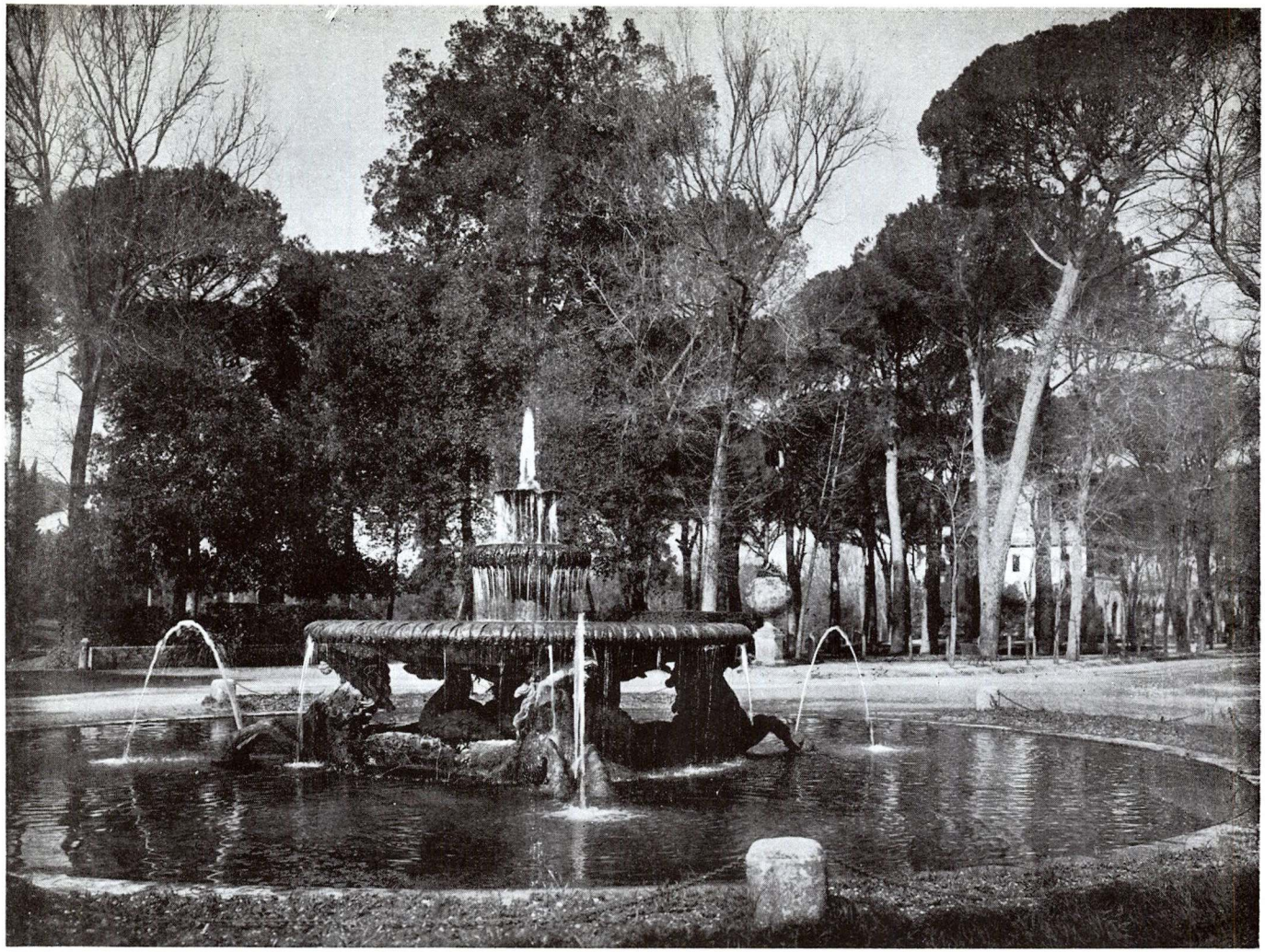
橋畔旗亭

大阪・戎橋

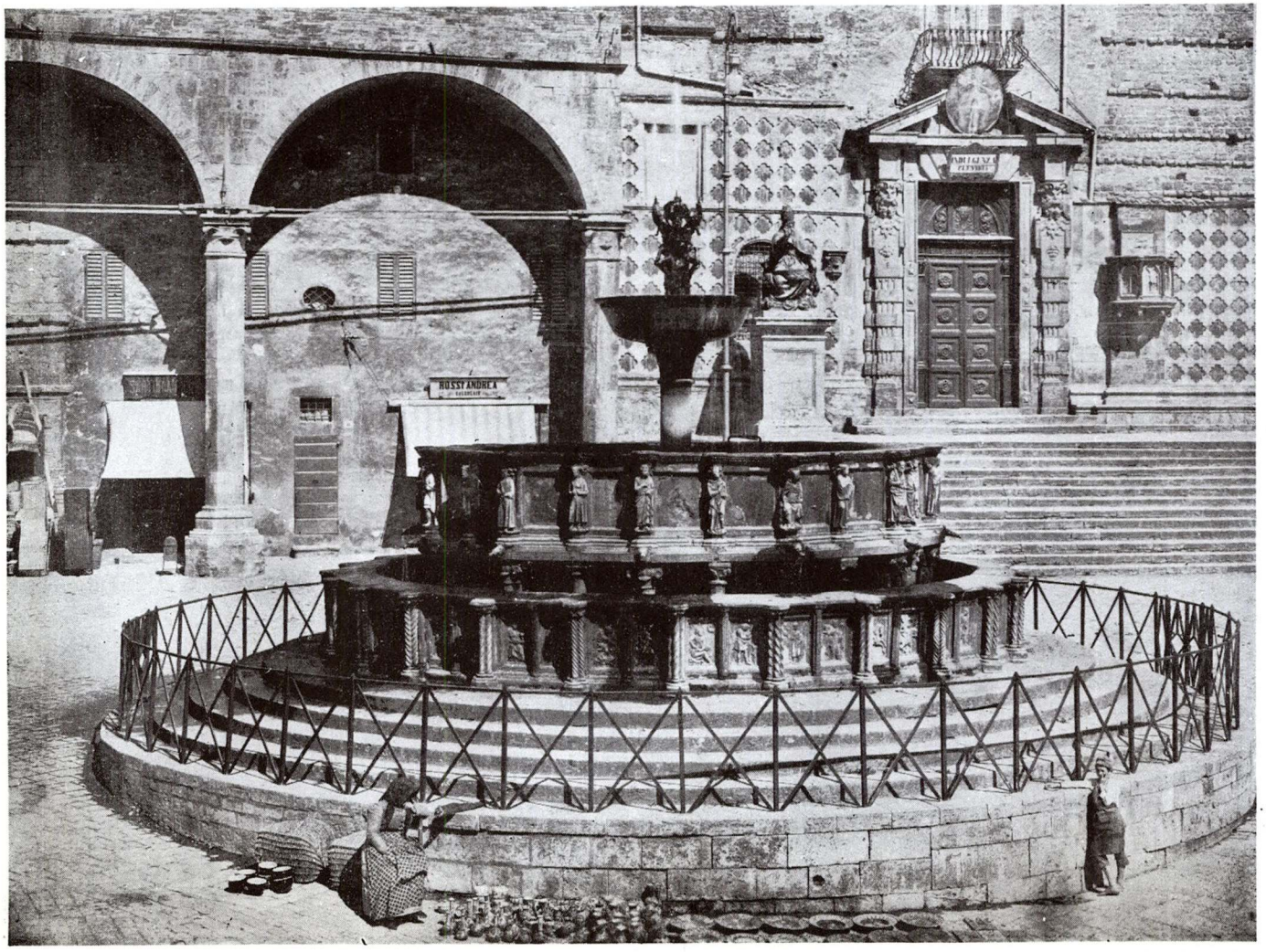


フラスカチのアドルブランデイニの別荘の噴水

（古宇田實氏藏）



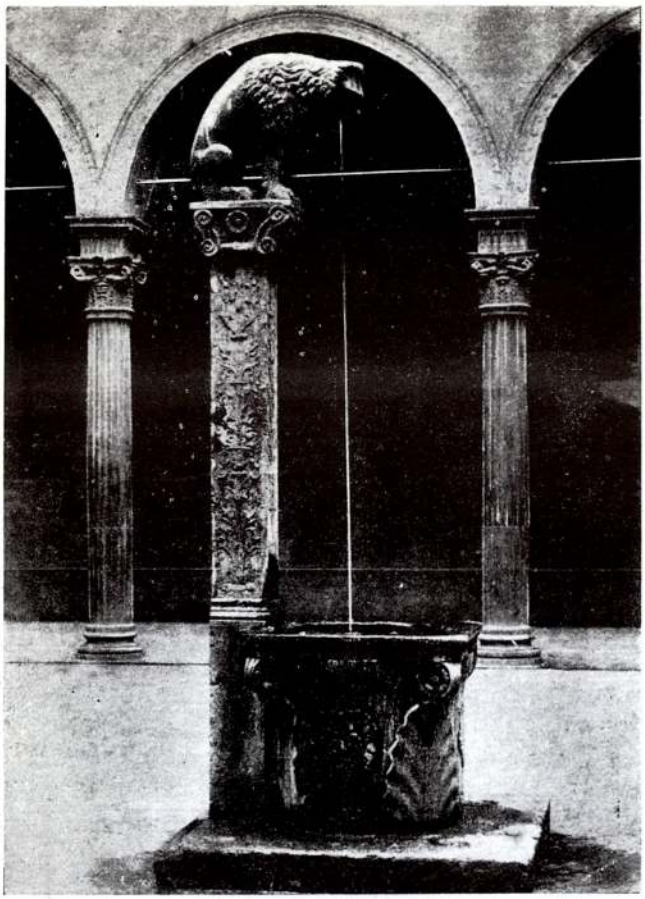
羅馬、ボルゲーゼ別荘、海馬の噴水（バロック期）（ベルニニ作）　（古宇田實氏藏）



チマのアヂルペヨーレの噴水（中　世　紀）（薄肉のルネッサンの傑作）　（古宇田實氏藏）



羅馬、ヌオーバ廣場三噴水の內（バロック期）（ベルニニ作）　（古宇田實氏藏）



ポルニヤ・
水噴のカツラリビベ



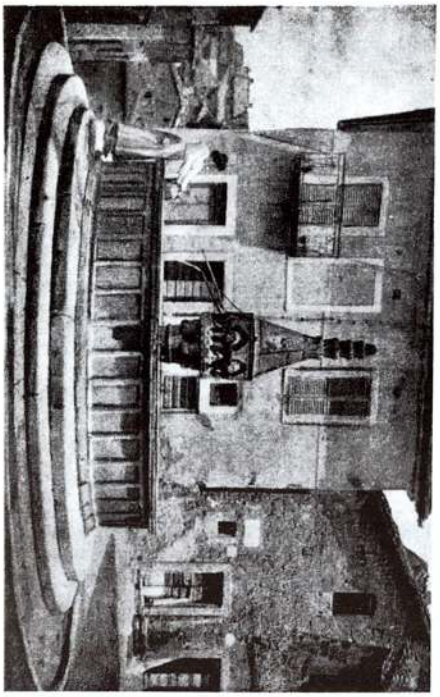
アツシツシ
エマヌエル五世廣場の噴水
（中世紀）



ビテルボ
フォンタナ廣場（大噴水）
（中世紀）



水噴の神海・ヤニーロポ



ビテルボ
ピアノ・スカラノの噴水
（中世紀）



ビテルボ・テルテの廣塲の噴水　（中世紀）

建築と社會第十輯第九號正誤表

九月號口繪及挿繪の說明中校了後に於いて體載上縱組を橫組に直す際次の誤りを生じましたことは貴重なる材料を御貸下げくださつた筆者に對しては元より讀者諸士に對しても誠に相濟まぬことです、本表を出すに當り一言御詫を申上げます。　編　者

口繪第九頁上段　　ボルニヤはボルニヤの誤り
同第十頁下段右　　テルテはモルテの誤り

口繪第七頁目



監線を切取りお貼り下さい

口繪第六頁目



本文第二頁目



同　第三頁目





河川と建築

都市の發達は古來交通產業等の關係上河川の沿岸殊に河口地方に於いてなされつゝ來りしことは敢て歷史を繙くまでもなく現代都市の狀況を案すれば明瞭なることである。

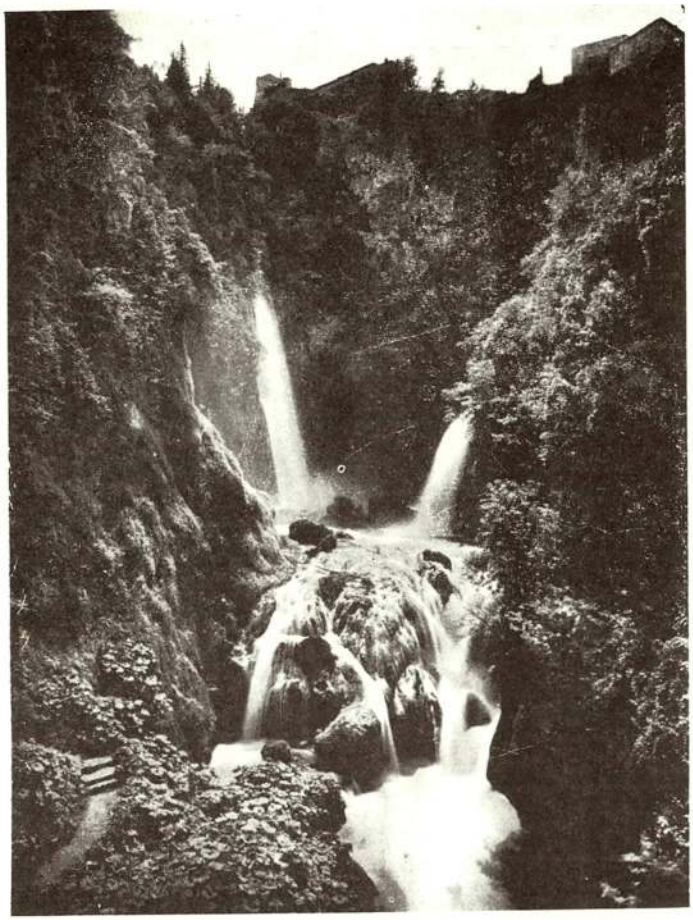
河川は實に人類文化の源泉として吾等の祖先以來如何に大なる力となつて來たことであらう。現今世界の大都市と稱せらるゝものにして河口に位置を占むるもの枚擧に遑あらざる程である、中には河口を去る數千哩の奥地河岸に於いてすら立派なる都市を見ることさえある、之偏に河川の有つ性能の賜ではあるまいか。

河川はかくの如く偉大なる福祉として精神的にも物質的にも人類を益し來たつた。けれども又一面我が國の如き地震地帶に位せる國情に於いては河川によつて稗益せる一方に於て又之が爲一朝大震火災等の襲來に際しては家屋橋梁及道路等の不完全により一擧何萬と云ふ生靈と巨億の富とを失ふ場合あり、彼の關東大震災を回顧するも實に寒心に堪へない次第ではあるまいか。茲に於いてか河岸に於ける都人士は河川に倚れる都市の健全なる發達を劃すると同時に有事に際しても尚安穩たり得る樣努力すべきではあるまいか、水の有つ美、水利の益、之等を活用しつゝ都市の建設改良にいそしむことは都市の計畫及建築に關連せるものの間接たると直接たるとを問はず大いに興味ある事業と云はねばなるまい。

（關東大震火災を回顧しつゝ、二、八、三〇）　佳山生

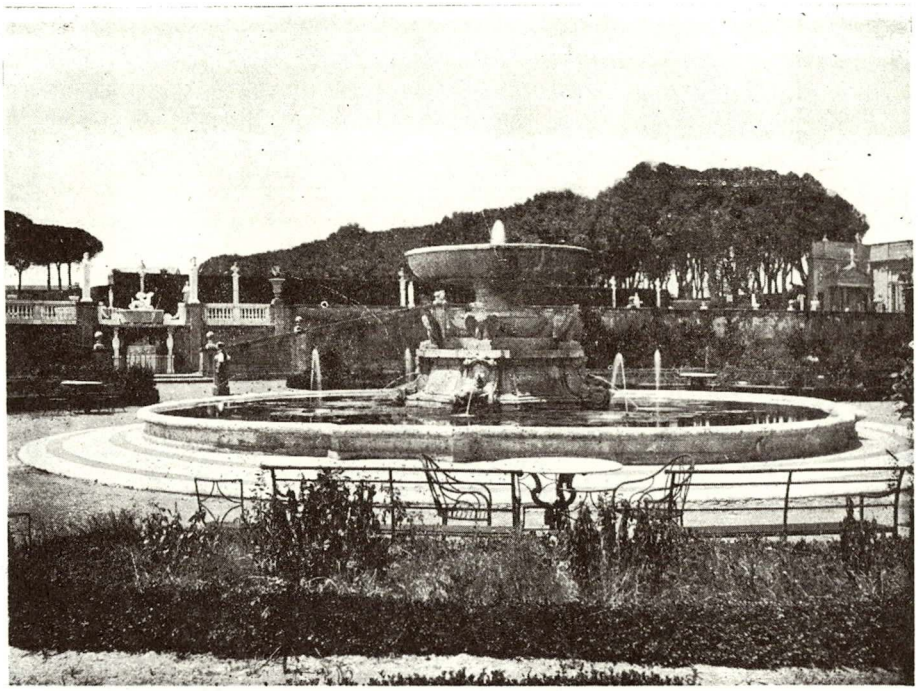
水に惠まれたる伊太利の庭園と噴水

古宇田實氏談



テイボク・シビラの洞窟と瀧

伊太利を旅行した人は誰れでもこの國の庭園が如何に水を多量に使用し、或は水を主體として形式を形造つて居る事の、多いのに驚かれるであらう、同時にごんな小さな都會や村落にでも美しい噴水の彼方此方に散見することにも氣付くであらう、これはたゞに目につくと云ふ丈の話でなく實際にも數多いのであつて、水の利用は確に伊太利庭園の特色の一つである、從て水を引く工事、水を藝術化せることに於ても極めて巧妙なる技術を發揮して居る而して最も盛であつたのは古代にあつては西歷紀元の前後の數世紀間乃ち華やかな羅馬時代、降ては中世紀の封建時代を經て更にルネッサンス文藝復興期に於て驚くべき發展を見せておるその內でも庭園としては十五世紀から第十七世紀に及



羅馬・アルバレの別荘

び最隆盛を極めた様に見られる。

伊太利はその國柄が地勢風土上から見れる熱帶に近く春分から夏にかけて暑氣甚だしく、灼熱した地上に乾燥せる空氣を覆ひ、なか〳〵に耐へ難く。自然水を求め、水なくては生活がなか〳〵に苦しいのである、唯に水が馬の飲用水として必要なるのみならず、浴用として、延ては涼を加へる爲に必要である故に當初は全く實用でありながら、漸次藝術化し、同じ水を噴水さするにも唯蛇口を造ると云ふ丈でなく、人物鳥獸その他の彫刻物を配し、或は段狀形に落し或は流し或は吹き揚げ、遂には建築的に施設するに至つたので、單なる水であるがそれを彫刻化、建築化せりと云ふも過言でないのであります。

古羅馬時代のものでは、建築の柄の大きなものすら多くは永年の間に廢墟となつた位だから小さな噴水や、自然に近い、庭園が廢滅してほんとうの自然の地態にかへり、爲に直接參考となるべきものは殘つて居らぬがそれからの範を取つた後世の美しき例は澤山ある、今に尙ほ殘つて居て使用に耐へ或は大規模で吾々を驚すものは橋梁、大水道、及浴館等で何れも水に依て出來た技術の賜物で、それ等が共に最高の技術を示して居ることは改めて申す迄もなく有名なものである。

そんなことで古代のものは略して置くとして中世紀では文化の中心が羅馬から東羅馬帝國即ちビザンツの方に移つたから、伊太利それ自身は甚だ振はぬ有樣となつた殊に北方ゲルマンの蠻族に侵入されてからは、文藝美術は無論、浮む瀨もなく、沈滯したが、基督敎の普及、羅馬法王權の



羅馬・テルメの廣場・テルメ（浴舘）の噴水

（ルラリの彫刻）

回復、民族の自覺等に依つて、再び文化に花が咲いて來たその頃からまた美術も見返して來たがそれにはビザンツの影響とサラセン文化の感化が少くなく、次で更に華やかな文藝復興期を興したとも見ることが出來る。

修道院のキオストロの中央の井戸や、街の辻々、廣場に設けられた、噴水の如きは、當時の宗教書や、風俗書に題材となつて居るのみならず、その辻の噴水、廣場の噴水の如き、それ自身、頗る藝術的に感賞し得られるもので、日本の都會の水道蛇口にバケツ、手桶を振下げて、並ぶおかみさんの行列見たいな様な、雜風景なものではない、井戸端會議以上に、噴水端會議は劇的、詩的氣分に滿ちて居るものである。

ビテルボ（Viterbo）と云ふ人口一萬八千程の羅馬から半日行程北の中世紀の一小都會はその代表的とも云へる位。茲は水と酒の佳い處で、美人の產地、だが最も詩的であり興味深いのは中世紀の住宅の澤山殘つて居ることや前述の辻の噴水の美である。文藝復興期に於て彼のツムジ曲りの武骨大藝術家ミケランゼロが此地を愛し、茲の愛人に逢ふたのも、獨り愛人の爲めばかりでもあるまいと思ふ樣な氣もする。

一たい中央伊太利は伊太利でもエトルリア時代から開けた丈になか〳〵古い面白い遺蹟を殘して居る、彼のヂオツトや、チマブエの名畫で、も名高い聖フランシスの寺のあるアツシツシの町ラフアエロが始りでフレスコを書き、ペルヂノが活躍した、エトルリアの古城を持つ古都市のペルヂア等も實に興味のある處で、それ等中世紀に發達した町



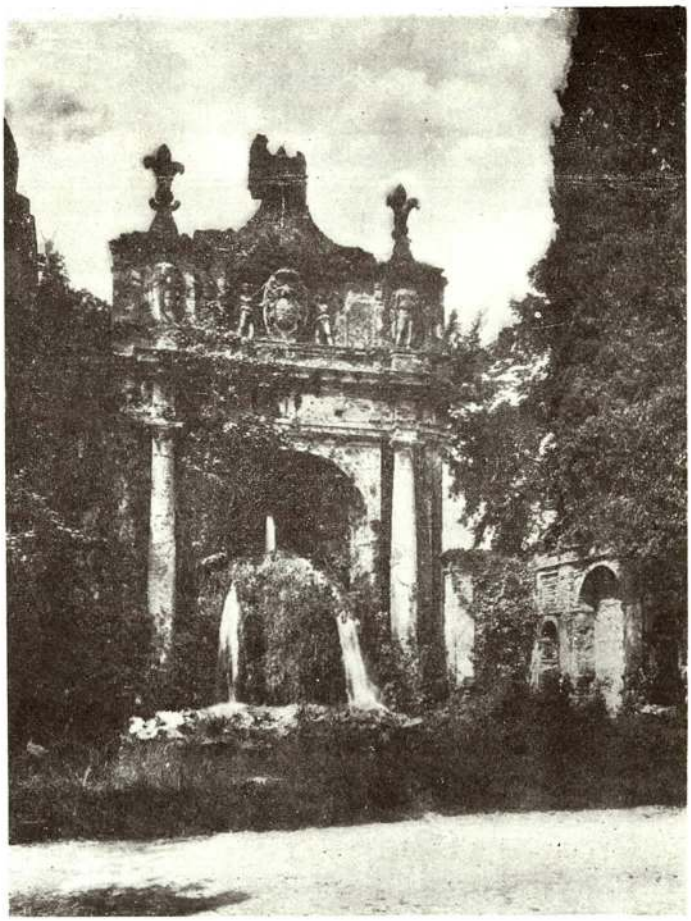
カプラーロラ・ファルネーゼ別荘奥庭（ビニヨラ作）

は何れも辻や廣場の噴水には面白いものがある、そしてルネッサン時代になつて更にその數が增されて居る。

ルネッサンス即ち文藝復興は十四世紀後半からフイレンツエを中心としたトスカーナ地方に起つて羅馬ベネチアに及びやがて伊太利全體に普及し、文字の示す通り、羅馬時代の華かさ（但し主として文化）を見るに至つたのであるが、當時の富豪貴族は盛に各地に別莊を興した、住宅的建設の隆盛は此時代に越して他に見られぬと云はるゝ位で、別莊は其一端に過ぎぬが、それでも大なる特徴が見られるそれは山水明媚の地乃ち湖畔山嶽地方の景勝を撰み、その天然を巧に利用し、若し天然と同化或は天然を支配する形に造りなされた、殊に著しきことは水の利用である、北部アルプスの連山を背景とせる、コーモ湖、マジョーン湖に於てはその湖畔、島には何れも水の別莊が設けられた、伊太利を手に入れたナポレオン一世により愛住されたこともあるイソラベルラ（美しき島の意）の如きは全島殆んど別莊としてその一半は宮殿、一半は水際まで庭にしたもので此種の代表的のものと云へ様。

羅馬は法王の根據地であり、貴族も集つた丈にその都は勿論郊外に澤山の別莊が設けられた、アルバノの山地、フラスカチ、テイボリ等はその郊外別莊地であるがそれ等の地は皆水が多分にあるので極端に然も人工的に水の利用が見られるフラスカチやアルバノはまた酒の名產地で羅馬時代からバッカス連の飲んだくれた土地丈に今も味い酒があり別莊地にはもつて來いの處である、景色の美しきことは云はずもがなで、それ等の別莊の大切な生命であらう、フラ

テイボリ・エステの別荘



バロツク式の門の噴水

スカチのその崖を利用した別荘からは、秋晴れにはカンパニヤの平野を越えて遙に羅馬のセントピータの大圓蓋を眺むるあたり正に比叡の中腹別荘から大阪を眺むる樣なものだ、それに背景には瀧が落ち、前の崖際には噴水が高く其水を投げ揚、涼味たつぷりである。

テイボリは羅馬時代には浴館等の水源地となつた位だから淨水滿々たること申すまでもなく今もその深い溪谷にはあちらこちらに瀧が落ちて居る（近世人爲的に造られたのもあるが）、そして彼の羅馬のアドリアン大帝が茲を背景として大別荘を造られた程だから景色の美しきことも申迄もない。ベスタの圓堂がその谷の崖上に立ち、崇高なる、姿を見せ、後世建築家、美術家の大なる手本となつて居つたのは名高いことで。ルネッサンの別荘の代表的のエステの莊園がある（Villa d'Este）百數十尺伊太利で最も高い檜のあることが此の庭の自慢の一つだが特色はやはり遠望と水の利用にある。噴水。プール。階段形の水の流れ、建築的の水扱ひ、あらゆる手段を盡して水を酷使して居る。

羅馬は別荘や、本邸のあつたことは申す迄もなく、パラチン丘の古羅馬皇帝歷代の宮殿以來、水が用ゐられて居たことも今更ながら殊にルネッサンの中期から末期わけてバロッ

テイボリ・エステの別荘

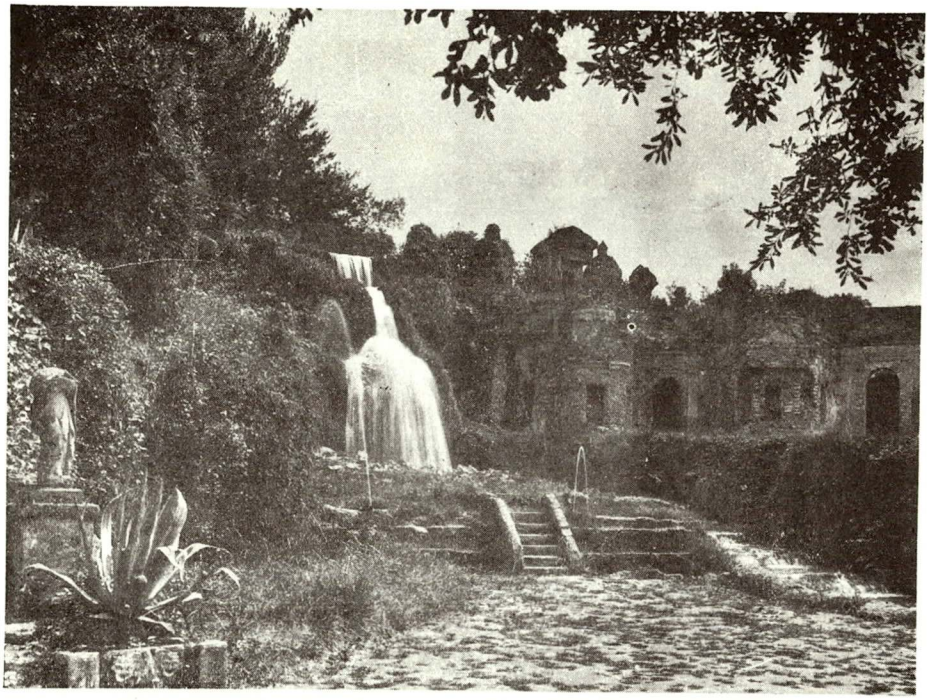


オルガノの噴水

ク期に於て、廣場に辻に、宮殿の外部隅角中庭（Cortile）の中央又は一部に悉く噴水を以てその場所の主要裝飾とし、市街に於ては都市計畫の大切なる部分を占めて居る。

ルネッサンの庭と云へば一面幾何的庭園の代名詞の如く用ゐられ、佛蘭西ではルイ十四世の時ル、ノールにより大規概に造りなさせられそれが歐洲一般の形式の手本ともなつたが實は伊太利別莊庭園の感化に外ならぬとも云へる。以て如何に歐洲庭園が伊太利別莊園の影響を受けて居るかゞ推想出來るが、その伊太利莊園は水が生命であるとすれば、伊太利の水がどんなにか、歐羅巴の美術に大なる影響を與へて居るかゞ分る。

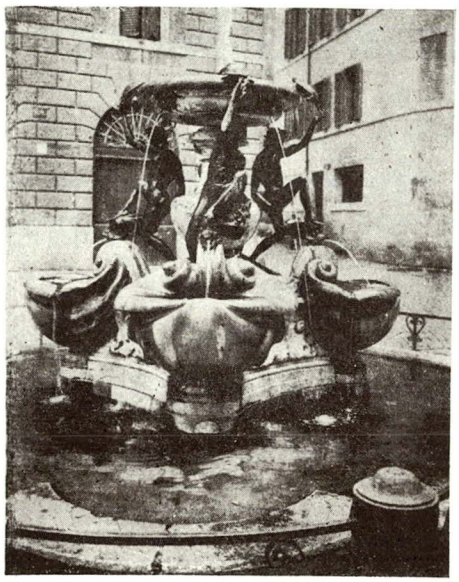
そして伊太利の各地にある大規模の噴水には裸體の彫刻があしらはれ、そこに水の飛沫を受けて居る樣は、誠に涼しげであり、裸もふさわしい。冬でもあまり寒いと云ふ感がせぬが、反之、北歐殊に英國等で冬、氷の衣を着た裸體の像が尚寒水をあびて居る姿が塵にまみれ彫刻であるとは云ひ狀、頗る悲慘な感じが起る、これは北佛北獨でも同樣である、而してこれが自然北歐殊に英國では裸體像の彫刻が裝飾としての用ひられ方が割合少い原因ではあるまいか、これを、冬は英にもまけぬ寒さと、雪や氷にとざゝるゝ我國に於て、裸



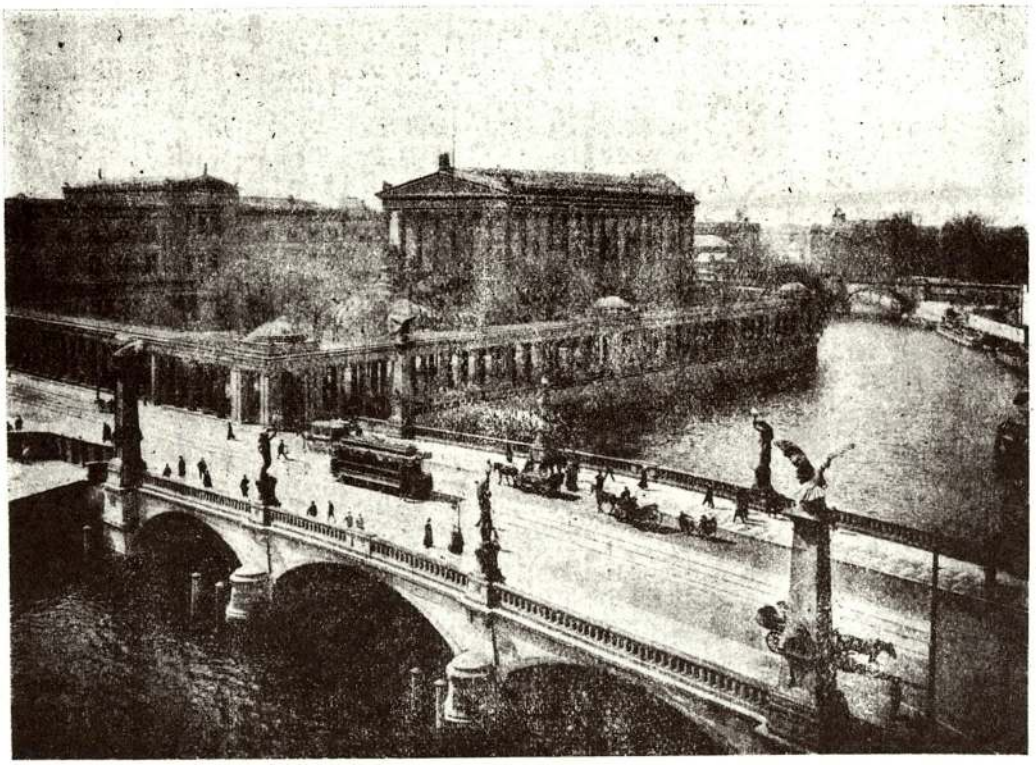
蹟廢馬羅・擬と龍・莊別のテエス・リボイテ

體でなければ、美術の眞髓は味はれぬと云ふ一部の美術家の議論と比較すると一寸妙な感じがする。

とに角伊太利や希臘の美術は一面その風土上から裸體美術が發達した自然を持ち、また年中の多くはそれ等を見て反て氣持よく感せらるゝのは氣候の然らしむる處、また水に惠れたる藝術を羨ましう思ふ次第である。伊太利の噴水と庭園の例はなかなか多數あるが、それを一々揚げるときまた眠くなるし切角、水について語れと云ふ協會の凉味主義に反するであらう、そしてだん〳〵、脫線して氣焰を擧げると更に暑さを增すわけであるから、語が一寸尻切とんぼ的であるやが茲でやめる。



羅馬



大阪の橋に就て

合名會社大阪橋本組社長
橋本政吉

現今世界何れの都市に於ても交通運輸機關の發達の程度如何は實に都市の繁榮のバロメーターと視る事が出來る、凡そ大都市を形成せる所の土地には必ずや大小の河が貫通しております、其れに依つて商工業に幾多の利便を與へるのみならず又以て都市の美化的要素となる譯で有ると思ひます、彼の有名なる倫敦「テームス」河、巴里「セーヌ」河、其他「ベルリン」、「ウキン」、「ブダペスト」羅馬、何れの都市を視ても大同小異で有りまして河の無き都市は殆んど稀有の事であります、我國大都市としては東京隅田川、京都加茂川、大阪淀川等の如きは最も適例である事は申す迄も無き事で有ります。

古來吾が大阪は水の都として八百八橋(誰かの想像)の稱ある程多數の橋が架つて居るのであります、而して斯くの如き夥多なる然かも粗雜極まる橋は現今何れの都市に於ても稀に視る所で有ります、往時河を渡るには渡し舟、肩輿又は貧弱なる板橋に依り夫れから段々に進んで木橋となつたので有ります、羅馬人は今から二千年も以前に石の橋を架けまして今に依然として使はれております、彼の廣重の繪に現はれた我國古來の欄干木造橋を嘆美する時代は過去の事にして近代都市の交通の激しさを加へると共にそうした木造橋は段々廢され石橋や强大なる鐵橋が架けらるゝ樣になりましたが夫も殺

風景なものが多數を占めて居る樣に思ひます、近來架橋せらるゝものは鐵筋コンクリート造等にて近代式のものに改築の道程に有る樣ですから其設計の仕方に依りましては鐵や石の橋が及ばぬ優雅なものが出來る事と思ひます、而して橋の型を區分して見ますと一、アーチ型、二、構橋、三、吊橋等で有りまして其の何れを選ぶかは交通上の關係土地の狀況に依り自ら實用と美との立場から將來の都市に相應はしい橋が實現したいと思ひます、而しながら此の美を表現せんために橋の局部の添飾物に就き研究する事も橋の美としては大切の事で有りますが其れより先づ兩岸の風物を取り入るゝか或は又其ものゝ改造も充分なる調和を計り始めて橋の美を表現する事が出來るので有ると思ひます、彼の倫敦テームス河、巴里セーヌ河に架つて居る橋の美しいのは橋其のものゝ巧みな出來榮へにも依る事ならんも一つには麗はしく構築されたる河岸との對境と橋とがシックリ調和した所に有るので有ります

歐米に於て橋と云ふものはシヴイックセンターに亞ぐ否一層に重要視しておる樣でありまして彼のロビンソンは「一つの橋を倫敦テームス河に架けようとするに當り其の橋は彼の有名なるセントポールの大伽藍が記念的且つ建築的重大なる意義を持つて居ると同じ重大さを持つて居るものである」と云つて居ります如く倫敦の橋は何れも巨費を投じ英國民の氣風を偲ぶべく莊重さが認められます、テームス河に架つて居る橋の內でロンドン橋は今より九十年前落成六ケ年の日數と貳千餘萬圓の巨費を投じしと云ふ又ウエストミンスター橋は今より六十年前落成五ヶ年の日數と四百餘萬圓の工費を要したと云ふ事であります、尙はタワー橋（ブヂ）は其構造の奇で倫敦名所となつて居ります、塔と塔との間は滿潮時でも船が航行する事が出來る樣になつております、此の橋は今より四十年前八ケ年の日子と七百萬圓の巨費とを投じて居りますとの事です、又巴里セーヌ河に架つておるアレキサンダー三世橋其他の橋々は二十五六年三十年以前に改築したもので何れも橋其ものは巧みな出來榮へは申すに及ばず河畔の風物と最も良く調和を保つておる點は世界無比で有ると思ひます、其他ウヰン及ブダペスト河畔の橋梁等は大體巴里に彷彿たるもので有ります、又伯林に美しき橋としてはシャロッテンブルグ橋、フレデリック橋、クルオユルステン橋等其他獨逸各都市の美麗なる橋は枚擧に遑ありません。

米國の橋に至りては歐洲のものに比し丁度摩天閣（スカースクレパー）の樣なもので有らゆる意味で醜惡の傑作と批評せらるゝ如くで有りまして紐育の橋は彼の有名なるブルクリン、マンハッタン・リインスボーロ、ウヰリアームスバーグ等何れも二哩內外の長さを有しブルクリン橋の如きは工費三千萬圓を要せしと云ふに至りては金と長さに於ては世界第一であります、從つて米國の橋は單に實利主義を目標として居る爲めに優美なる點を缺いて居る樣で有ります。

今や吾が大阪も日本の大阪で無く世界の大阪となつて居ります恰も中之島附近一帶の河畔は倫敦テームス河、巴里セーヌ河に匹敵する位置にありますから其の附近に架すべき橋、東に淀川天滿天神橋等に至つては都市の代表的の建造物として其れが改築に當つては愼重に考慮し最も進步した科學の上に立脚し實用と藝術的創意とを加味して大大阪を表現するに足る立派なる橋が出來る事を切望致します、尙ほ幾百の橋を改造築するに當り何れも實用と優美とを兼備したるものを造り之れに依り都市をして一層に美化的にせなければならぬと思ひます。



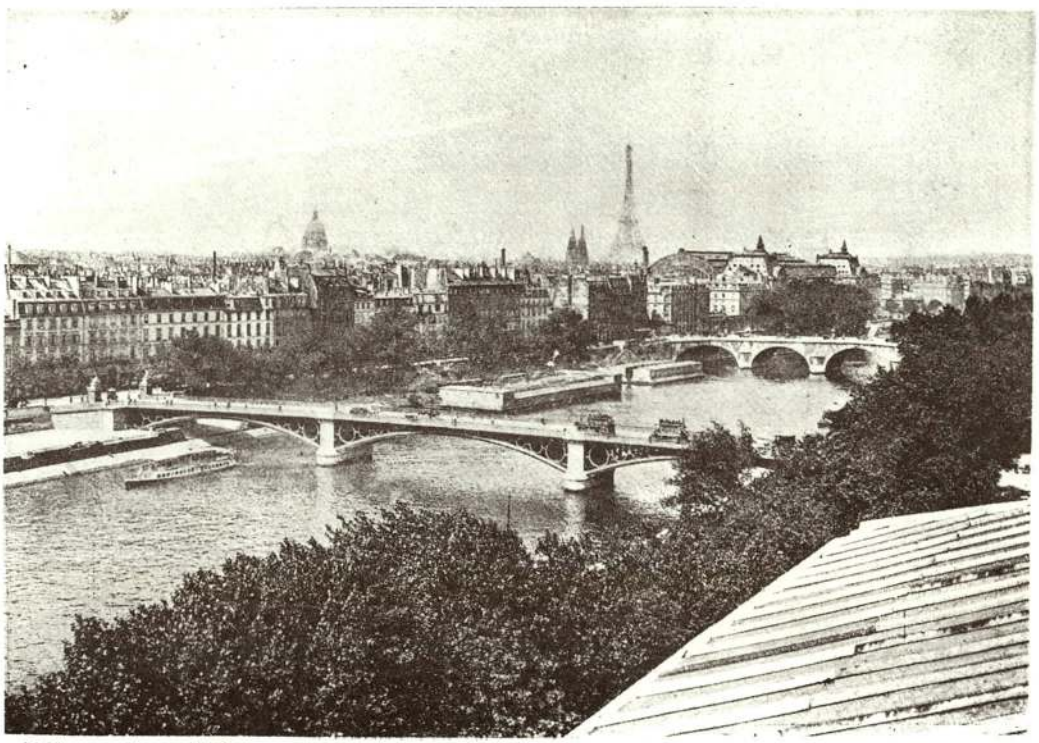
LONDON BRIDGE.



TOWER BRIDGE, LONDON.

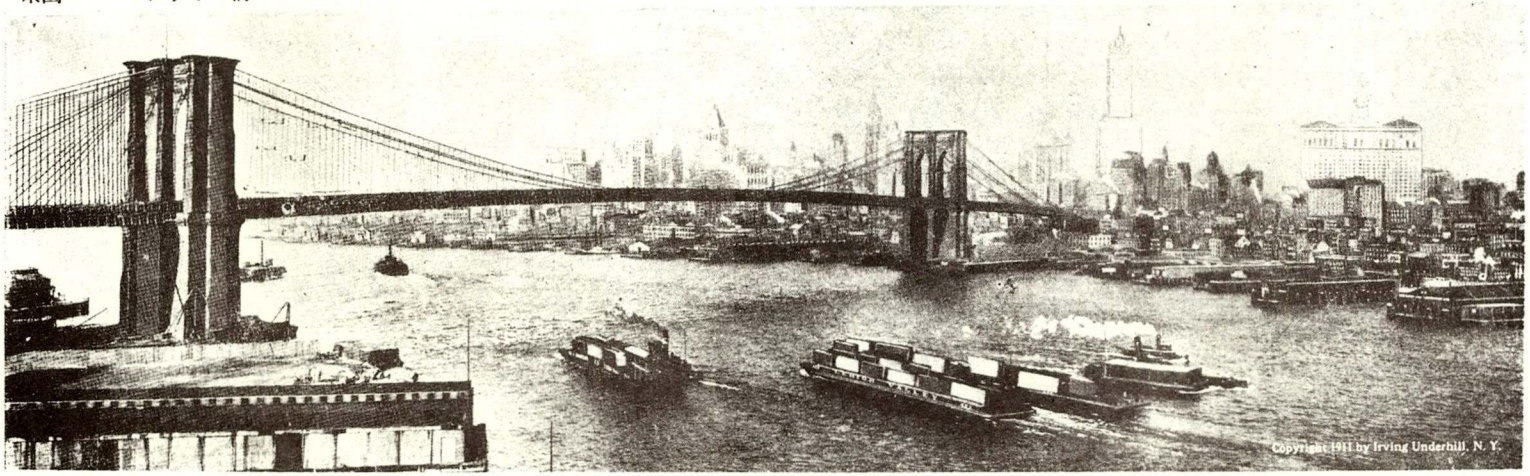


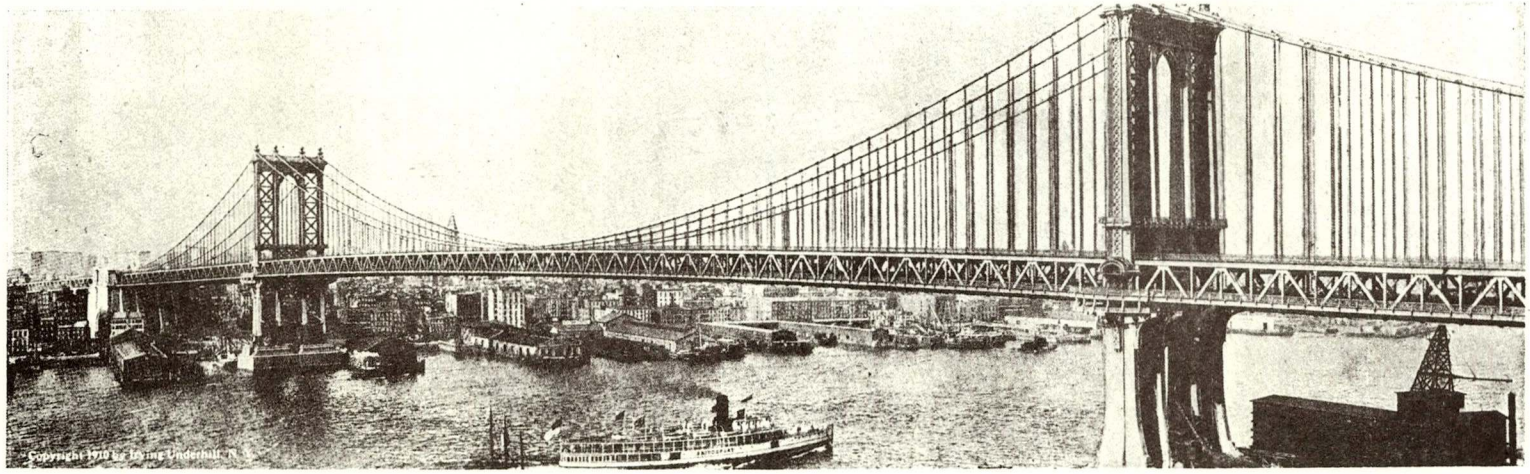
巴里・　アレキサンダー橋



巴里・　セーヌ河畔

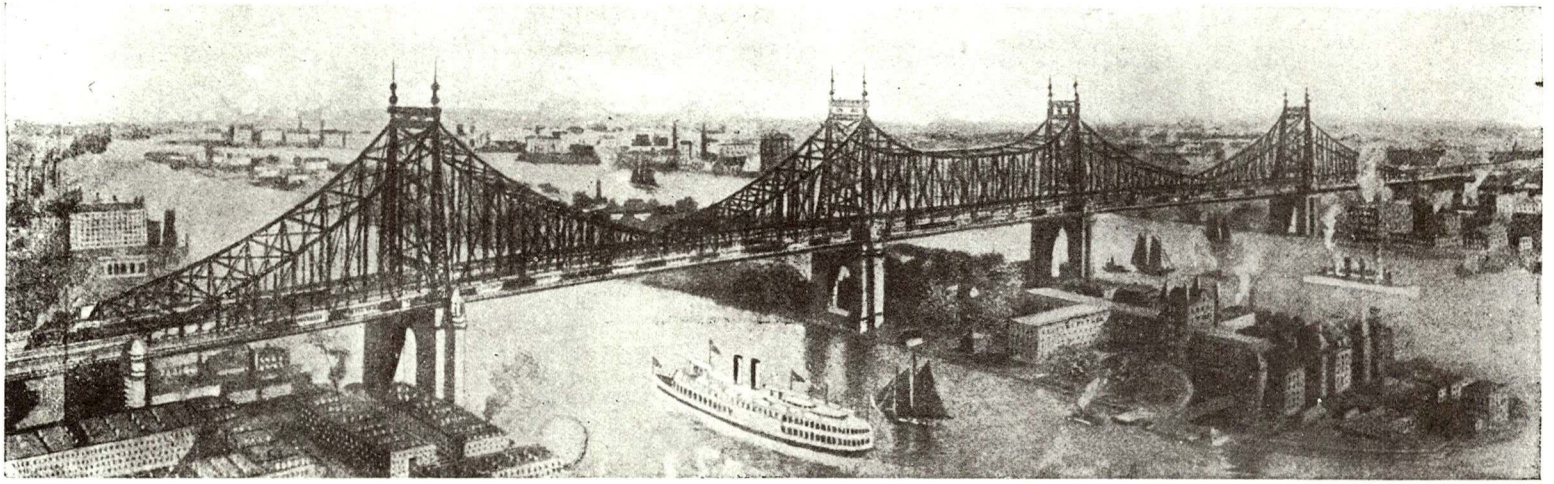
米國・　ブルクリン橋





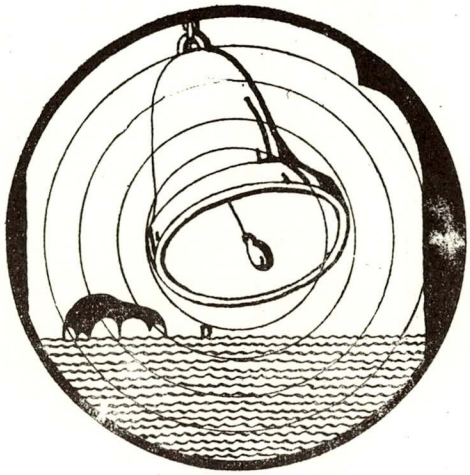
米國・　マンハツタン橋

米國・　ブラツクウエル橋





米國・　ウイリヤム橋



建築技術の進むべきみちと日本建築協會の將來

會員　八木幸次郎

社會的見地より觀た建築技術

私は建築技術者の一人として時々現在の一般建築家の營んで居る業務が社會的に考へて餘りに無力に出來上つてゐることを痛感させられるものである。然し乍ら此の考は或は良くないと考へなければならないかも知れぬが、未だ永久に此の考を捨てる勇氣が出ないのは何故かと云ふ事を考へて見た。

成程建築業務は人間の居る所必ず必要缺くべからざる重要なるものに相違ないが、その重要さに反比例して一向社會人に重要視される所迄行つてゐないのは何故であらうか。極めて簡單明瞭な例を擧げれば、或る技術者があつて或る家を建てるとする、家の建つ前迄は多少重寶がられる傾向も見えるが、出來て仕舞へばそれつきり餘り顧られない樣子が往々見受けられる所であると思ふ。是はつまり技術上の權威は生ずるが社會上の權威が生じないことゝ今迄は思つて居たが、技術だつて社會に缺くべからざるものであるから、權威なるものが一方にあつて一方に存在せぬ筈はないと云ふ事から考へて見ると、權威を認めない社會人が惡いのか、權威を認めさせられない技術者が惡いかと云ふ事に歸着する。所で自分は或時は前者とも考へ又或時は後者の樣にも考へて見たが、どうやら結局は技術者の方の努力が餘りに偏狹消極的で、社會と沒交涉な方面のみに力を入れ過ぎ、又それで可なりと考へて居らるゝ現狀が餘り感心せんことではないかと云ふ事がわかつた。

早い話が社會人に比較的交涉が多いものと見られて居る爲か醫者、文士俳優畫家の如きものは社會人でその名聲を知らぬ者が少い程知れ亘るが、我々建築家の名聲は是等の者と比較すると餘りに狹い範圍に光つて居るのが人間として物足り

ない感がする。

尤も建築と云ふものは一度建てれば永い間その儘となつて居て全く固定的のもので、人間の一壽命の間に一技術者が改善し改革するには餘りに大き過ぎるものかも知れない。然し乍ら社會人が使用する事は毎日である。建てる事に當るのは一回だけかも知れぬが使ふ事は毎日であるから、技術者として建てる事に重きを置くか、使はせる事に重きを置くか熟れが重大問題であるかをもつと愼重に考へる事が將來の殘された道ではあるまいか。

何故に建築技術者の業務が現在の如き消極的なものとなつてゐるかと云ふ事は御互に考へねばはらぬ事ではあるまいか建築業といふものは相手が生活に必要なる衣食住の中の一要素である住に關係するものであるから、範圍が廣く永久不滅の良職業であつて、その技術者として生活するには飯を食ふ意味に於ては誠に結構なもので、食ひはぐれのないものかも知れぬが、飯を食ふに困らぬ者には現在の模樣では少しも面白くないものかも知れぬ。自分の樣に飯も碌々食ひ得ない者でも業務が現狀の儘では消極的一點張のやうな氣がして何となく物足りぬ氣がして困つて居る。

こんな風な家を造つてくれ、へい宜敷うございますと云うて自分の好む所の形を造つて丈夫なものを建て技術の權威斯の如しと大見得を切つたとて、相手は素人だ何の事やらさつぱりわからない、ただ出來たから豫定の報酬を拂ふだけの事である。それによつて生活しこんなことを繰返して技術者仲間に顏を唱へて見たとて素人には少しも威張れないことゝ思ふ。自分はこの點を無味乾燥と呼んで見たいのだ。家の形位デザインとか何とか云うて喜んで見たとて、出來上つて一日過ぎれば飽きも來るし舊くもなる。いや飽きの來ない人は誠に幸福かも知れぬが、自分は同じ事を二度反復するのが何より面白くなく思ふ性質だかち、誠に面白くない。此の業務を何年繰り返した所で社會的權威等といふものは出來相にも思はれない。相手が素人でしかもその數が多い。從つて勢力といふものは數の多い方がある譯であらうから、何だつて建築技術者の仕事が賴まれて造ることに限られて居るのであらうか。尤も賴まれなければ造る譯には行かぬかも知れぬが、何とかして賴まれぬ前に造ることを考へられぬものであらうか賴まれてから造ると云ふ事では永久に權威は生じない。何となれば賴む方が立場が一枚上であることが普通だから。その上賴む方で建築といふものに理解がない者が多いから、良いも悪いも解らないのが尚更始末が悪く出來て居る。人間が御互に自己禮讃をやる傾向は將來益々盛となり、他人の云ふ事なんか鼻で扱ふ樣になることは明かであらうから、現在の樣に建てる事にのみ重きを置いて建てた後の事、それならまだしもだが使はせる事迄も少しも顧みないで、業務の遂行が出來るといふ事は既に時代遲れの考である樣に感せられる。

日本建築協會の進むべき道

こんな事を云ふのは頑迷そのものかも知れぬが、先ず一醉狂の空想として許されるとし、現在の建築家は悉く時代遲れの敗者と考へると、然らば如何にすれば時代にリードし得る勝者となれるであらうかと云ふ事を考へる必要が生ずる譯である。それには建築設計なるものが意匠と構造の結晶に過ぎ

ないと考へて居る樣な大部分の輿論は誤つて居るものと考へ新時代の建築家の進むべき道といふものは、如何樣に建物を社會人に使用せしめるかと云ふ事が設計上の根本問題であつて、藝術とか構造とかといふ物は從なるものであるといふ風に考へる事であらうかと思ふ。そうかと云ふて現在でも左樣に考へられて居ない譯ではないが、ただ現在の如く社會人を無智なものとして取扱ひ、建築は素人に解るかい乃公の建てたものでなければ建築にはならん等といふ樣な頭を持つて居る事が無智頑迷極まるものと云ふのであらうと思ふ。素人の奴が餘計な事を云ふ怪しからんと云ふのは、尤もな話だが怪しからんなんて憤慨させられる樣になる事・つまり素人なんかに餘計な事を云はれると云ふ事が、抑々建築家に權威がない事を立證してゐる事を自確せねばならぬと思ふ。

單に賴まれて良いと思ふ家を造る事にのみ苦心して居る樣では永久に餘計な事を云はれるのは當然過ぎる程當然で、建築家の方が使ふ人間を指導して建物を使用させる樣にならなければ駄目だと思ふ。建物の種類は多いし壽命は短かしそんな事が出來るものかいと云へばそれでも濟むかも知れぬが、建築家の數と壽命の年數を積分すれば實に大したものであるが。御互に短き壽命を持つて居る動物だ、それが各自別々な方向に動いて居れば纏まりがつかない事は當り前だ。建築を使用する人間は色々な種類なものが色々の用途に使用してゐる。それだから使ふ方の人間でも纏まりがつかないで實の所困つて居る事であらうと思ふ。建築家が使ふ方法を指導してやらねば纏まり相にもないが、不思議な事には共通の利益と云ふ點で曲りなりかも知れないが、建築家の設計が纏まるより以上には使ふ人間の方が纏まつてゐる。

日本建築協會といふ立派な建築家の團體があるが、その目標を建築と社會として居ると云ふ結構なモットーにより團結してゐるものが、建築學會の如き學術研究をモットーとしてゐる團體よりも御互に見劣りがするといふ樣な考を持つてゐる樣では、學徒が人間か人間が學徒か、社會が學術か、學術が社會かと云ふ事を、も少し大きな眼で觀察しなければならぬが、觀察したとて人間らしい事は解りつこはないと思ふ。學術といふものは社會に必要なものには相違ないが、社會といふものは學術が無ければ存在しない譯ではないし、學術といふものこそは社會がなければ存在する筈がない所を見ると、學術そのものにある權威よりも學術を取り容れる社會に權威があると考へたい。日本銀行で印刷した例の紙片だ紙片そのものに値打があるとは考へられないが、手に入れて使用して見ると成程値打ちがある。一皿何十圓かの料理を食卓に乘せる、見て居たのではわからないが、食ふて見ればその値打ちがわかり尙自分で造つて見れば尙更値打ちがわかるだらう。有髭の男子を惱殺するやうな美人、見て居るだけでも値打があるかも知れないが、手に入れて見れば尙値打があるだらうが、往々手に入れると値打がないのがあることもあらう。(筆者不幸にしてそんな經驗なし)斯の如く考へて見ると見て居る値打と使つて見て生ずる値打とは兩立しないものがあるかも知れない。建築なんか殊にさうかも知れぬ。見て得た値打使つて得た値打、見る物なら見て得た値打、使ふ物なら使つて得た値打をとるのが當然かも知れぬが、建築のやうな兩性のものはどちらを採らうか一寸考へる。見るといふ事は簡

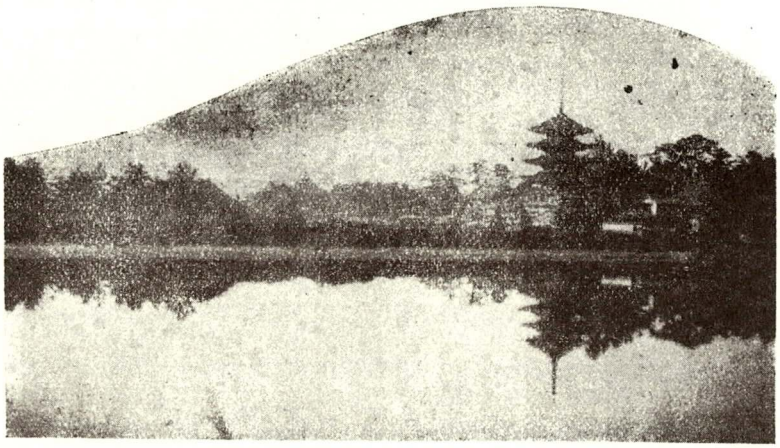
單だが使ふといふ事は面倒だ。建築は見る爲めに存在するのか使ふ爲めに存在するのか考へて見る。使はぬ物は先づ建てる筈がないと考へて、使ふ爲めに存在するものが見へると考へる方が人間らしい考へとすれば見て得た値打よりも使つて得た値打の方が値打があるものとしたくなるであらう。所が人間と云ふものは見て値打を感ずる方が使つて感ずる方よりも遙に鋭敏だけにらちが早い。殊に技術者に於いて然りであるが、所謂依頼者たる社會人は技術者の觀察とは大分異つてゐる樣だ。勿論使つて感するよりも見て感ずる方が鋭敏には違ひないが、見たとて値打の眞價が解る譯はない筈である上に、使つて得る所の經濟的價値といふものは深刻に感せしめられるのが普通だから、社會人殊に建築を建てんとする人々に對して活きんとする建築技術者は見て得る價値を云々するよりは、使つて得る價値を云々する方が遙に得策であるべきは論を俟たぬではないか。

社會は宏し如何に一個の建築家が頑張つたとてあらゆる種類の家を使つて見ることは愚か建てゝ見る事も出來ないではないか。故に此の意味に於いて多數建築家の團體で社會的意義のある日本建築協會の價値が存在してゐるのではあるまいか。協會の仕事が何故に學術研究や技術家倶樂部の如き狹き範圍を往來しつゝあるかと思つて見ると、狹き範圍は往來し易いからではあるまいか。然し乍らいくら往來したとて何等の收穫はあるべき筈はないであらう。何となれば狹いから。私はも少し廣き範圍を往來してもらひたいと思ふのである。何となれば自分一人では迚も宏き社會を自由に往來することは不可能と思つて居るからである。

賴まれぬ前に建築を造る、使用して價値のある建築を造る建築家が建築物の使用者を指導するなんと云ふ事を考へると建築と社會と云ふ言葉が如何にも面白さうな氣がする。そんな事は出來るかいと云はなくても出來る樣にすればよいではないか。

そこで自分は先づ考へた建築家が各種の家を使用すると云ふ事は到底出來ないことだから、常に各方面の人と連絡を取つて相共に使ひ方を研究することが一番近道で纏まつた曉には確かに權威ある案が得られる事と思ふ。工場は工場で各その用途によつて特種の間取と特種の造り方を要するし、病院學校事務所劇場悉く各特獨の使用上の要求があるに違ひないが、未だ參考になるやうな實際的の要求を聞いた事もない。勿論空理空論なら聞き過ぎる程聞いたが、我々はそんな物を要求するのではない事は御ことわりして置く。

私は茲に日本建築協會の繁榮を祈ると共に、も少し社會と密接なる關係を附けんが爲め、各方面の建築物の使用家側から希望なり不平なりを聽き集めて、一つの纏まつた報告全集を造り上げ、それにより社會的權威ある技術者の養成に努力せられむことを望んでやまぬものである。



水と建築

Y H 生

松杭は腐らぬものか

私は專門家の間より何等疑問とせられて居らない事で其以外の方々から、よく質問を受ける問題又は間違つて考へられて居る事柄で水と建築に關した事を思出すまゝ申述べたいと思ひます、建築の地業に松杭を打込む場合に木の杭が腐らぬものかとの質問をよく受けます、なるほど濕氣の多い場所にある木材例へば建物の地表に近き部分にある木材、木製の流し同井戸側等の如きものはよく腐朽します、然し不斷に水に漬て居る木材は腐らぬものであります。最も手近な例は木製の井戸側の常水面以下のものは腐朽しません、腐るのは常水面以上のもの丈であります、其內でも水際の部分は最も甚だしい事は多くの方々が古くから經驗せられて居らるゝ所で明白な事實であります、つまり交々乾燥したり濕氣を帶びたりする度數の多き場所のものは腐朽が甚しい、ですから木の杭は地中の常水面以下に打込で置けば永久に腐朽しないのであります、此事實は水を利用する一例であります。

水のもつ利害

此他に水は人間の生活上必要であると同樣に建築上缺くべからざるものであります、例へばコンクリート、モルタル、プラスター、漆喰等を作るにしても、瓦、煉瓦等の生地を造りましても又石材等を挽割るにしても猶此等の外種々の方面に多量の水が必要であります、同時に又水は吾々建築家に取ては大なる敵であります施主から聞く小言の大部分は雨が漏るとか濕けるとか朽るとか云ふ事で水に關係した事柄が多くあります、其原因は明瞭でありながら隨分惱まさるゝ場合が多い樣に考へます。

元來吾國は雨量多く又夏季に於て空氣中の濕氣は世界に於て其例なき程多量であります故に之に對する豫防はかなりの注意を必要とします、建物に對する濕氣は下より吸上るものと上より降るものと横より吹付るものと三方面あります下よ

り吸上るものは地水でありますが地下室なき場合は一階床下の部で之を遮斷し地下室ある場合は地下の壁體全部を防水層により保護する必要があります、上部より來るものは多く雨露で之は屋根を以て防止すると同時に横から來て壁を傳ふものとは所々に水切を附して可成壁面を傳ふ量を少くする、尤も壁面が濕氣の吸收量少き材料を以て覆はるゝか又は内部に適當の濕氣止を施した場合は別であります、普通のコンクリート、又はモルタルは水を浸透します、効力の多い防水劑を入れ適當に施工したものは別でありますが夫でも多くの場合肉眼で見えぬ様な小壁が出來て矢張水を浸透するものです、コンクリートの陸屋根の上を防水劑入のモルタル塗にした様なものは雨が漏ります。

木造文化住宅と濕氣

近來澤山出來る所謂木造の文化住宅は土臺は勿論壁にも何等濕氣止を施してない様に見受ます如斯は其構造材を早く腐朽せしめるのみならず衛生上の見地からも宜しくありませぬ少くとも是等の部分にはビルデングペーパー又はアスファルトフエルトの類を以て濕氣止を施したい又コンクリートの場合は床下に當る壁の一部にアスファルト又は防水モルタルのダンプコースを施し壁は外側に充分なる防水的被覆なき限り内側にホロータイルを貼るかプラスターボンドの類を塗る事にしたいと思ひます、前にも申述べた通り吾國は雨量多き關係上普通の場合庇の出を多くするのみならず所々に水切を附して雨水の壁を傳ふ量を少くする必要があると思ひます。又夏季に於て殊に多量の濕氣ある關係上各種の黴菌の發生延慢に好適であるから建物其物の各部は勿論、室内、床下、天井裏等の隅々に至る迄可成通風をよくして出來得る限り濕氣の停滯を防ぐ必要があります、尤も土藏等の場合は梅雨期等には是を密閉して濕氣の浸入を防ぐ方がよい事もあります、是は第一に衛生上の立場からと第二には建築材料を菌害蟻害等より免れしむるに最も必要な事です。

近來近畿地方に於て中等以上の木造建築で蟻害を受けたもの多々ある事を耳にしますが此地方に發生するものは主として大和白蟻で家白蟻の如く猛烈なものではありませぬ、從て多くの場合木材等が先以て細菌の爲其組織を破壞され脆弱となつた部分から喰入るものでクレオソリウム等の防腐劑を用ゆる外蟻害を防止する點から考へても必要な事です。

以上の外吾國の建築は其設計施工に當て雨量多き事と夏季に濕氣の多き事とを念頭に置て使用材料の選擇、間取及各種の開口の位置大さ等の決定其他材料の保存等に對しても出來得る限りの施設をなす必要があると考へます。



水橋閑筆

佐古慶三

一 戎橋緣起

四百四橋は今も昔も水都の衿である。大小幾多の橋は皆それぞれに、とりどりの緣起をば持つてゐる。わけて天滿、天神、難波の三橋は、浪華三大橋として世に著名である。がこの戎橋も亦入氣者の隨一。それと云ふのも道頓堀の芝居町と江南の遊女町とを結びつけてゐるからであらう。尙更に南すれば十日戎で名高い今宮の惠比須に通じ、北すれば小賣とこゝろの橋筋を控へてゐるからでもあらう。單に橋筋と呼べば直に戎橋筋だと、萬人ともに合點する位賣込んだもの。丁度大師は弘法獨りで食つて了まつて居るやうに、數ある橋筋はてんで駄目。

その戎橋もいつ頃架けられたか所傳不詳。さあれ明曆年間の新版大坂之圖(1)に既に見えてゐるところから推察するに、道頓が道頓堀川を開鑿して間なく出來たらしい。橋名戎橋は「今宮戎の參道に當る—出據社名—(2)」より起る。一時は操橋と呼ばれたこともあつた。橋の南に竹本の操り芝居があつたのに基く(3)。元祿の增補大坂圖(4)には歷然と操橋と載せてゐる。今の浪花座はもとの竹本の跡。其後慶應三年八月八日附達を以て、爾今永成橋と唱替ふ可き旨下命してゐる。けだし將軍慶喜が英佛米蘭の四國使臣と大阪で引見以來、戎は夷と同音であるの故外國に憚かつたもの。かゝる幕吏の律義なる考慮に機宜なる取計ひ扱、一寸感嘆せしめる。だがやつぱり戎橋の方がよいと見ねて、今に戎橋と呼ぶ。反之、その際梅本町と改稱された戎島町の方は、今では舊町名戎島町(5)を知る人は極めて少からう。

それほど戎橋は永年賣込んだ老舖である。恐らく鮑江の流盡せない限り、よし木橋が耐震耐火的な混凝土橋とよそほひ更へしても、戎橋の名は人の口の端に上るであらう。

〔註〕(1)拙書明曆新版大阪之圖(希有第五輯其二)參看

拙書古版大阪地圖聚成（希有第五輯其一）參看
(2)拙書大阪橋名考（けふ其二）
(3)同斷
(4)拙書古版大阪地圖解說所收挿繪參看
(5)同町名稱呼の由來は、拙書大阪町名考（希有第十一輯）

二　橋畔今昔

拂面黃塵滃渤生　　夷橋南畔萬人行
昇平不必簫韶樂　　唯在劇場絲管聲
廣瀨旭莊

橋と梵天橋とは架橋以來水魚の續柄を有つ。抑も筋は「北は心齋橋と遙に相通じ、凡そ劇場を觀るの客多くは此の橋を渡る(6)」。從て橋筋が小賣どころであり、夙に延寶より小間物三味線、笛、尺八に名ある所以(7)も諒解出來よう。それに橋筋は五感悅樂の兩極をば連絡する最短線を造る。蓋し橋筋を北上すれば順慶町の通りは、古來夜見世で有名。其の繁盛は名所圖會にも唱はれ、更に「順慶町夜店詠狂歌夜光玉」(8)となる。その井戸の辻(9)を過ぎ新町橋を渡れば、坂地唯一の傾城町。歌舞の菩薩の別天地に入る。されば橋筋はLの縱線、順慶町はその橫線、首點が戎橋で止點が新町橋に恰當するか。

加ふるに橋畔には、竹本義太夫に近松門左が滿都の子女をしてその袂を絞らした竹本をとつかゝりに、「竹田唐操を見ねば大阪へ來りし驗なし」(10)と、遠つ國人までに知られてゐる竹田に至る、淨瑠璃、歌舞妓、舞、說經、唐操(11)がある外に、尙江南の妓邑をば控へてゐる。地は白人の本場で戀の重荷の十刀島之內との定評がある位。太夫を櫻に譬ふれば白人は牡丹にも比すべき。「華美にしてしやんとして、とりわき花の富貴なるものにして、名に高き判官の露をふくむ花のもとに、戲れ離れがたくもより添ひてねむりを催す有樣に」(12)又格別の風情があるらしい。

さればこそ明治十一年頃でも、このL線は市中での目拔きの一等地であつた。全市を五百等に區分した課稅等級でも、

一等　心齋橋順慶町南西角　　八等　心齋橋順慶町西北角
　　戎橋南詰東南角　　戎橋北詰東北角
六等　心齋橋順慶町東南角　　十一等　戎橋北詰西北角
　　戎橋南詰西南角

〔註〕二等乃至五等、七等　九等、十等は闕算

と最高位は孰れも戎橋々畔と順慶町心齋橋筋の角。就中興味のあるのは心齋橋順慶町東北角が、ずつと下つて八十六等となつてゐること。それ東北角はL線の外角に當つてゐる爲、行人の寄付が內角の西南角に比較し、極度に劣つてゐるのを有力に物語る。二十二等（十二等乃至二十一等闕等）以下百等迄十四等の內、二十六等の日本橋南詰五十一等、九十一等、九十七等の天神橋北詰附近の四筆を除外せば、他は悉皆橋筋で獨占してゐる。L線の盛況は到底今日の比ではない。反之堺筋は漸く二百九十一等に南久寶寺町四方角が見え、北濱取引所の邊が四百四等とは、全く隔日の感がするであらう(13)

(6)大阪繁昌詩所引
(7)拙書難波雀（希有第六輯其一）
(8)浪速叢書第十四所收
(9)稱呼の由來は拙書大阪町名考
(10)攝津名所圖會
(11)延寶年間に於ける各名代は拙書難波雀に詳記

(12)盧實柳巷方言所引31

(13)拙文南區の地位(南區志編纂掛調査報告第二冊)に詳述、乞參看

三　橋名詮索

橋がさて新規に架けられると、關係者はすぐさま橋名をば何にとしたものかと首をかしげる。緣起を祝ひ吉凶を卜し、とつおいつした擧句　様々な名前が橋に與へられると云ふ段取。橋を架けた人の名に因むこともあらうし、時には下を流れゆく水の名に取ることもあらう。橋筋に當る町名地名をも引けば、時には近在の社寺名水の名をも擔ぎ出す。其他池名藏名、鳥名、以下等々と千紫萬紅、恰かも親達が其の子に名前を附けるのと同樣に工夫を凝らすのである。中には暫時として置いた假の名が永久になつたのもあれば、考へ飽ぐむだ果、竟に名案が浮んで來なかつたことを告白せる思案橋なんてものも飛び出す。(14)

かくて洒落れたのも凝り過ぎたのも、粹なのも野暮なのもあつて、然も其名が實の實であつたり、又なかつたり。折角の相合橋が名前まけして緣切橋ぢやと粹筋に嫌がられ、蜆橋が廢橋後も案外に懷しがらる。實に凝つては思案に餘るの慣はし。

(14)先人の橋名詮索に關する腐心の跡は、拙書大阪橋名考にあらかた網羅してある。

四　車通行止

維新前橋は出來る丈け人や車をば通さない樣に苦心したもの、殊に公儀橋より町橋の方が甚しかつたと聞く。と云へば元來橋は人車の往返を便にする爲に出來たものなるに、戯言も亦甚しと今人は恐らく呟くであらう。

だが事實わざと橋を高くしたり、弓形にしたりして、可及的に人車の往來を回避したことには間違がない。わけて車などは一切橋上を曳いては通さなかつた。祭禮の地車(だんじり)べか車なんど殊に重量のあるものは、御觸で之れが通行を差止めてゐる位(15)。その理由に「往來人の妨に相成、其上橋々損強、橋懸りの町々難儀の趣相聞候」(16)とある。極少數の橋を除くの外は凡て橋掛町と稱するそれぞれの負擔區(17)があつて、一橋の掛替、修復、掃除其他一切の責任を擔ふ。故に現在の如く一律に市の經濟に屬し市費で支辨されてゐるのと全然事情を異にする。唯官費を以てせられてゐたのは鳴野、京、野田、備前島、天滿、天神、難波、高麗、本町、農人、長堀、日本橋の以上十二橋(18)。之れを公儀橋と呼び一般の町堀と差別した。わけて町橋が人車の彼來を嫌がつたのは、その橋の掛替、修復の負擔を恐れるためである。乎素でも橋の掃除は克明にする。塵や泥が溜ると從て橋が腐る基となるから。

で厄介でも車は橋の詰へ來ると先づ積荷を下し、車は車積荷は積荷で別々に　橋向へ運搬しそれから再び車に荷を積んで曳くと云ふ段取。從て車も今と違つて二人曳が普通(19)。同じ理由で橋上の出見世も御制禁であつた(20)。そして橋番の爲に特に橋詰に髮結床が設けられ、橋上橋詰の警戒に當る今日でも髮結床が橋詰に多いのは昔日の形身。

(15)寶曆六年御達安永三年御觸

(16)安永三年御觸

(17)この戎橋では菊屋町、本堺町、木挽町南三丁、同中之町、同北之町、錺屋町、本京橋町、本相生町の八町。

(18)極く古いところでは七橋、前掲難波雀では鳴野、野田、備前島、天神、難波橋が除かれてゐる。

(19)守貞漫稿、街陋噂に軽車の圖所載。

(20)享保十七年御觸

五　入費賦課

橋の掛替、修復、掃除其他の橋掛りは、凡て町役として取立られ間口割即ち間口間數に應じて割付られる。さり乍ら橋掛町全體に就て等額の間口割を徴收するものでは決してない戎橋なれば菊屋町と本町とが橋一町で最も關係密接であるから、元掛又は本掛と稱して負擔殊更重く、爾餘の橋掛六町は順次一割落しの段落で、橋から遠くなるにつれ次第に遞下して行くのである。尚菊屋町でもその北半兩側五十七間は南半兩側六十五間と比較すれば多少關係に疎遠の開がある故、元掛とならないで一般の橋掛町の並。今左にその比率を掲記すれば、

菊屋町	南半兩側	六五〇	元掛
同	北半	五七、〇	段落右一割落
木挽町	南之丁	八三、五	同斷
木挽町	中之丁	八〇、〇	同斷
木挽町	北之丁	八、五	同斷
銚屋町		七九、〇	同斷
本堺町		二六四	元掛
本京橋町		四〇、〇	段落右一割落
本相生町		四〇、〇	同斷

一、〇〇〇〇〇	
〇、九〇〇〇〇	
〇、八一〇〇〇	
〇、七二九〇〇	
〇、六五六一〇	
〇、五九〇四九	
一、〇〇〇〇〇	
〇、九〇〇〇〇	
〇、八一〇〇〇	

更に戎橋には他の町橋と違つて四つ角四町矢倉四つてふ特異な割方がある。餘内銀の亞流で戎橋と甚深の交渉を有つものが義務的に出銀するのである。即ち角四町とは南北橋詰の角に位する宗右衛門町、久右衛門町、九郎右衛門町、吉左衛門町で、矢倉四つとは芝居矢倉を指す。餘内銀とは一種の補助金で掛替の場合など多額の入費の折に、橋掛町以外の町々から好意的に喜捨を受けるもの。

一例を安永三年九月の戎橋掛替入費の賦課に見るに、

總入費		一〇、八〇七、三八
廢物賣却		五〇四、〇〇
差引銀		一〇、三〇三、三八
三十三町餘内銀受入		四一九、一〇
再差引銀		九、八八四、二八
橋掛町出銀(1/2)		四、九四二、一四
四角四町矢倉出銀(1/2)		四、九四二、一四
(内除矢倉不足)		(一、二三五、五三四四)
橋掛町補銀(1/8)		六一七、七六七二
四角四町二矢倉補銀(1/8)		六一七、七六七二
内菊屋町南半		八六〇、二〇〇〇
菊屋町北半		六四八、九四五〇
		一、五〇九、一四五〇
計二口		

しかるに「戎橋大修復諸入用當丁割方銀集帳」(菊屋町本)では、菊屋町の出銀は一貫六百四十二匁一分二厘五毛とあるから銀高に相違を見る。けれども「當橋修復並諸入用割方餘り銀丁内に割戻し勘定帳」(菊屋町本)に、其後十二月五日附で月行司より右剩餘銀の割戻しを行つてゐる。そして間口、銀高、人名を列記し銘々それに領收の印形を押捺してゐる。それで銀高不同に就ての疑は氷解しよう。

すると大阪昔時の徴税は(少くとも橋掛入費に就て云へば)個別的に履行せられてゐたこと、及び一々清算を完了せねば滿足しなかつたこと、尚餘内銀と呼ばれる自發的出銀を俟つたこと等、現在のそれと較べて世相推移の著しいのに、誰か一驚しないものはなからう。

(21)拙文安永度戎橋掛替入費の賦課に就て(大大阪第三巻第四號所載)乞參着



河岸地の利用と建築

會員　池田實

考へられなかつた河岸地の利用

河岸地を如何に利用すべきかと云ふことは、都市の問題として相當考究せらるべきものであるが、殊に我が大阪市に於ては多數の河川、或は掘割などが存在する關係上一層其の必要があるものと考へられる、然るに、從來は其の點に付て餘り考へられて居らなかつたやうな氣がする。

ずつと以前の事を考へると、河岸地は殆ど其の全部が建築敷地として利用されて來たやうであるが、其の後大阪市の道路の幅員を擴げる必要が生じて來たのと、又電車を敷設する爲に、道路を新設し、或は擴張すると云ふやうな場合に、深く留意しないで、唯土地の買收と云ふ事が比較的簡單であると云ふやうな意味に於て、此の河岸地が多く道路に取入れられ、そして其の建築敷地たる事を失つてしまつたものが處々に見受けられる、其の結果を見ると、從來は河川の兩側に建物が存在して、互に其の裏面を向ひ合はして居つた爲に、餘り人の注意を惹かなかつたやうな點までが、一方の河岸の建物が取除かれて、對岸のものが殘つて居る爲に、其の建物の背面を見る事になり、それが相當なものであれば、敢て差支ない譯であるが、多くは例の裏面であると云ふ理由の下に、洵に見苦しい狀態に在るものを、新に開かれた道路に面せしめるやうになる、其の點は都市の美觀と云ふ事から考へても甚だ遺憾に堪へない次第である。

河岸は如何に利用すべきか

一體河岸地は道路敷地とすべきか、又建築敷地とすべきか或は其の他の敷地として利用すべきかと云ふ事は、種々の場合に應じて適當に考慮を拂ふ必要があるのであつて、其の細かい事に付ては色々な議論の餘地があらうと思ふけれども、今其の大綱に付て自分の意見を述べて見ると　例へば堂島川

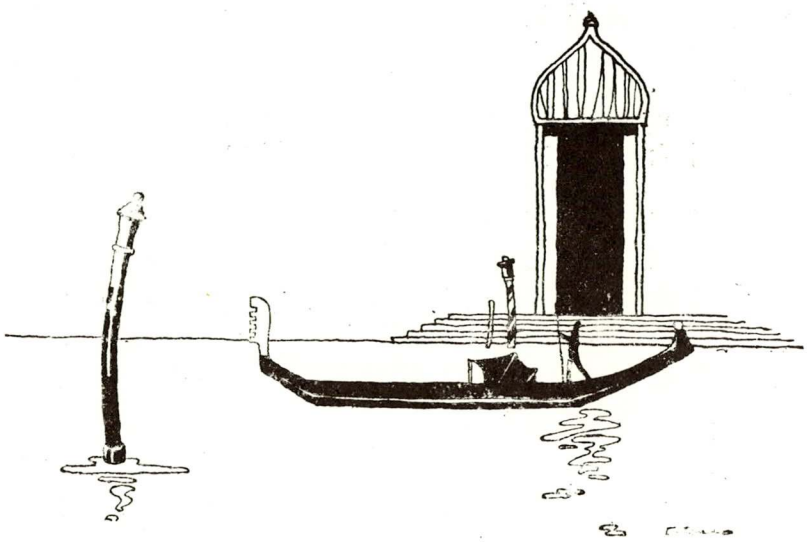
或は土佐堀川の如き大なる幅員を有つて居る河川に對しては其の兩岸は之を道路として利用し、其處を通行する者に快い感じを與へるやうにすることが寧ろ適當ではあるまいか、それに付ては其の河岸道路の最も河に近接した方面の或幅員の間は適當に樹木を配置して、遊歩道の如き形式にしたならば一層好都合な事ではなからうか、尤も一面に考へなければならぬ事は、廣い河自體の兩側に又道路のあると云ふ事は、氣流を一層激しくすると云ふ一つの缺點が伴つて來るのと、又其の河岸道路を餘り廣くすると云ふことは、其の道路に對する建築物が片側のみに限られる爲に、道路の利用と云ふ方面から云へば、一つの缺點になる、從て其の道路は餘り廣い事を希望しない、或は現在の堂島川の左岸の如き、之に電車を通ずるが如きは最も避くべき事である、又幅員の狹い河川に對しては、其の河岸地は兩側とも原則として建築敷地に利用するのが適當であらうと思ふ、それは建築の立場から云ふて河川を以て相當な空地代用として利用も出來、從て採光、換氣と云ふやうな點に於ても便宜である、併し之に付ては其の河岸地の奥行が從來の如く餘り淺過ぎるのは最も遺憾に思ふ寧ろ普通の場合よりも少し深過ぎる位の敷地を取るやうにしたいものである、尤も從來既に存在して居る河岸地の敷地を新しく奥深くすると云ふ事の爲に、道路を附け換へるとか云ふやうな事は、望んでも一寸得難い事とは思はれるけれども新開地の方面に於て建築敷地の區劃整理などを爲す場合には多少の參考となるものではあるまいか。

商業都市の河岸

もう一つの問題は、大阪市としては所謂商業都市であるだけに、貨物の集散と云ふ事が都市計畫の重要なる部分を占めて居る、それに付ては相當な倉庫などゝ云ふものは當然河岸地に接して造らるべきものである、先にも堂島川の左岸の例を引いたが、堂島川の左岸は廣い道路として利用され、而も之に電車が通されて、それを越した所に大なる倉庫を數多く控へて居る、從て堂島川から、それ等の倉庫に多數の貨物が搬入され、又は搬出される場合、或は鐵材其の他の長さ數間に亘るやうな非常に丈の長い材料の爲に、一面電車、自動車等の交通を妨げ、又一面それ等の貨物の集散それ自體に於ても不便が少くない、斯う云ふ點に付ては何等かの方法を以て其の救濟を考慮することが必要であらうと思ふ、で、根本的に云へば、あの電車線路は中の島の中央を縱貫して貰ひたかつたのであつて、前述の意見から云ふて、土佐堀川にも、堂島川にも何れも其の河岸地に接して敷設すべきものではなかつたと思ふ。

醜くい背面

尚ほ初にも一寸述べた事であるが、建築の前面とか、背面とか云ふことも、常に道路に對する前面としてのみ、相當な裝飾を加へ、相當な形式を保つやうにばかり考へられて、陸上と水上との差こそあれ、是亦一種の交通路である河川に向つての、所謂建物の背面が殆に醜惡を極めて居るのが一般の實狀であるが、將來の建築に於ては、其の方面にも相當の美觀を具へるやうにする事が、建築主並に工事關係者に於て最も注意せらるべき大なる事項の一つであると私は信じて居る。



子供の嬉ぶ徒渉池

―夏の子供に惠まれたパラダイス―
―その徒渉池の設計と管理に就て―

會員　方米治郎

□

夏の水遊び場に餓えてゐる都市の兒童にとつては僅かな面積に水を淺く湛えた丈の徒渉池でも、それが砂漠の中を旅行するキャラバンがオアシスを嬉ぶやうにそれ程大した歡嬉を以て迎へられつゝあるのである。試みに大阪市の公園課の手で一昨年から扇町公園の一隅に造られたあの兒童徒渉池を訪ねてみられたならば、誰でも恐らくその盛んなことに驚かれるだらう。赫々と照りつける陽光の下で數百の兒童が嬉々として愉快な水遊びに餘念のない有樣を見られたら、定めてこうした惠まれた遊び場所がモット市内の各處に欲しいものと痛切に感せられるだらう。近頃市内の各中等學校や小學校が

競ふて遊泳プールを設ける趨勢があるが、水陸兩方面に亘つてスポーツ熱の旺盛な今日としては之又當然なことではあるが洵に欣ばしい傾向である。

距離に於て都市の兒童が遊戲場として小公園を利用する範圍は種々調査研究されてゐるが、普通は五六町位が最大限とされてゐて之が所謂有効半徑或は誘致半徑と呼ばれるものである。從つて徒渉池利用の兒童の如きも當然この範圍内の近隣居住の兒童が大部を占めてゐるから、所詮財源の許す限りは市内各小公園にもこうした設備が欲しいものである。

最近に調査された前記扇町公園内徒渉池使用の兒童の所屬小學校によつて考察すると、こゝに來る兒童の大半は同公園を中心として四周に散在する各小學校の學童で即ちこの公園の誘致半徑内に居住する者が多いことゝなる。左にこの調査表を借りて掲載してみやう。

徒渉池使用兒童ノ學校及學年別調査表

學校名	男兒 一年	二年	三年	四年	五年	六年	女兒 一年	二年	三年	四年	五年	六年	合計
北區濟美第一	一二	五二	二〇	〇〇	〇〇	〇〇	一二						
同 第二	二一	一〇	八二	〇〇	二〇	〇〇	五二						
同 第三	一五	〇七	二〇	二二	〇〇	〇〇	一九						
同 第四	二五	三九	四三	三一	〇四	二〇	三六						
同 第五	四三	〇八	二〇	〇〇	一〇	一四	一二四						
同 第六	一六	六〇	三二	〇〇	一〇	〇〇	一九						
堀川	一三	二三	六一	三一	〇一	〇〇	二一						
西天滿	六八	三八	四二	〇〇	一一	三一	三七						
曾根崎	〇二	一二	八〇	〇〇	〇〇	〇〇	一三						
東淀川區	一一	一〇	二五	〇四	一四	一〇	三〇						
豐崎第一	一一	一五	七一	一〇	〇五	四〇	二六						
同 第四	一一	一八	二二	一三	〇〇	〇〇	一九						
同 第五	〇一	一〇	一二	〇〇	〇〇	〇一	六						
其他	〇一	一〇	一二	〇〇	〇〇	〇一	六						
合計	二〇四	二五	二三	五一	二〇	一〇	三一	五一	六一	四一	八一	二八四	

附記

一、本表は昭和二年七月十六日午後一時に調査せしものにして當日は好晴、氣温も前日來の晴天續きに昇騰して三十二度に上れり。

一、各小學校の所在地は公園との距離三町乃至九町にして平均五六町となる。

一、本表以外に當日來浴せし不就學の幼兒（四歳乃至七歳のもの）は男兒一三人女兒九人を算す。

□

徒渉池（或は渉水池とか水庭とか稱してゐる）（ウヲーデヤンプール）は遊泳池（スヰミングプール）よりは深度に於て數等淺い丈、その構造も簡單で施工費も遙かに安く管理も容易で危險は絶體になく、その割合に兒童に興味を與へることが多いから、先づ實施し易いこの徒渉池の增設から提唱しやう。

徒渉池の形狀は大別して次の二つに別けることが出來る即ち

一、整型式　（大阪扇町公園にあるもの）

二、不整型式　（東京芝公園にあるもの）

そして前者の方が一見單純過ぎるやうであるが實際上の利益が多く、外觀上では後者の方が一寸面白味があつて子供も欣ぶやうであるが、使用上の便宜からは何と云つても整型の

ものが勝つてゐるやうである。勿論附近との調和如何と云ふことも考慮に入れた上で、その様式を何れかに決定すべきであるが成る可く整型のものを造らるゝやうに御薦めして置く試みに今この両者の長短を表にして比較してみるならば

○整型のもの	○不整型のもの
風致的に面白味少し	變化ありて風趣に富む
管理上掃除に便あり	曲直交錯して掃除に不便
子供の遊ぶに危險なし	好奇を以て迎へるも危險率多し
工事費比較的少し	材料手間共多額を要す

池の大さは先づ最小限三十坪以上で大きい方は三百坪位でも結構であるが普通は先づ七八十坪もあれば二三百人位迄は收容出來て適當の大さと云はれやう。東京の芝のものは百十四坪（内水面積三十七坪）で大阪の扇町のが九十八坪で少し小さいがその代りに水面積は六十六坪あるからこの方が實際は大きいことになる。深さは七八寸乃至二尺位が標準で年齢によつて多少の深淺差を設けて變化をつけることが必要である然し二尺以上は幼兒を共用せしむる場合には聊か危險の憂が加はるからこの點を考慮せねばならない。

附屬設備としては足洗場、更衣所、飲水塔、シャハー場、監督所等が欲しい。芝の方は殆ど之等の各施設が完備してゐるが扇町では未だ揃つてない。

水源は兩者とも上水道に求めてゐるが、若し上水道の給水を得られない地方ではボーリングとか或は清冽な河水とかを導いて計畫せねばならない。水利の惡い場合には循環裝置にして砂礫や木炭層濾過の方法によるとか或はクロール滅菌淨化法によるとか適當な方法によつて處理すれば溢水をも再び使用することが出來る。

それから徒渉池に上屋を設けたものがあるが之は寧ろ無い方がよいやうである。元來水遊びは炎々と焦げつくやうな日照の下でやつてこそ保健的効果の多いものであるからこうした日蔭の必要はないと思ふ。又接近して砂遊び場を設けることも却つて水を汚す因となつて失敗を來すから避けた方がよい。

□

徒渉池設計の一例として扇町公園内に設けてあるものに就て、その設計工事書の大要を抄記してみやう。

一、大さ及形狀

總面積　九十八坪五合（此内水面積　六十六坪五合）

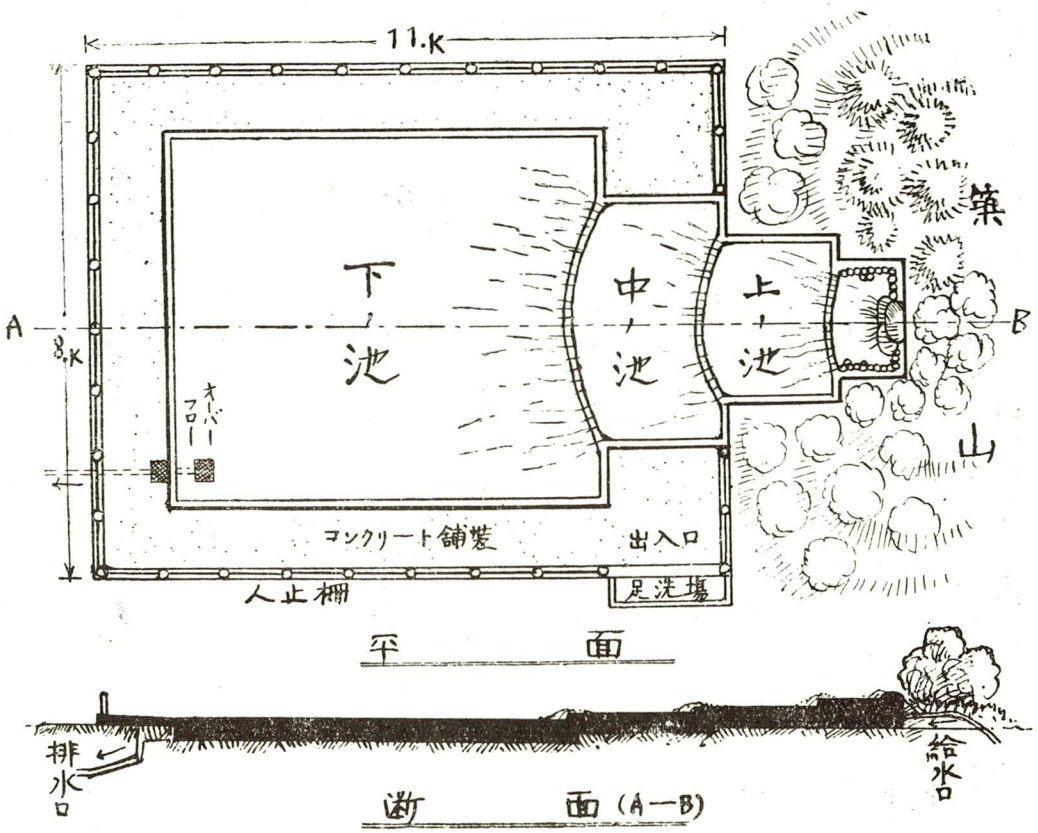
形狀は插圖の如く大小四個の長方形の連續したもので、最小の矩形の箇所は水源池で北端に位置し、之に續く上中下の三段の池が各約五寸の落差で接續して南へ延びてゐる。一番下の大い池が六間×七間で、外壁の厚さは平均六寸、中仕切が五寸厚、底面が四寸厚になつてゐる。深さは上の池が八寸中の池が一尺三寸、下の池が一尺八寸乃至二尺になつてゐる滿水した時の貯水容量は約二八〇石に上る。

二、構造の一般

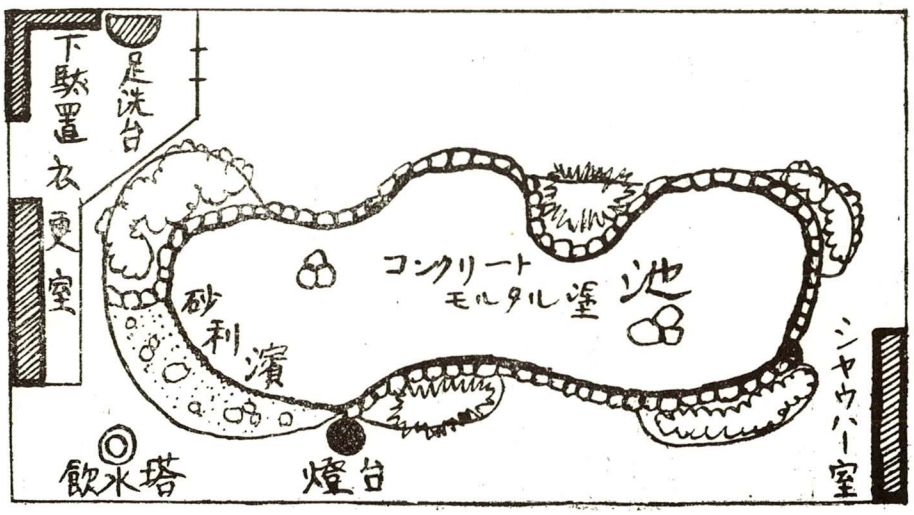
全部混凝土造で底部には相當の勾配を附し、仕上げは表面は大部分「セメントモルタル」塗とし、側壁の内外及仕切堰並に段石に限り「豆砂利入モルタル洗出し」仕上げとし、水源の噴水口は模造石使用の崩れ積としてある。

三、地形及混凝土工

整型式ノ徒渉池



不整型式ノ徒渉池



所定箇所に所要の遣方を施した後堀方に着手し、堀鑿土は指定場所に運搬の上築山に充て、次に底面一帶良質粘土を以て厚三寸通り蛸突を以て敷き均し、堰枠を取設け混凝土工に移る。混凝土の配合は凡て一、二、四・又膠泥は一、二とす

四、給水及排水裝置

上水道一吋給水管を所定位置に引き込み人造石々積の間隙より放水せしむ。又排水裝置としては最深部の一隅に鐵蓋(一尺角)を有つ深さ二尺の小會所を設け、開閉バルブ附内徑四吋瓦斯管を以て區域外の第二會所に導き、更に内徑六寸土管を以て既設下水管に連絡せしむ。又別に溢水口として砲金製格子窓(巾二寸長一尺)を設く。

五、外周舖裝及人止柵

池の外廻り三方は周圍境界線に五寸×六寸の花崗延石を以て緣取り、一間毎に人造石角杜(四寸角、長三尺五寸)を立て二段に八分丸ボートを通したる人止柵を設け、此内方は凡て厚四寸の混凝土舖裝を施す。

六、瀧口及築山植込

水源地となる最上段池附近は風致的に石積せる人工(カスケード)瀑の型を採り、兩側に混凝土製亂杭を配し凡て林泉風に拵へ、外周には築山を造り常緣喬木及灌木を密植す。

以上の仕樣書によつて出來た工事は總てゞ約一千四百圓餘を要した。

□

こうして出來上つた徒渉池も夏三ケ月丈でその他の九ケ月間は全く雨露に曝したまゝのやうに思はれるが必ずしもそうでない。春五六月、秋十月十一月までは淺く水を湛へて置くと好日和の日には子供がやつぱり寄つて來て遊んでゐる。そして冬季の四ケ月間は單に觀賞用として水を湛えて置くか或は水を乾し上けてローラースケート場等に供用するも一つの利用法で、それでなくとも子供は陽光に曖まつた混凝土の上を洗足のまゝ樂しげに飛び廻つて恰好の遊び場に使つてゐる。

徒渉池の管理に就て大阪市公園課の現況を聞くに目下一人の指導員が來遊の全兒童を男女二班に分けて所定の時間内に限つて使用さすことにしてあるさうである。毎年六月下旬から九月下旬に渉る三ケ月間が定められた使用期間で雨天とか特別に冷涼な日を除いて殆ど連日無料で開放してあるが、その使用時間は管理上次の如く定められてある。

第一回	自	午前十時	
	至	同 十一時	(八月中に限る) 一時間
第二回	自	午後〇時半	
	至	同 一時半	同
第三回	自	同 二時	
	至	同 三時	同

使用を許してあるのは勿論健康體の子供であつて滿六歳以上滿十三歳以下の男女兒に限り特に滿三歳位以上の幼兒でも上記の附添ある者には許すことに内規を定めてある。指定の更衣所で水着に着換へさせ、充分足洗場で汚れた脚部を洗滌させた上で呼子笛を合圖に凡て指導者の命令によつて動作することにしてある。約三十分間水遊びをしてから日照の下で約十分間簡單な陸上運動をさせたり訓話をしたりして更に二十分間自由に遊ばせて一回を終ることにしてある。男女兒は時間別にしたり或は使用日を別にしたりしてみたが成る可く

多人數に使用させる主義から之等の制限を撤して、現在では同時に共用させてあるさうである。

換水は三日目毎に全部を改め同時に池底を掃除することにしてあつて使用中は毎日水栓は全開して池水を更新させてあるから殆ど濁ることはないさうである。

次に昨大正十五年夏に於ける同所の使用統計表を參考として揭けて置こう。

兒童徒渉池使用調査表

（於大阪扇町公園、大正十五年夏）

要項	一ケ月間の使用日數	一ケ月間の使用回數	一ケ月間の一日平均使用人員	一日使用の一回平均數	一日使用の最多人員	一日使用の最少人員
七月	二四日	四六回	六、九二〇人	二六八人	一五〇人	五三人
八月	三〇	八二	一三、一六九	四三九	一六〇	五六八
九月	一四	二七	二、三三〇	一六〇	八三	三九二
合計	六八	一五五	三二、三二九	總平均三六	同上	一四四

最後に東京市の公園課が管理してゐる芝公園の徒渉池に就ても述べて置こう。水源を上水道と井戸水とに求めて兩者を併用してゐるさうである。專任の男女二名の指導員が監視並に指導の責に任じ、一回に百五十人を定員として無料入場券を交附し、一時間を定時間としてある。大正十三年度の成績表を見ると次のやうになつてゐる。

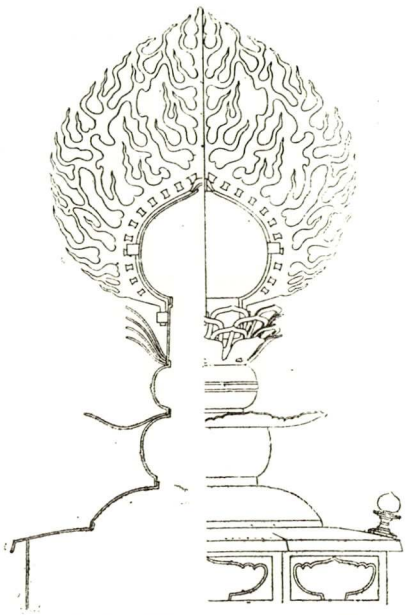
東京芝公園徒渉池使用成績（東京市公園課調査）

一、開放總日數　六十六日（外ニ休場八日）
二、入場總人員　五一、六五〇人（一日平均七八二人）
三、天候　統計　晴　四七日、曇　一三日、雨　一四日、
四、氣　溫　三十二度乃至十八度
五、水　溫　三十度乃至二十一度

更に同所に公示してある揭示文を示してみやう。

□仲よく怪我のない樣に御遊びなさい。
□あまり永く水に這入つて居ると病氣になります。
□ピリ〳〵が鳴つたら水から上つて御歸りなさい。
□歸りには身體を洗ふ所でよく洗つて忘れ物のない樣になさい。
□着物やはきものを失さぬ樣御互に氣をつけなさい。

以上で徒渉池と云ふものゝ概念丈は御理解下さつたことであらうと思はれる。願はくば各所でこうした堀供の爲の安全な夏の遊び場所が一つでも澤山出來るやうにと筆者は望んで居る。（二、八、二〇）



擬寶珠と建築

會員　池田谷久吉

擬寶珠と建築とは密接な關係のあることは今更云ふ迄もないが擬寶珠のあるためにその建築が餘程趣興を深くするものであると思はれる。

擬寶珠は主として建築のみならず、橋梁にも多く用ひられ京都五條の大橋に於ける牛若丸と辨慶、天狗との物語りや、高山彦九郎が三條の大橋から皇居を遙かに拜した畫を見ると必らず欄干の模樣には擬寶珠がついてゐて床しいものである

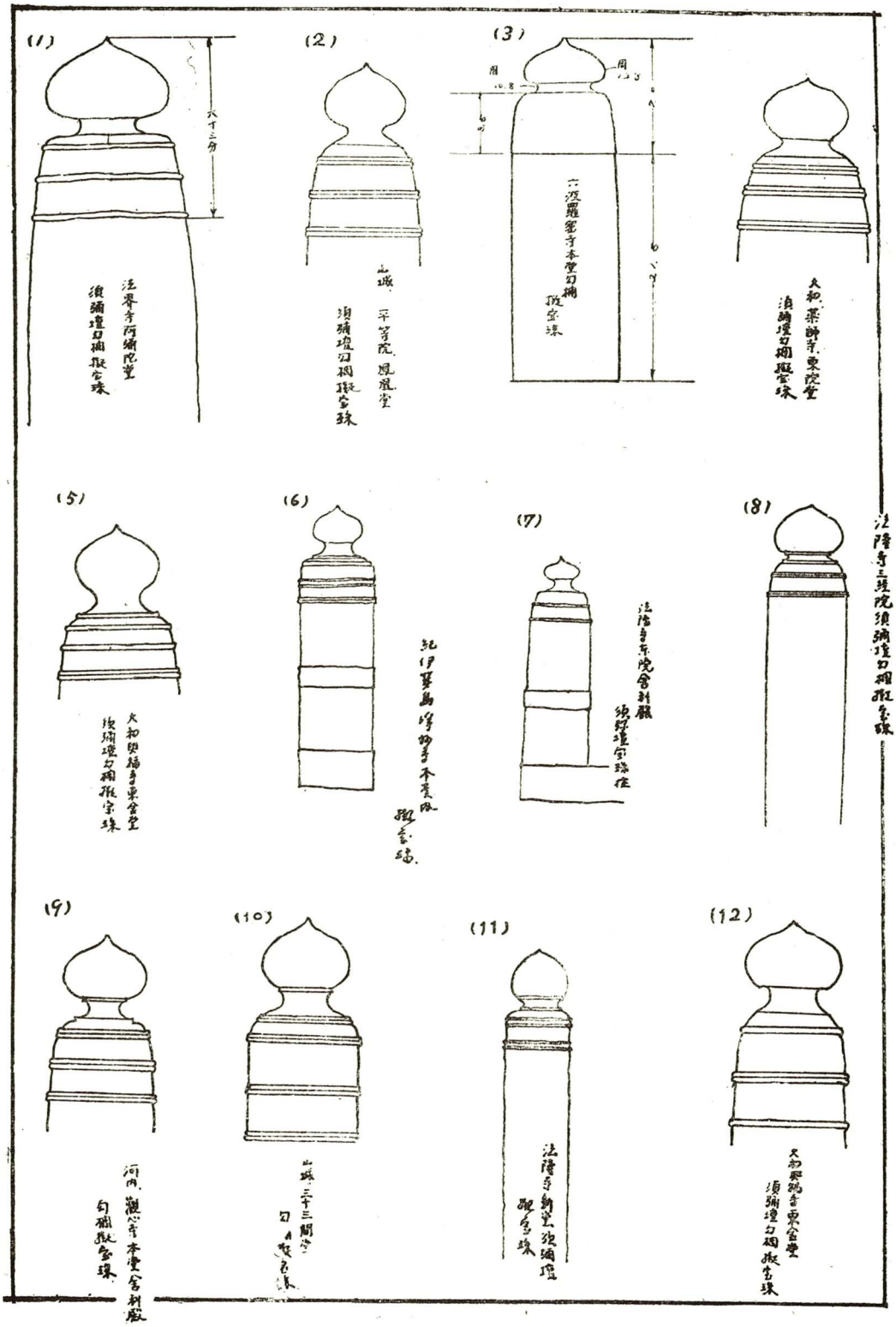
擬寶珠はまた建物の棟、壇、階段の手摺等の隅々、端々にも用ひられるが、一は裝飾として一は木材の腐朽を防ぐための實用的な働きをしてゐる。

我が國に於ける擬寶珠の起源に就ては餘り古くはない樣である一說には佛敎と共に渡來したものだとも傳へられてゐるが當時の建築、即ち法隆寺あたりのものゝ中には見當らない現存してゐる古い建物と思はれるものゝ中には山城の宇治鳳凰堂の須彌壇の勾欄に用ひられてゐるものがあるから平安朝の末から初まつたものではなからうかと思ふ。

擬寶珠は前記の如く古く(勾欄はあつたが)より獨創的のものでなく支那より傳つて來たのであるから矢張り佛敎に關係があるらしい、即ち、蓮華の蕾を表はしたもので餘ほど古いものを見ると確に蕾らしいものがある。

帝國大辭典によると「もと佛敎にある、まにの玉の形を取りて付けたる所より、寶珠、即ちたからのたま、との義を附す」とあり梵語にいふところの「摩尼の珠」とは清淨にして染められず、海底に棲む龍王の腦中より出現し毒も害する能はず火も燒くことを得ざる功德があると佛典には說いてゐるがこの奇妙なる寶珠に擬へたものが即ち擬寶珠である。擬寶珠は我が國のみならず東洋諸國には盛んに用ひられ印度、波斯、土耳古等には殊に多く稀に露西亞、埃及等にも用ひられてゐる、これ等の諸國には屋上によく用ひられた例は少くない Bulbous dome と云はれてゐるのもこの種である。

擬寶珠は
寶珠(上部の葱花の臺に似たるもの)鉢首「かきくび」(頸


(1)
八丁三分
法隆寺阿弥陀堂
須彌壇勾欄擬宝珠
(2)
山城 平等院 鳳凰堂
須彌壇勾欄擬宝珠
(3)
周
周
六波羅蜜寺本堂勾欄
擬宝珠
大和 薬師寺 東院堂
須彌壇勾欄擬宝珠
(5)
大和 興福寺 東金堂
須彌壇勾欄擬宝珠
(6)
紀伊 慶福寺 本堂脇
擬宝珠
(7)
法隆寺 西院 舎利殿
須彌壇宝珠柱
(8)
法隆寺 三経院 須彌壇勾欄擬宝珠
(9)
河内 観心寺 本堂 舎利殿
勾欄擬宝珠
(10)
山城 三十三間堂
勾欄擬宝珠
(11)
法隆寺 鏡堂 須彌壇
擬宝珠
(12)
大和 興福寺 東金堂
須彌壇勾欄擬宝珠

のところ、覆鉢又は饅頭形（缺首の臺）節又は篠又は横篠（横に入つた筋）及胴から成立つてゐてこれ等のものが各時代によつて變化してゐる。

今其の大要を擧ぐると

一、寶珠は最初蓮の蕾か葱の臺の樣な形をしてゐたがだんだんと中央最上部が隆起して來た。

二、缺首は寶珠と胴との接續が極めて自然であつたが終に輪を嵌めた樣なものになつて來た。

三、胴部は乳狀を呈してゐたが圓筒形に變化して來た。

四、節は後世ほど太くなつてゐる。

此れ等の變化をプロポーションの上から見ると最初は寶珠は胴に對して少さく頗る安定なものであつたが後世になるほど胴が引き締つて寶珠が大きくなり缺首が細く際立ち節が高くなつて來てゐる。

圖示略解說

（一）法界寺阿彌陀堂勾欄（山城國宇治郡醍醐寺）藤原時代我が國現存擬寶珠中最古のものである、寶珠の形は藥師寺東院堂のものによく類似し柱にはエンタシス（膨み）が附いてゐて美しいアウトラインを現はしてゐる。

（二）平等院鳳凰堂須彌壇（山城國久世郡宇治町）藤原時代形に於て法界寺のものよりも美しい前者は胴の肩が張り過ぎてゐる樣な感があるがこの方は最も優美である。

（三）六波羅密寺本堂（京都市下京區轆轤町）鎌倉時代寶珠の扁平なことは藤原、鎌倉の共通性特色であるが殊に安定であり胴の肩が法界寺の如く角張つて缺首の縊つてゐるなどは他に類例がない。形としては餘りよいものではない。

（四）藥師寺東院堂（大和國生駒郡都跡村）鎌倉時代鳳凰堂のものによく似てゐるがよほど剛健な氣がある。

（五）興福寺東金堂（奈良市登大路町）鎌倉時代鳳凰堂藥師寺東院堂と相似點を有し只篠の意匠に變化があるのは面白い。

（六）淨妙寺本堂內（紀伊有田郡箕島町）鎌倉時代　最早此時代から肩が少しづゝ固くなりかけて來たが當代に於ける優秀なもので殊に塗及裝飾を施した點に於て立派である。

（七）法隆寺東院舍利殿（大和國生駒郡法隆寺村）鎌倉時代　寶珠と胴との間がよほど長くなつて胴の膨みは法界寺系統に屬してゐる。

（八）法隆寺三經院（同上）鎌倉時代
寶珠太く、どつしりとしてゐて當代の特徵を持つてゐる

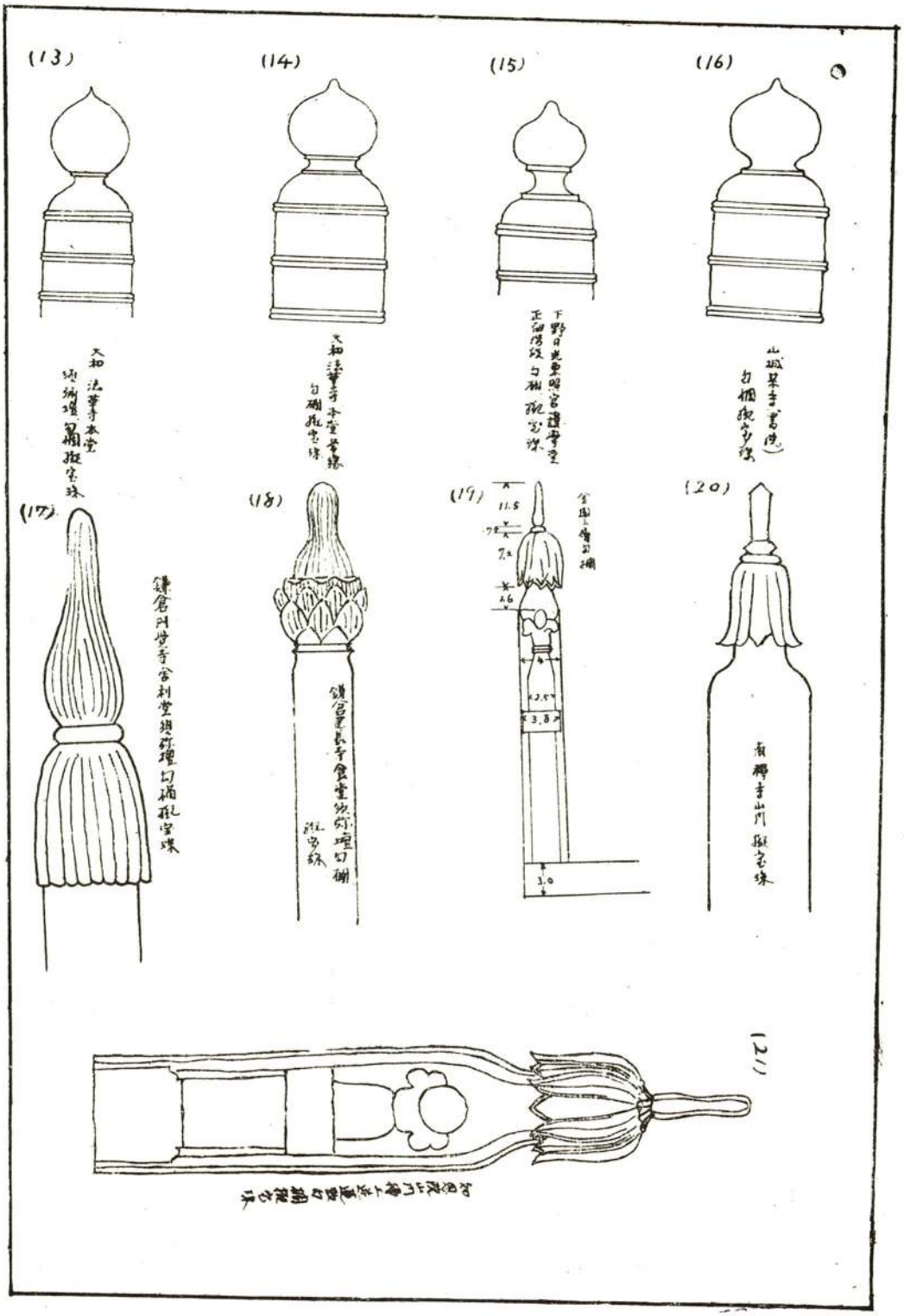
（九）觀心寺本堂舍利殿（河內國南河內郡川上村）鎌倉時代
寶珠の先きが尖り出して缺首が縊れかけて來てゐる。

（一〇）三十三間堂（京都市下京區九條町）鎌倉時代
胴の膨みがなくなつてゐるがプロポーションがよく整つてゐる。

（一一）法隆寺東院新堂（大和國生駒郡法隆寺村）鎌倉時代
寶珠形が珍らしいもので大抵此時代のものに偏平なものが多いがこれは細長く篠の筋が二ケ所であることも特徵である。

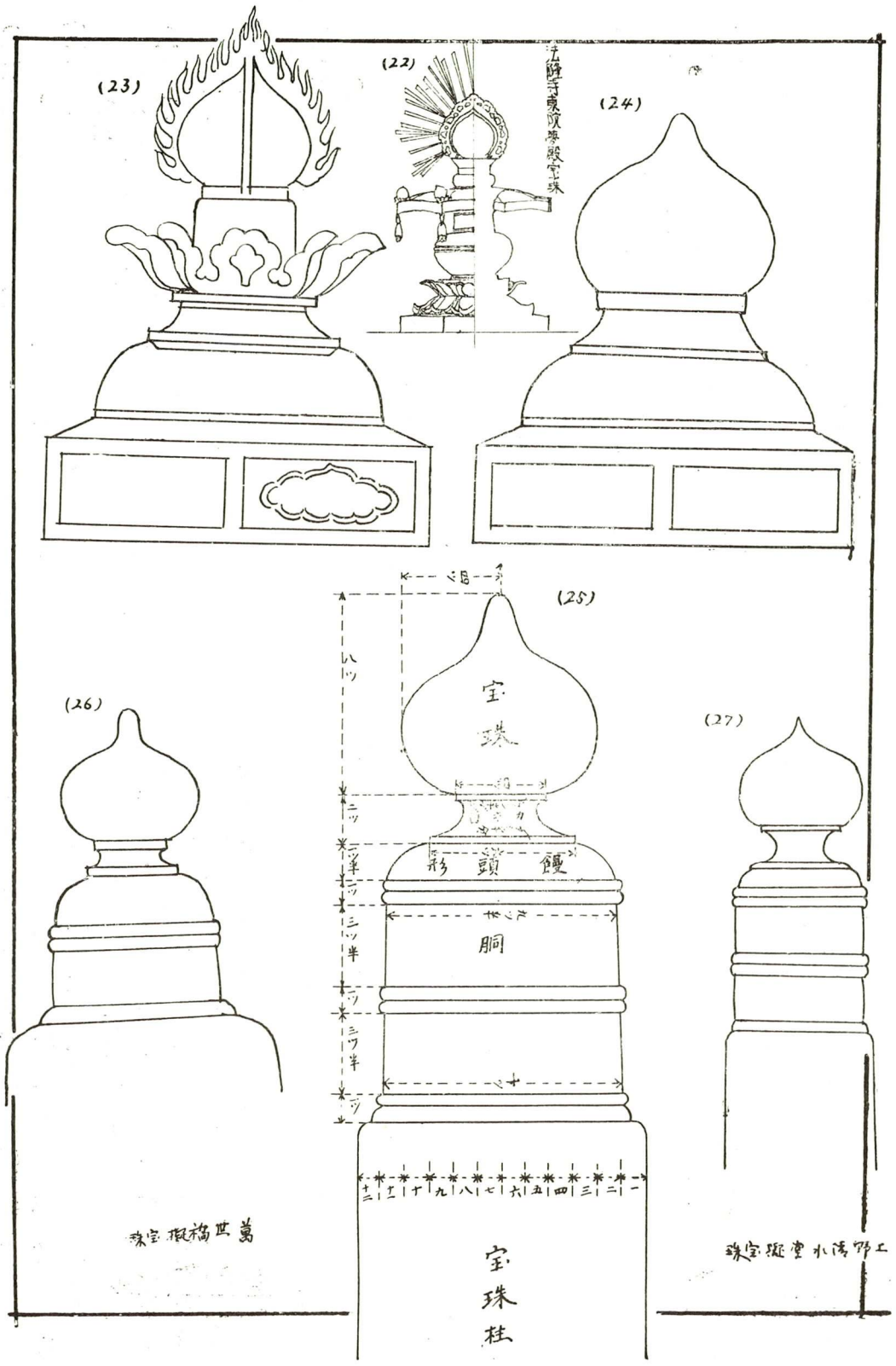
（一二）興福寺東金堂（奈良市登大路町）室町時代
形としては完成しかけてゐるが寶珠と胴との取付は缺首の上部の線が固くるしい感がある。

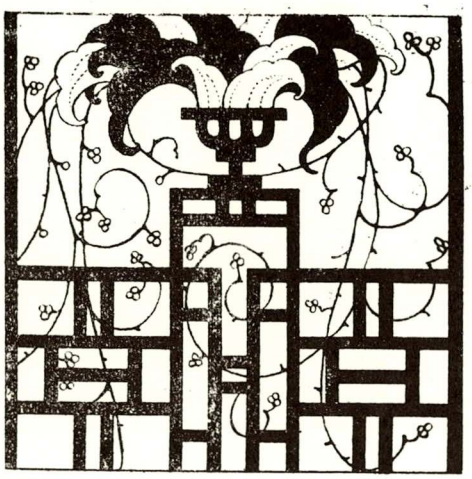
（一三）法隆寺本堂（山城國添上郡佐保村）桃山時代
秀賴の建てたもので菅原—鎌倉—室町を經てこゝに到るともうたまらなく惡くなつてゐる。寶珠の形がだん〳〵と成が高くなつて缺首もいよ〳〵細く縊れて來てゐる。


(13)
(14)
(15)
(16)
(17)
(18)
(19)
(20)
(21)

（一四）同上本堂（同上）　同上
前のものよりは少しはよいものだと思はれる。
（一五）日光東照宮護摩堂正面階段（下野國上都賀郡日光町）徳川時代
徳川時代に到ると益々缺首細く成高くなつてゐる。
（一六）某寺書院（山城國）　徳川時代
法華寺のものによく似てゐる。
以上は大略であるが桃山時代以後の遺物は到るところに無數に散在してゐる。秀頼が片桐且元を奉行として造營された建築物にはよく擬寶珠を用ひてゐる。
（一七）圓覺寺舍利殿　相摸國鎌倉郡小阪村）　鎌倉時代
擬寶珠といふ名は附け得られるかどうか一寸困るが矢張り擬寶珠の變化であると思ふ。こうした形を逆蓮頭といひ蓮を逆にした形に似たところから名づけたものである最明寺時頼が建てたもので宋僧が禪風の法則に從つて作られたものである。
（一九）金閣寺（京都「葛野郡衣笠村）　室町時代
足利義滿公の北山の別莊として建てられた結構善美をつくしたものである、圓覺寺のものゝ影響を受けてゐるのみならず變つた形をしてゐる。
（一八）建長寺（相摸國鎌倉郡小阪村）　鎌倉時代
（二〇）南禪寺山門　京都市上京區南禪寺町）　徳川時代
これも圓覺寺、金閣寺あたりの變化である。
（二一）智恩院山門　京都市下京區林下町）　徳川時代
餘ほど寫生にながれ下部で外に開いたところなどは南禪寺によく似てゐる。
此の種のものもずいぶんたくさんあるが日光東照宮及三代將軍靈屋等にも圓覺寺系統の複雜なものがある。
（二二）法隆寺夢殿（大和國生駒郡法隆寺村）　天平時代
擬寶珠ではなく寶珠ではあるが屋根の上に設けられたこの種の形をなしたものゝ例として擧げておく。
夢殿の美はこの寶珠露盤が焦點であると思ふ逆蓮華に寶瓶をのせて寶蓋に寶珠を頂き火焔を巧妙に現はしてゐる意匠の優美な點に於て完きものである。
（二三）（二四）近世多く用ひらるゝ方形造「阿麻方形」屋根の露盤であつて夢殿あたりのものに比べると見苦しくなつてゐる。
（二五）これは近世多く用ひらるゝ擬寶珠の標準であつてプロポーションを示したものである。
（二六）萬世橋（東京市）
規則正しく定規によつたもので寶珠の先端が甚しく突起してゐる。
（二七）上野清水堂（東京市）
寛永十三年椎名兵庫吉總によつて作られたものである。
缺首が細く縊れ寶珠の先端は鋭く錐狀に突起し篠は太く胴は圓筒形にして胴の割に寶珠大きへ餘り格好はよくない。

擬寶珠に銘を刻することの始まつたのは桃山時代であつて河内國南河内郡天野村天野山金剛寺には秀頼の寄進にて普請奉行片桐市正且元の銘がある。尙擬寶珠のことを金帽子といつたこともあつた樣である、これは近江國三井寺に『金帽子』といふ銘が刻されてゐるらしい。
京條三條の大橋に『洛陽三條之橋、至後代他度往還人、盤石之磨入地五尋、切石之柱六十三本、蓋於日域石柱橋濫觴乎、天正十八年庚寅正月　日豊臣初之御代奉行增田右衛門尉長盛造之』とあつて工事の概要迄記錄されてゐる。
擬寶珠の變化したものにはずいぶんたくさんあるが大阪市の農人橋にあつた擬寶珠が目下宗右衛門町はり半の玄關に飾らされてゐるがこれなどは變つた面白いものである。
（一九二七、八、二六）


(22)
法隆寺東院夢殿宝珠
(23)
(24)
(25)
宝珠
鍍金
頭
胴
八ツ
三ツ
三ツ半
三ツ
三ツ半
ツ
十二
十一
十
九
八
七
六
五
四
三
二
一
宝珠柱
(26)
萬世橋擬宝珠
(27)
工部省水道擬宝珠



元祿年間に於ける 大阪の埋立工事の概要

災害委員　池田宮彦

本誌七月號に於て增田淸氏は「震度と云ふ言葉について」と題して大阪の震度を如何に豫期するかと云ふ事について實例に據つて詳細に述べられ又最後に震度を一定にする事の不當さを明らかにし、市內に於ても土地によつて震度を變へる事を主張して居られる。誠に感を同じふするものであつて斯の如き事の必要なる事を一般社會に認められん日の一日も速きを冀ふ次第であります。

扨て然らば震度は何によつて推定すべきであるか、これは嚴密に考ふれば仲々六ケ敷い問題であつて、種々の物理的測定を經なければ推定する事は困難と思はれるが、然し私は極めて概略的ではあるが過去の被害の程度によつて推定する事を得ると考へるものであります、而してそれは取りも直さず其の土地の新舊によるものである事を本誌七月號に述べて置いたのであります。同號には西大阪全般に渉つて其の概略を述べたのでありますが委員長波江氏より再び、當市の埋立工事の歷史について今少しく詳細に記載せよ、との御注意がありましたので本誌に於て元祿年間のもののみを再び記載する事としました。前揭のものと重複する點もありますが其の點は特に御寬恕願ひます。

大阪が過去に於て最も大きな發展を遂げたのは實に元祿十六年間(西曆一六八八—一七〇三)であります、故に先づ元祿年間の事を述べ追々に其の前後を調べて見度いと思ふのであります。

さて此の發展の端緒は何れにあるか、それは實に延寶二年六月の淀川の大洪水(西曆一六七四年)にあると見らるゝのであります、古來「轉禍爲福」と稱せらるゝ如く大阪を甚だしく苦しめた淀川の氾濫は引いて治水工事と轉じ即ち大阪の發展となつたのであります。

天和三年將軍綱吉は時の若年寄稻葉正休及其他に命じて大阪の治川工事計畫の爲めに河村義通（瑞賢こを伴ひ攝、河、泉を巡視せしめた。

安治川　かくて計畫成り貞享元年河村義通は九條島（今の西九條）開鑿に着手し堂島川の下流をして眞直に海に注ぐ樣に改修したのであつた、之れを九條新川と稱した川幅四十間、長十五町に及んだもので其の兩岸の石疊等の完成は實に元祿最初のものであつた、後元祿十一年に至つて此の川を安治川と命名せられた。開鑿によつて得た土砂は新川の南北兩岸に新地を埋立てたのであつた　そし　元　元年にはそれに地割を施し安治川北岸に安治川上一、二丁目　同北一、二、三丁目及同南岸には安治川南一、二、三、四丁目の九丁を得た。又之れと同期に堂島川の下流の砂洲を浚へ、又曾根崎川を造り此の土砂を以て新地を得た即ち堂島新地一、二　三、四、五丁目。同中一、二、三丁目。同北町、同裏町の一町。中の島には比丘尼橋新地（肥後島町）又西端の渡橋町新地を得た。（元祿元年）

安治川開鑿は今から二百四十年の昔であつて今考ふれば電動力の無きは勿論其の他の諸工具に於ても極めて幼稚なものを使用したとしか考へられぬが此の大工事を僅々二旬にして成功せしめたと記されてあるのを見れば其び當時の人士の氣慨の有つた事を想はねばならぬ。文明の利器を自在に使ひ得る現代人士は片時もうつかりして居られないではないか、地下に眠れる河村瑞賢或は扼腕せん。而して今其の工事の概要を見るに彼の施工方法が如何に巧みであつたかを知る事が出來て甚だ面白い點があるから次に抄記して見やう。

「抑々九條島は香西晢雲開發以來年を經る事久しからず、少しく鑿てば必ず水あり、施工容易ならざるを以て、義通先づ新に開發せんとする河道の中央に幅五丈の深渠を掘り、地中の水を溜下して此に會せしめ、其上下兩端及中間を留め、土障を作りて渠を限り、上は河水の衝入を防ぎ、下は海潮の侵盪を防ぐ。既にして新河を鑿ち、鋪纜纔に下れば、果して水を見しと雖も、皆潛泄して中央の深渠に歸し、而して上下及中間土障の處に於て、別に左右に渠を開き、水車を並置し渠中の水を撤去せしめ、廻轉晝夜休歇なく、地中の水漸く盡き、また泥淖を致さず、役夫容易に事に從ふを得たり。工事愈々進捗し、新河稍々深きに至り、梯子を兩岸に掛け、板を路上に布きて泥土運搬の用に備へしに、梯子には竹簀あるがため、上下昇降に踏脫の憂なく、且つ泥水を透漏するにより滑倒するものなく、路上は鱗布せる板上を往返して行步飛ぶが如し。當事者の用意此の如く、役夫も亦固より欣然として之に應じたるなれば、督責を待たずして工に從ひ、着手以來二旬にして河道開鑿の功を訖れり。乃ち兩岸に石砌（石を疊みて階を爲す、俗に岸岐と云ふ）を設け、烽火を以て號とし兩端の土障を一齊に決去せしに、河水滔々として海に注ぎ、流勢一道隱として長虹の如くなりき」眞に痛快ではないか。

閑話休題

堂島川北岸　堂島濱通り、北通、船大工町等、當時は同じく元祿元年の新地なり。

堀江新地　堀江はもと、東は西橫堀川、南は道頓堀川、西は木津川、北は西長堀川に圍まれた一帶の低き畠地であつて唯、川に沿ひ僅かに一條の人家があつたのみであつた。元


西
川
1
2
3
4
5
6
7
8
9
港
区
西成区
西成区
川
木津川

祿十一年（西暦一六九八年）河村義通、幕府の命を奉じて其の中央を東西に貫通し西横堀と、木津川とを連絡する川を開鑿した即ち堀江川であつて、當時幅三十間長さ十二町十五間餘と稱せられた。此の開鑿によつて得た土砂は川の兩側一帶の土地を埋立て南、北、堀江新地を得たのであつた。此の川の開鑿と地盛りとによつて堀江は地割を制定せられ急に發展をする事となつた。即ち

御池通一丁目より六丁目。北堀江一丁目より五丁目。南堀江一丁目より五丁目。橘通一丁目より八丁目まで。道頓堀南岸を幸町一丁目より五丁目、等之等を總稱して堀江新地三十三町とせり。

其地、明和元年（一七六三）川幅を十二間に減じ、兩岸に築地を設けたとあり。

古川、及富島　古川とは安治川開鑿以前の淀川の舊河道の一部であつて富島は一名を大佛島と云ひ下福島の前に存せしものである、之れ等を開發して古川兩岸に安治川迄新地を設けた。而して富島及古川に各々一、二、丁目の地割を設けた。（地圖參照）

新田開發　既にして河村義通等の計畫せし市内の諸工事河川の改修、開鑿、新地の整理等略完成に近づきしを以て次には、川口の新田開發を計畫せり、即ち元祿十一年河村義通中山時春　永井直又三名發令して、淀川口に於ける三角洲の開拓希望者を募り、應募者をして開發せしむる事としたのである、然るに應募者非常に多數に上り嚴選の結果決定したる請負人氏名及新田は次の通りであつた。

（大阪市史により）

地圖上ノ番號	新田名稱	舊稱	請負人	反別
1	津守新田	木津島	横井源左衛門	七町餘
2	泉尾新田	三軒家浦	金屋源兵衛	七、二、六、八
3	市岡新田	九條島浦	北村六右衛門	二六、〇三、二〇
4	春日出新田	四貫島浦	市岡與左衛門	七〇、七、九、四〇
5	沖島新田	恩貴島	雜賀屋七兵衛	四一、八、九、四
6	酉島新田	酉島佃島	大宮仁左衛門	一五、九、六、一六
7	百島新田	百島助太夫島	多羅尾七郎右衛門	二〇、四、五、一四
8	西島新田	行德島	次郎右衛門	一二、三、九、二七
9	出來島新田	西出來島願念島	池山新兵衛	三、二、三、二三
10	中島新田	城島親島	倉橋屋四郎兵衛	二三、八、八、九
11	蒲島新田	彌左衛門島前島	中島市兵衛	四九、一、四、二四
12	西野新田	蒲島西野島	蒲島屋四郎兵衛	五、二、七、三
			池山新兵衛	

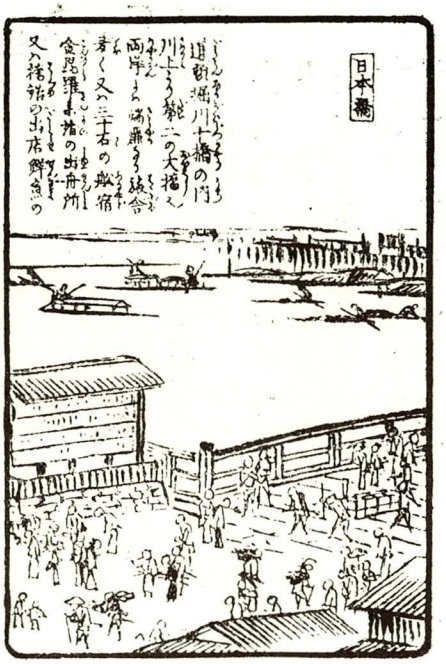
元祿十五年に至り右の新田を檢察したる結果六百餘町歩の新田を得た事を知つたのであつた、而して元祿年間に完成したるもののうち完成年號の明かなるものは次の通りである。

新田名	開拓完成年	新田名	開拓完成年
津守新田	元祿十五年	沖島新田	元祿年間
泉尾新田	元祿十一年	酉島新田	元祿十一年
市岡新田	元祿十一年	七瀨新田	元祿十四年
春日出新田	元祿十一年	木屋新田	元祿十一年

之れ等の新田は河村義通等の指定せる大きさの防波堤を以て新田の周圍を築き海水の侵入を防ぎ又内部の惡水排泄の爲めに樋門を設け適當の地上げを施して田畑に開拓したものであつた、而して河村義通は元祿十二年六月、八十三才を一期として歿した、法名を瑞賢と稱し其の名は大阪の川と共に永く殘る事となつた。

元祿年間の大工事も之れを以て一時打切となつたのである。

（二一・八・一九）



大阪橋名考

佐古慶三

はしがき

大阪橋名考は、大阪町名考（希有第十一輯）及續大阪町名考（關西信託時報掲載中）の姉妹篇にして、共に無有庵書屋未定稿の一『大阪地名辭彙』の摘錄である。彼は町名の由來をば究め、是は橋名の緣由をば尋ぬるもの。從て橋々に絡まる幾多の傳說に就ては、敢て觸れないであらう。

一

四百四橋を以て誇る水の都の大阪も、未だ桃山時代では、其の眞面目を窺ふこと容易でない。當時は淀川本流以外に擧ぐべき河川甚だ少く、唯僅に東橫堀川、西橫堀川、阿波座堀川、天滿堀川の四者（延長凡そ六十五町餘）の開鑿があつた斗り。然るに江戶時代に入ると、元和寬永の短時日の間に私人の企劃に依る水路の開設殊に繁く、道頓堀川、江戶堀川、京町堀川、海部堀川、長堀川、立賣堀川、薩摩堀川の七者（延長凡そ九十町餘）を數へた。次で天和以降元祿に及ぶ河村義通瑞寶の淀川治水工事の施行に伴ひ、安治川、堀江川、十三間川、堂島川、曾根崎川の五者（延長凡そ百十七町餘）の疏水を見る。總て縱橫に隈なく河川は伸びに伸びた結果、勢ひ此處彼處となく橋を架くる必要が起る。天下の臺所、諸國相場の元方と、大阪が商覇を彌々昂めると共に、水の都、四百四橋の矜は强烈となつた。で巢林子は其の靈筆を走らせて、名殘りの橋盡しに之を讃ふ。

二

橋名を取扱つた歌謠としては、近松以前既に延寶六年版大坂道しるべ所載の橋數名和歌がある。

今橋や高麗ばしに平野橋しあんばし又本町のはし
京橋や天滿天神なにはばしさて其下はせんだの木橋
大和ばし中橋これや日本ばし南のかわぞしばゐなりけり

太左衛門西はゐびすになんば橋さて其すえは□□□村なり

けれど是れでは、河川に分け橋の架つてゐる順序に從ひ、橋名をば綴込みし、唯棒讀みに過ぎぬ。勿論曲譜などのあらう筈はない。

反之『走り書、誰の本は近衛流、野郎帽子は若紫、悪所狂ひの身の果は』てふ書出しで始る名殘の橋盡しこそ、水橋禮讃として空前絶後のものと云つても過賞ではなからう。就中（前略）北へ歩めば我宿を、一目に見るも見歸らず、子供の行方女房の、哀れも胸に押し包み、南へ渡る橋柱、數も限らぬ家々を、如何に名付て八軒家、誰と伏見の下り舟着かぬ内にと道急ぐ、此世を捨てゝ行く身には、聞くも恐し天滿橋、淀と大和の二川を、一つ流の大川や、水と魚とは連れて行く、我も小春と二人連、一つ刀の三つ瀬川、手向の水に受けたやな（下略）と

情をつめ、理をつくす當り、妙文佳韻、克く最後を急ぐ十九女に二十八男の姿を髣髴たらしめる。

爾來上方唄に之の名殘りの橋盡しを取入れた橋づくしあり俚謠にも浪華名所橋づくしあるを聞く。とつちりとん、よしこの以下、孰れも卑俗、措辭の妙は到底巢林子に及ばず。今其の一を紹介すれば、

大阪名所の合さて橋づくし〽難波橋を話そにも、古川橋なことながら〽仇な合姿も葭屋橋〽ほんに殿御の玉川橋朝夕願ふ上之橋、末吉橋と二世かけて上〽夫婦橋じやと云はれたら、心の鐵橋（くがね）も叶橋、（中略）私しや耆の合未だ花屋橋〽開き遲れし梅田橋崎吉橋となるからは〽誰と合抱れて猫間橋〽本町橋と心なら、いやを橋とは云ひはせん私しやござふでも奈良屋橋上〽肥後殿橋の思ひをば、今宵は晴らして玉江橋（下略）

三

さて橋が新規に架けられる。すると橋名は何と關係者は首をばかしげる。緣起を祝ひ吉凶を卜し、とつおいつした果は樣々な名稱が橋に與へられると云ふ段取。橋を架けた人の名に因むこともあらうし、時には下を流れ行く水の名を取ることもあらう。橋筋に當る町名地名をも引けば、時には近在の社寺名水の名をも擔ぎ出す。其他池名、藏名、島名、以下等々と千紫萬紅、恰も親達が其の子に名前を附けるのと同樣に工夫をする。中には當時として置いた假の名が永久になつたのもあれば、考へ飽ぐむだ揚句、竟に名案が浮ばないのを告白せる思案橋なんて名前も飛出す。

斯くて洒落れたのも、凝り過ぎたのも、粹なのも野暮なのもあつて、然も其名が實の賓であつたり、又なかつたりするので、いざ橋姿拜見の段に及び、幻滅の悲哀を泌々味ふことが往々ある。世には姓名判斷に熱中する特志の人もあると聞くが、橋名や町名の詮索に一苦勞する呑氣者も在るのを知る人は恐らくありますまい。然し彼は固く水都の美觀は、橋姿と橋名との均正調和に繫ることを信奉してゐるから、賴まれもせぬのに、先づ橋名來歷の詮索に手を染める。是れも皆、世捨人の閑業なればこそ。

四

そこで筆者は以下少しく、古往今來人の口端に上つた橋々の名、新、舊、俗をば取混ぜて凡そ五十斗りに就き、各橋稱呼の由來のみを尋ねよう。

安綿橋　長堀川　總年寄安井九兵衛並に綿屋某の架設。出據設人

常安橋　土佐堀川　淀屋常安の架設。出據設人

孫左衛門橋(舊)　東横堀川　末吉橋の舊稱、末吉孫左衛門の架設。出據設人

伏見橋　京町堀川　伏見京町の移住民の手で架設。出據設人

阿波座橋　阿波堀川　阿波座は阿波商人群居の地　阿波座堀川を開鑿す。出據設人

唐金橋(俗)　西道頓堀川　汐見橋の異稱、泉州佐野の飯唐金屋某の架設。出據設人

農人橋　東横堀川　いにしへ農人たちが船場在の田畠へ野良しに往通ふた土橋その緣由をば今に偲ぶ、もと公儀橋の一出據行人

安治川橋(舊)　安治川　一名磁石橋と呼ばれ、回轉式の架橋で舟楫の便宜を圖つたもの。橋中にて一異彩を放つ。明治十八年の大洪水の際、上流よりの流下物を停滯せしめ、附近一帶に大氾濫を惹起せしかば、師團より工兵隊を派し爆破さる。出據川名

新川橋　難波入堀　難波入堀一に難波新川と云ひ、尚省略して新川とも云。出據川名

蜆橋(舊)　曾根崎川(元)　曾根崎川一名蜆川と云、「戀情爰を瀨にせん蜆川」で著名なところ、北詰曾根崎新地は皆樣お馴染の世話淨瑠璃の世界。北區大火後廢川の悲運に遭遇、埋立と共に橋姿消滅。出據川名

寺町橋　天滿堀川　天滿寺町通に架る。出據町名

大手橋　東横堀川　大手通に架る、錦城大手門筋。出據町名

筆先橋　毘沙門池水路　筆ヶ崎町に渉る故を以て筆ヶ崎を筆先に捩る。出據町名

高津橋　高津入堀　攝津風土記云『難波高津者、天稚彦天降之時、屬天稚彦而降神天探女、乘磐船而至于是、以天磐船泊、故號高津』地名高津は此れより出づ。出據地名

大江橋　堂島川　大江岸、大江橋の舊地舊橋の籍用

家集　哀れなり長柄は跡も朽ちにしを大江の橋の絕ねせざるらん

名吳橋　高津入堀　往昔の名吳浦名吳濱は此邊とか。出據浦名

六帖　きてみれば大このうらまによる貝の拾ひもあへず人ぞ戀しき

戎橋　道頓堀川　今宮戎の參道に當る。出據社名

大黑橋。　鰷川、木津大黑神社の近在。出據社名

愛染橋　高津入堀　愛染堂の近在。出據寺名

南清水橋　舊)　鰷川、難波清水の址。出據在泉

增井橋　高津入堀、增井の清水に程近し、大阪六清水の一で、古は酒を釀すのに最も適した水質の故を以て、亦合酒の清水とも異稱せらる。出據泉名

毘沙門橋　毘沙門池水路、毘沙門池の落水を渉る。出據池名

夫婦橋　天滿堀川　夫婦池の址、天滿堀川開鑿（天保九）の際河道に當りしために同地は隱沒。出據池名

德島橋　中之島入堀　德島藏の船入橋。出據藏名

秋月橋　中之島堀割　秋月藏へ渉る。出據藏名

越中橋　土佐堀川　熊本藏へ渉る、國主は細川越中守である。

廣　瀨旭莊　幕匝船窓太鼓鳴。百夫搖櫓溯江行、方知西國諸侯至　倉邸門開列炬明

大名の威風堂々たるを髣髴する。出據大名

五

松島橋　木津川、松島に架る、島の鼻に一老松あり、長枝垂れて水に涵し、翠綠の雅致一入なるに因み、松島の名起る出據島名

月正橋　十三間川、月正島が十三間川開鑿で二分せられたのを結び直す。出據島名

江之子島橋、百間掘川、江之子島に架る。犬子島、狗子島の轉訛とも、難波江の兒島の簡略とも說く人あるが、古圖にはへのこ島と有。形狀近似。出據島名

大和橋、猫間川、大和街道に當る。出據道名

京橋、寢屋川、京街道に當る。もと公儀橋の一。出據道名

黑門橋、猫間川、豐臣時代錦城玉造門の址、門は黑塗なるを以て黑門と呼ばる石橋の嚆矢（慶安三）。出據門名

梅之橋、梅川（元）　川沿は梅林の名所、今は石橋高津社境內に在る。出據樹木

大黑橋、道頓堀川、上座の戎橋に對稱せるもの、蓋し七福神中特に戎と大黑とは好一對であるから。出據比喩

極樂橋（舊）　極樂川（元）　寺町並に四天王寺の通路に當るので、極樂に通ふの洒落。出據比喩

卷物橋（舊）　四天王寺境內、龜之井に隣る小溝に、石一枚の橋がある。石槨の蓋を利用せしものであつたから、參詣人は先づ一拜をすませて後越えた。恰も卷物をば讀むかのように。誦經橋の異名亦異路同歸。今隱匿されて本坊內に移さる出據比喩

堀初橋　高津入堀、高津入堀、難波入堀、鰡川との連絡（明治卅一）に際し、堀初めし箇所に架設。出據構置

中橋（舊）　道頓堀川、相生橋の舊稱、甲乙兩橋の中に設けられた新橋の意。巢林子の重井筒に。

『月は早や渡り初めして中橋や、六軒町の小夜格子、唐土の聖人の曰く、色の德には隣あり、向ひ兩側輝す、軒の燈火月印に、昨日も今日も明日の夜も重ね井筒の釣瓶繩、手繰來いとの夜すがらや』と。出據構置

四つ橋（俗）　西橫堀川と長堀川と出會ふ所、二流十字に土地を四つに仕切る。其鼻を井字に結ぶ上繫橋、下繫橋、炭屋橋、吉野屋橋の四橋の總稱、橋上の人、橋下の舟共に繁く、又納涼に觀月に風景の賞すべきものあれば、俳人雅客の吟詠甚だ多し。

早野思齋　井字橋頭晚月明、人稀藍水雨新晴、江神似護天公壁、曲欄相圍倒影生。

來山の『涼しさに四つ橋四つ渡りけり』の句碑も有。出據構置

緣切橋（俗）　道頓堀川、相合橋の異稱、相合の名に相應からずして、男女連だちで此橋を渡ると必ず緣切ると傳ふ。故

に嫁入縁談其他一切の掛合ごとに此橋の通行は禁物。出據迷信

思案橋（舊）　東横堀川、大手橋の舊稱、增田長盛が此橋の命名に當り、思案に暮れしより起る。出據故事

鉾流橋　堂島川、天神祭舟渡御の鉾流し神事の行はれたる地。出據故事

磐舟橋　高津入堀、下照姫命が天磐舟に乘つて高津の地に到るの故事に因む。出據故事

操橋（舊）　道頓堀川、戎橋の舊稱、橋の南に竹本の操がある。今の浪花座は竹本の跡。出據在操

太左衛門橋　道頓堀川、橋の南に大坂太左衛門の芝居（今の角座）がある。出據芝居

難波小橋（舊）　曾根崎川（元）　難波橋西寄りに位する小橋の意。出據橋名

天神小橋、天滿橋川、天滿天神表門東西の通に當るを以て大川の有名なる天神橋に對して小橋と附す。出據橋名

新戎橋、道頓堀川、上座に戎橋、下座に大黒橋、其中に割込み更に新橋が架る中橋とするのも月並だし、新橋とするのも智慧がなさ過ぎる、一層新戎橋と擔ぐのも一興。出據橋名

上之橋、海部堀川

中之橋、海部堀川

下之橋、海部堀川、橋の下行く水の流の次第を追ひ、新規の橋をば假に上之橋、中之橋、下之橋と定めて置く、其の内良い名も見付からばと、詮索しつゝ今に假りのまゝ繼續。出據川勢

六

獨よがりの橋名詮索も、餘り山鳥の尾のやうに冗筆を弄してゐては、お互に迷惑である。で最後に今一つ、その昔より人柱で著聞されてゐる長柄橋と共に知られ、且つ最も由緒の古い難波橋の緣起に就て數言を費さう。

今を距る千幾星霜。御代は奈良朝の聖武帝、光明皇后が施藥院や療病院や悲田院に今樣の社會事業とやらに御熱心であつた。名門高僧は競ふて孰れも民福の爲に骨折つたもの。其の際僧行基が此の難波橋を創設したと傳はる。即ち元亨釋書に『聖武帝甚敬重之天平十七年爲行基大僧正、基時在攝州造難波橋』と見ゆ。所は古歌に云『心あらん人に見せはや津の國の難波渡りの春のけしきを』（後拾）と歌つた其の邊であらう。難波之大渡は元來渡邊の地先に所在せるを以て、一に渡邊とも呼ばれし時代もあり、水陸交通の要衝に當つてゐた更に橋が架つてからは、陸路京師へ通ずるの便を啓かれし譯難波一橋の別名仍て起る。從て難波橋が一時中絶の後、渡邊橋と生れ替つたのも、同橋供養奉行遠藤盛遠が袈裟御前を見初めた程の偶生の有緣ではない。大江橋も渡邊橋と同樣『渡邊や大江の岸』の續柄もと一橋三名であつたのか。昭和の今日では、難波橋、渡邊橋、大江橋三橋とも開創當時とは地點を夫々異にして仲好く、淀川、堂島川に其の雄姿を泛ぶ。

難波橋々畔、四隅に踞まる石獅子は、行人にそも何を語る六帖　津の國の難波の浦の一つ橋君を思へばあからめもせす。

附陽臺地名考

陽臺

妓邑島之内の異名。ミナミ、江南、南江、南州、南陽ともに同義で、孰れもその方位に由來する。かの新町をニシ、西廓と稱へ、曾根崎を北里、北州と呼ぶの類。

秋滿江南十二樓　新歌一調轉二嬌喉一
恨無レ由レ薦二陽臺夢一　買レ笑千金醉裏投

陽臺遺編

島之内

難波八十島の内の一、されば後世略して單に島之内と唱ふ東は東横堀川、西は西横堀川、南は道頓堀川、北は長堀川を以て限られた土地。わけて江南の妓邑は白人の本場、戀の重荷のナア島之内との定評がある位。

太夫の美なるは櫻にひとしく花の王にして雲上に氣高くものかず言はず、春の夕邊の鐘の音にしどけなくも散りかゝる眺めにも似たらんか、白人は牡丹の花ならん華美にしてしやんとしてとりわき花の富貴なるものにして、名に高き判官の露をふくむ花のもとに戯れ離れがたくもより添ひてねむりを催す有樣にも似たるべし。

虚實柳巷方言

布袋町

疊屋町筋の南寄りは白人の本據である。世の人はこの白人を子供衆と云ひならすよりして、その子供衆が群住するのを布袋に譬へて町名とする。

六軒町

南塗師屋町を俗に六軒町と號し、それは河内屋、桔梗屋、美濃屋、堺屋、春木屋、重井筒屋の青樓六軒あつたのに因る。巢林子の重井筒に、

月は早や渡り初めして中橋や、六軒町の小夜格子、唐土の舉人の曰く、色の德には隣あり、向ひ兩側輝す軒の燈火目印に、昨日も今日も明日の夜も、重ね井筒の釣瓶繩手繰來いとの夜すがらや

小夜格子とは二階の窓を竹格子で造つてあるのを云ふ。

新屋敷

江南に連らなる岡場所、新規に繁生した由緣を以て新屋敷と名付く。菊屋町に屬する小路、藝人の居宅を構ふるもの又多し。（未了）

（本篇は筆者佐古氏が南區區志ポスター用として編纂せられたるものを乞ひ本誌に揭載したるものを轉載

◇　◇　◇

尙南區志編纂資料御所藏せらる方に於いて御貸與方を望まれて居ります。

名士の考へてゐる邸宅

一體現代の名士が市内に於いて自己の邸宅を營むとすれば怎麼意見を有つてゐらるゝのであらうか、今編輯部に於いて收集したる名士の意見を左に發表して聊か讀者の御參考に供したいと思ひます。

◇　◇　◇

お答へ

杉本又三郎

オフィスを市内に住宅を郊外にといふことは近代の趨勢で私もさうしたいと思ひます。然し、市内でこの御注文故マア無理から選んで見て、ごうにも東南部といふところですが、市の地域内だとすると、郊外の妙味薄く、そこへ町端れの不便さがありまして、ごちらつかず不徹底となりますから、もつと中心にちかい處で住宅地を求めまするこ天王寺方面、桃谷附近を選ぶべきでせう。

尤も住宅の選定はその廣さに重大なる關係がある。もしか一萬坪も地區が得られるならば、どんな場所でも都合よく出來ます。大抵な條件はその地區で具備することは難くはない。せめて一千坪あれば中之島附近で川添ひの處に住宅を營めば優に潤く取れないではありません然し、私は商工業都市たる我が大阪市内に於て餘りに廣大なる私邸を占有することは、いづれの點から見ても不經濟であるのみならず、寧ろ甚だ面白くないことと考へますので、先づ澗さに於ては四百坪位を要求したいと思ひます。

その中に約百坪の邸宅を建てることにしたい。さて、その百坪の建築、マア、門構へから玄關先き、伴待ちから、内部全體の間取り、採光、通風、保溫の設備から、地形、用材、屋根仕舞、さては建具、飾物等の末に至るまで、それからそれへと考へ進めて參りますと折柄の酷暑も忘るゝ程の興味を覺えるのであります。

つきましては、一體、從來の我國振り建築は餘りに主人本位で現代の思想にはピッタリと致しませんが、さればとて、今のマダムの設計も餘りに子供本位が多くて、こもすれば老人を忘れがちになるのも感心しません。この三者に對して、主婦の働き場所、客人の接待所、この五者の調節をうまくすれば成功したる家屋と私は老へます。

住宅は趣味に合致しなければならず、それだとて家相も馬鹿にはならず、それ等を參酌して大體は日本風、子供室、書齋、應接間は矢張洋風にしたいと思います。

邸宅に對する私見

平賀周

(イ)大阪市内トスレバ天王寺帝塚山方面ガ最モ好適地ト存ジマス。
(ロ)二階建ガ適當デシヤウ。
(ハ)住宅トスレバ日本風トシテ應接間ハ椅子式ガヨイデシヤウ。
(ニ)家ノ廣サハ家族ノ數ニモヨルシ、生活ノ程度ニモヨルコトデスガ餘リ大キィ家ハ必要ガナイト存ジマス。
(ホ)住宅トシテハ木造ニ限リマス。

山岡順太郎

(イ)住吉區又ハ天王寺區ノ方面ヲ選ビタイト思ヒマス。
(ロ)住宅トシテハ二階建ノ方ヲ好ミマス。

ハ、家ハ日本風ニテ洋風ヲ加味シタヨノヲ好ミマス。
ニ、家ノ廣サ平坪ニテ五十坪以内屋敷ハ千坪ヲ超エザルコトニシタシ
ホ、木造ヲ根本トシテ鐵筋ヲ加味スルコトヲ好ミマス。
但以上ノ外倉庫溫室ノ必要アルトキハ之ヲ別トスルコト。

市内で邸宅を營むとすれば

井原百介

(イ)舊市内ナレバ天王寺方面ノ高地新市内トスレバ住吉區阿倍野方面ノ高地
(ロ)住宅ニテ階段ノ多キハ家族ノ迷惑不便勘カラズ二階建ナレバ十分ナリ。
(ハ)二重生活ニハ相違ナキモ和洋混合、老人婦人(ハイカラ婦人ニアラザル一般ノ)抔ニハ總テノ點ニ於テ日本座敷ヲ好ムモノ多シ但シテーブル生活ハ總テノ動作ニ便ナルガ故讀書室、應接室(特ニ男子ニ對スル)ハ洋風ヲ可トス。
(ニ)座敷ノ面積餘リ廣キハ社會政策上面白カラズ先ヅ住宅ノ十倍前後トシ庭園、蔬菜、果樹、花卉等ノ栽培地ヲモ此内ニ含ム。
住宅ノ餘リ廣キハ徒ラニ人手ヲ要スルコト多ク何ノ益ナシ其間數ノ如キハ家族ノ多少ニ因ルモ主人夫婦ニ對シテハ六乃至七間坪數四十坪以内ト土藏一棟、子供アル場合ハ此外ニ各一室ヲ要ス。
(ホ)和洋室共ニ木造

此のイロハ順の回答に對する問は(イ)は方面(ロ)は階敷(ハ)は樣式(ニ)は家の廣さと屋敷の廣さ(ホ)は構造と材料に就いてソレ〳〵好まれる所をお聞きした次第であります。

(イ)住吉區内ノ高臺地ニ撰ビ度
(ロ)二階位ヒガ結構デス
(ハ)應接間ハ洋風、其他ハ日本風ニ便所、浴室、臺所ヲ充分研究シテ氣持ヨク致シタイ
(ニ)延六、七十坪位ヒニ住宅ヲ、其他倉庫、物置等適當ニ
(ホ)倉庫丈ケハ鐵筋、其他ハ木造(但シ耐震上充分研究シテ建テ度イト思フ)

土岐嘉平

(イ)天王寺方面高臺
(ロ)二階
(ハ)階下ハ洋風、二階 和洋兩樣
(ニ)家ノ廣サハ百坪餘リ、屋敷ノ廣サリ三百坪以上
(ホ)木造

江崎政忠

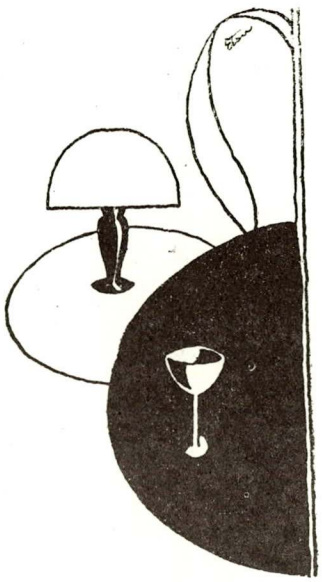
(イ)阪和電鐵沿線
(ロ)大部分平家、臺地ニヨリテ一部二階建
(ハ)和洋折衷
(ニ)家ノ廣サハ七十坪ヨリ百坪迄、屋敷全體ノ廣サハ三百坪ヨリ五百坪迄
(ホ)一部木造、一部鐵筋

湯淺豊太郎

(イ)東區又ハ天王寺區方面ニ於テ高燥ナル處ヲ選ブ
(ロ)三階位
(ハ)洋館
(ニ)建坪三十坪位、屋敷百五十坪位
(ホ)鐵筋

藤原九十郎

(イ)南大阪方面
(ロ)二階位
(ハ)和洋折衷
(ニ)家ノ廣サハ屋敷ノ三分ノ一以下
(ホ)木造



ハウスマン

―都市計畫家銘々傳―

藤田進一郎譯

本篇は、『タウン・プランニング・レヴィユー』誌六月號に掲載されたエルバート・ピーツ氏の都市計畫家銘々傳の第一章ハウスマンを飜譯したものである。この銘々傳は、同誌上に續載されることになつてゐるが、四ケ月に一回の發行であるから、毎月引續き紹介することはできず、途中で中斷されることもあるかも知れないけれども、ともかく、手に入り次第譯載して、世上都市計畫家の參考に資することゝする。

一

ハウスマンといふ名は、今日では、一つのシムボルとなつてゐる。それは、かつて生きてゐた人間の名といふよりも、むしろ、現在のわれ〳〵の思想と密接の關係を有する普通名詞といつた方が適切であり、われ〳〵の目的に適合するやうに、事件や、思想の内容を變更しかつこれを一般化するはたらきをもつてゐる。都市計畫の書物のうちには、ハウスマン男爵の名は、パリの改造即ち普通に、近代パリの美觀と便宜とを意味するものとして用ひられてゐるのである。かつハウスマンが、パリの町のいたるところに、豊富なオリムピア風の壁龕をしつけて以來、その名はまた、前例とみなすに足るやうなすべての事蹟を神聖化するものとみられてゐるのである。

しかし、かれも、生きた人間に外ならなかつた。ハウスマンとはたゞその生きた人間のもつてゐた名に過ぎないのである。ナポレオン三世の家臣で、ハウスマンをセーヌの縣令に推擧したプレシニーは、初めてハウスマンに逢ひ、直ちにその生きた人間であることを發見した。『かれは、大柄な、ふとツちよの、強くて力のありさうな、しかもどこかに纖細な氣の利いた風をしてゐた。かれが野獸のやうな、氣味のわるい皮肉なかつこうで、余の前に立ちはだかつたときには、余は、蠻的な財政家や法律家を追つぱらふのに、これこそ最適任者だと思つた。最も有能なれども寛大なる貴人ならば、慨かに失敗するであらうと思はれる場合に處しても、この首の太い運動家(アスリート)は、詐略に及向ふに詐略をもつてし、きつと安全

にきりぬけうるに相違ないといふことを見てとつた。余は、一見して、この圖體の大きな肉食獸と、國家の高貴なる努力には善惡を問はず、片つぱしから反對して、吠えついたり、咬みついてかゝらうとする狼や狐の間に放ちやることの痛快さを思ひやつて、獨り自らほくそゑんだのである』この追憶の言葉は、簡單ながら、尨大な數冊の傳記よりも、一層適切に人間としてのハウスマンをいひ表はしてゐる。眞にこれパリのやうな都市を、一旦破壞して、さらに再建するに必要な頭腦であつたのである。

◆

ハウスマンは、一八〇九年、郊外のサン・オノレに生れた。家族はアルサスのユーグノー宗徒であつたので、ルーヴル近くの祈禱所で洗禮をうけてジョルジ・ユーゼースと呼はるやうになつた。父と祖父とは、ナポレオンの兵站部員として、重要の地位を占めてゐた。母の父は、アメリカに渡つてラファエットのもとに働らいてゐた。アンリー六世大學に入つて法律を學び、卒業して官吏となり、ボルドー縣令となつてゐたが、一八五三年、ナポレオン三世の命をうけて、パリ改造の大計畫を實行すべく、セーヌ縣令に任命されたのである。

ハウスマンが斧鉞を下さうとした土地は、多くの舊式の畝で一杯になつてゐた。フランスの歷代統治者は、みな一度は必ずパリの都市計畫に手を染めたからである。マルセス・ボエートの說によると、新らしきパリは革命から始まつたといふことであるが、革命の勃發したときのパリは、もうすでに都市美術の寶石をもつて美しく綴られてゐたのである。マデレーンからバスチーユまでの莊麗なブールヴアールもあつた。ヘンリー四世の煉瓦と石のヴォスゼの廣場や、ダソフイーヌの廣場もあつた。ルイ十四世の大きな銅像のたつたヴアンドームの廣場もあれば、小さな圓いデヴイクトアール廣場もあつた。當時はルイ十五世の廣場と呼ばれてゐたコンコルドの廣場もあれば、チユイレリーや、ルクサンブールや、その他多くの王宮の庭園もあつた。廣々とした使步道の河邊にまで通じた廢散院や、兵學校や、シャン・ド・マルスや、クール・ラ・ラインや、シャンゼリゼーや、サン・マルチン及びサン・デニスの凱旋門や、バリエール・ド・ラ・ツロースに聳えた双圓柱や、むかしのパリの殆んど信ずべからざるほどの大富力の蓄積である王宮や私邸や、學校や寺院の美しい建築物の、驚くべき多數のうちの一部分とも見るべきさま〴〵の前庭や、花園もあつたのである。

◆

これらはみな多少とも革命の兵燹に見舞はれたが、その復興事業の顧問として、間もなく藝術委員會が組織された。この委員會は一般的計畫としては、何等爲すところはなかつたか、他と競爭のもとに、または單獨で、いろ〳〵の暗示を與へたり、掠奪された寺領の區分や、舊市の諸部分の改造を含む計畫の豫算を作つたりした。しかしこれらの提案の多くは少しい以前から行はれてゐた意見を、單に採擇したに止まるのであつた。ナポレオン一世の言葉として、『バスチーユからルーヴルの東の入口にいたる間に、一つの直線路を開築するとは、パリが初まつて以來の問題だ』といつたと傳へられ

てゐる。無論ナポレオンは二三この委員會の提案を實行してゐる。たとへば、カルルーゼルの廣場にいたるまでのリヴォリ街やアヴェニュー・ド・ロブセルヴアトアール、サン・スプリース廣場、ヴアンドーム廣場を軸線とする短い街路の擴築などがそれである。かれは技術上においてもまた多くの仕事をなした。橋梁を架設し、埠頭を設け、マデレーヌ、ヴアンドーム廣場の圓柱、カルルーセルのアーチなどを建立し、凱旋門の建造にも着手した。一九一四年以後は、あまりはかばかしくはなかつたが、それでも徐々にナポレオンの計畫は完成され、マルシエルブの廣路の工事も初められ、一八三〇年になると、コンコルド廣場の方尖碑と噴水とが出來あがつた。

二

ルイ・ナポレオンは、アムの牢獄に投ぜられ、その砲兵隊の歷史を編みつゝある間にも、パリの改造を夢みたにちがひない。市と國家との協調のもとに、リヴオリ街を擴張し、さらに多くの新街路を開築せんとする計畫は、すでに一八四九年に着手されてゐたのである。ハウスマンがパリへやつてきたときには、ナポレオンはすでに、ストラスブールの廣場を完成し、學校通りを開築し、リヴオリ街の新らしい部分の工事を進捗させてゐたのである。

ナポレオンは、自分の計畫をハウスマンに說明し、新たにセーヌ縣令に任命されたかれは、いよ〳〵仕事を始めることになつた。先づ何よりも必要に感じたのは、精確なパリの地圖であつた。その頃のパリは、高い〳〵足場の塔がたてられ全市は三角形になつてゐた。工學家や建築家は、いろ〳〵な計畫を工夫した。その經費は、入市稅や、市公債や、國庫の補助に仰ぐはずであつた。土地や家屋は收用された。舊家を取りこぼち、新らしき家屋と、立派な舖裝と、照明と、上水道と下水道とを備へた街路を開築するために、巨額の請負契約が、いくつも〳〵締結された。市廳舍や、政府の建築物の立派なのができ上り、多くの廠舍や寺院が建てられた。かくて幾年も〳〵仕事は繼續されていつた。しかし、一八七〇年、ナポレオン政府の最後がきたときには、主人にとつてもその使用人にとつても、多くの計畫はまだ仕遂げずに殘されてゐたのである。しかし、その後平和の克復とともに、その遺業をうけつぐべく新手がいれかはり、一八七八年フランスが大博覽會を開けて、全世界を招待したときには、パリは全くその面目を一新してゐた。

◆

パリ改造の成功は、世界的であつた。大砲の巨彈が射抜いたやうなブールヴアールや廣々とした辻やによつて特徵づけられた獨特の計畫の型は、ジツテとその一派のものが現はれハウスマンの傳統がチユートン人種の間に行はるゝことを阻止するまで、即ち十九世紀の終りごろまで、全ヨーロッパを支配してゐたのである。ともよりフランスはいつまでもその遺志に忠實であつた。アメリカは今日なほ、そのgridironsに執着し、をり〳〵郊外においては、ロマンテイツクな風景の屈曲を中止しやうとしてはゐるが、どうしてあのやうな思ひきつた對角路線を設けやうかとあこがれてゐる。シカゴ市は全然ハウスマン化された計畫を立て、次の時代はそれによつ

て準備されつゝある。ワッカーのシカゴ都市計畫手引書のうちには、次のごとく記されてゐる。『史上最も偉大なる都市建設者として、世界に知らるゝハウスマンは、すべての舊きパリの町をきり開いて、日光と空氣とを通じた。こゝには新しき街路を開き、かしこには舊き街路を廣くし、莊麗なる建築物がみえるやうに、數千の舊き建築物を打ちこはし、都市の距離を短かくするために、新らしき對角路線を創設した。市民は、改善されたる都市は、その住民の一層大なる富を意味することを知るがゆゑに、これらの改善を進めつゝある人々を、喜んで支持した。この理論の正しいものであることは遂に證明された。毎年々々大せいの人々が、世界のいたるところから、美しいパリ見物にやつてくるが、かれはかうしてパリの商人や職人の間に莫大の金をふりまき去るのである』この言葉は、少しく拔け目のない人の心には、一種のわざとらしい意味を帶びてゐることは觀取されるが、それには理由のないことではない。これに附隨した多くの不愉快な事實やまち〳〵に別れてなか〳〵一致しなかつた意見の相違を、全然勘定にいれてゐないからである。

◆

ハウスマンの心に、新らしいパリの孕まれたのは、一八四八年であつたが、その年には、何もまだ生れなかつた。共和黨政府は、國立勞働場において、すべて國民に仕事を與へることを約束した。しかし、この國立勞働場は永くは續かなかつた。パリの東部に住むものは餓餓に襲はれ、以前からの習慣に隨ひ、赤色の帽子を冠つてあばれ廻つた。頻々と暴動も起り、兵隊たちは自分の廠舍のうちに立てこもつて、外部から包圍攻擊をうけ、大統領ボナパルトは、フランスの農民には心配はなかつたが、お膝もとのパリ市民を强敵としなければならなかつた。かれらには仕事を與へなければならぬ。錯雜した街路、人民のバスティーユは打ちこわさなければならぬ。問題は簡單である。かれらを雇ひこれらの迷宮を通じて大砲發射場を切り開かせよ、また郊外のうちに、新らしき廠舍や、寺院や、新らしき街路を建設せしめよ、かくの如くにして首府の安全を守るための費用は、國家が支出すべく尙足らずんば入市稅をもつて支辨すればよいのである。パリの町を破壞し再建してゐるうちには、人民を四散せしめ、其の代りに紅の花さく野草のうちに、忠實なる植物の列をならべることができる。一八五二年十二月の野蠻戰爭は、その必要を確かめ、かつ碧血をもつてパリの改造を洗禮した。

三

動機は單純ではない、いつもこんからがつてゐる。ナポレオンは、便利な、衛生的な、かつ美しい首府において統治しやうとした。しかし何よりもまづ切望するところは統治である。かれが新らしい街路を開築した根本の動機は軍事上の作戰にあつた。ハウスマンがパリへ招かれるずつと以前に、ナポレオンの描いたパリ改造計畫のうちには、見えすいた作戰上の價値をもつた二つの主要條件があつた。その一つはルーヴルとオテル・ド・ヴイールから『パリの腹部』をきり離しつゝあるリヴオリ街を延長して、トユイレリーからヴアンサンヌまで直接連絡道路を作ることであり、一つはレプブリック廣

場とそれから放射する三路線を開築することであつた。廣場には一大廠舍が建築された。三路線の一つであるマジャンタ廣路は北停車場及び東停車場への通路となつた。ヴォルテール廣路は、ナシオン廣場によつて、ヴァンサンヌの軍隊倉庫と連結されてゐる。ツルビゴー街は、パリの不夜城を貫いて走つてゐる。最初ナポレオンがアヴェニュー・ド・ロベラを計畫したときには、カプシーヌ廣路からサン・ラザール停車場まで直線路を延長しやうと考へてゐた。もしこれがその通りにでき上つてゐたならば、チュイレリーから停車場まで直線道路ができ、鐵道線路の死線によつて、パリの『印象する(インプレッシヨナル)』部分を『印象した(インプレッスド)』部分およびチュイレリーから分離してゐたかも知れない。

◆

ハウスマンはその回想錄を一八九〇年に書いてゐるが、そのうちには、一方に街路の開築は、戰術上の見地からばかりではいけないことを說き、他方には、動もすればパリ改造の計畫を妨害して、自己の生活の幸福を阻害しやうとするパリ市民に反對してナポレオンを辯護してゐる。またサン・マルテイン運河を埋立てた方がいゝといふことをナポレオンに暗示したことも記してゐる。ナポレオンは、一方の端から他方の端まで、一直線にぶツ通し、それを支配線として、サン・アントニーの郊外全部を、必要に應じて護衞たらしめやうとする考へを懷いてゐたのである。運河は暴徒のためには防禦の地物となるが、これを埋めたてゝ廣路とすれば、暴徒の集合する場所へ容易に近づくことのできる通路となる。これにはナポレオンも贊成するにきまつてゐる。

ハウスマンはまた經濟的の戰術にも得意であつた。オリヴイエの『ラムピール・リベラル』のうちの左の一節は、よくかれの巧妙な手段を證明してゐる。

中止は必要らしく見えたが、かれは一瞬といへども、そんなことを考へたことはない。一億五千フランの公認公債によつて、かれ一億七千萬フランを得、また公益事業資金認可額一億フランの代りに、一億五千萬圓を手に入れた。また土地收用の補償金を捻出するのに獨特の名案を用ひた。即ち富有な請負師に、一部分すでに家屋の建築されてゐるある一定の面積の土地を讓渡することを契約した。請負師は、市の名において土地を占有し、街路を開き、とり壞した材料を賣り拂ひ、接近土地の上に家屋を建てゝ、それを賣却したりするが、街路だけは、六年または八年の年賦で、再び市の方へ賣りもどす。しかし市はその買收土地に對しては、相當の代價を支拂はなければならないので請負師も必要の金額を供托しなければならぬ。ところがこの供託金は市の差迫つた運用資金として流用される便利があつた。請負師をして、貸付をなさしむるためには、ハウスマンはその好餌として委任公債を發行する權利を與へた。この委任公債は市の裏書があり、必要に應じて、何時でも現金にひき換へられるやうになつてゐた。土地抵當銀行は、これらの大部分を割引した。これはかゝる公債は立法院の承認を得べしといふ法令に違反してゐるが、緊急已むを得ざる場合とあつて、皇帝もそれを承認されたのである。

シカゴで出版された手引書が、ハウスマンに對する一般の後援を證明するためにあげてゐるのは右のやうな事實であるが、請負師も銀行家も、とにかく熱心であつたことは、想像に難くはない。

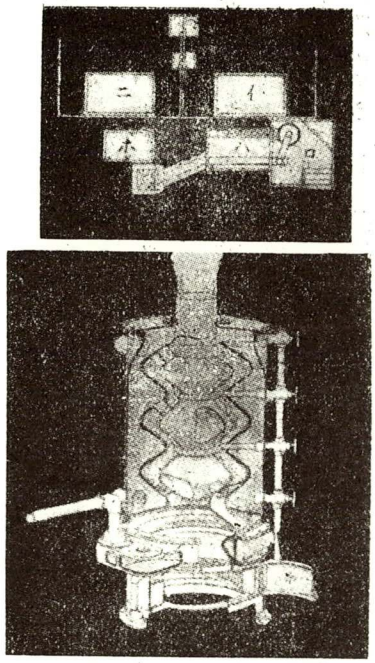
◆

ナポレオンと、ハウスマンの開築した廣い街路が、パリ市の交通に非常な利益となつたことは、否むべくもない。大砲運用上の作戰はタキシー交通上の作戰と似てゐないわけではない。しかし、肉體的及び社會的健康上からみて、それはまだ極めて幼稚なものであつた。上水道なども水槽しかけであり、地面は高い貸長屋で過群狀態に陷つてをり、街路ばかりが廣いのに拘らず、建築された地面の割合はだん〳〵と增加するばかりであり、それに注ぐ日光も空氣も、パリの史上における紅の頁を防ぐに十分ではなく、數年間、ハウスマン男爵も、外國を旅行して來た方がよいと考へたくらゐであつた。

（つゞく）

新案特許　林田式湯沸

兵庫縣武庫郡魚崎町日本釀造機械株式會社にては久しく研究中なりし湯沸を今回新案特許を得たるを期し廣く發賣に決したる由にて本品の構造及特長等の大略次の通りにして此の種發明品としては確に出色品である。



一　湯沸の構造及特長

湯沸の構造は内外共全部金屬製にして堅牢耐久力強大價格至極低廉なり

本機の特長は斷面圖の如く傳熱面電光形狀を爲し火熱板極めて廣きが故に火熱の効力多大なり燃燒部内側に取付けたる燃燒裝置は多年苦心研究したる精巧なる化學的瓦斯作用を起す一種獨特の完全裝置なれば如何なる燃料と雖も火勢を熾んならしめ悉く燃燒するが故に煤煙の排出も至つて稀薄なり

一、煙道の掃除

煙道の掃除は水を利用し外部「バルブ」を開ケバ煙路内に取付ある連還せる「パイプ」の小孔より傾斜に噴水して容易に洗滌し得らるるなり

一、在來品との比較

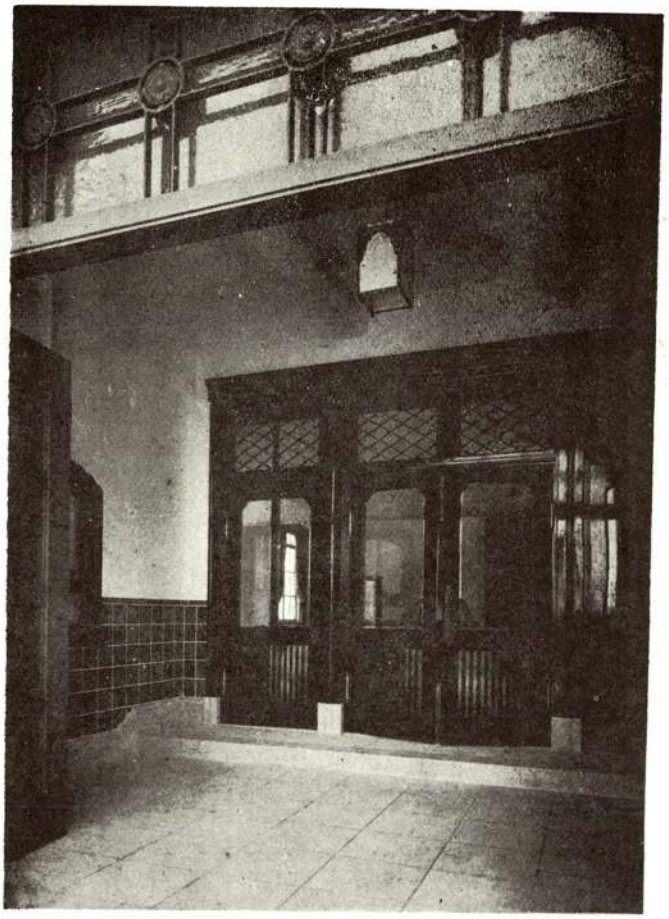
一般使用の「ボイラー」及風呂釜は水量十五石は石炭七十斤と一時間半を費せしも今回考案に成る湯沸は同水量にて所要石炭三十五斤と四十分の短時間を以て完全に湯沸に達することを得



兵庫縣・芦屋川畔・芦屋佛教會館・本館

設計及監督　工學博士　片岡安

建築工事請負　大阪高橋組

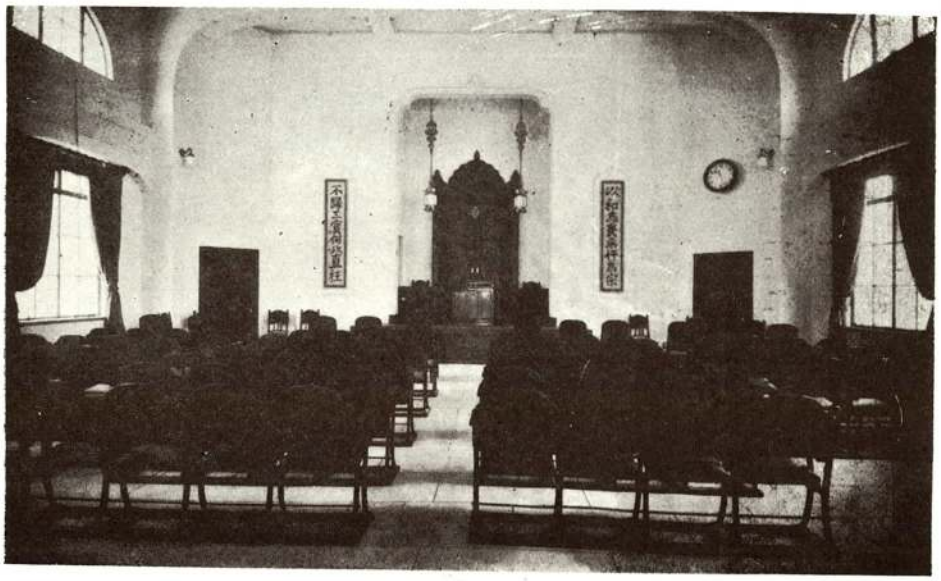


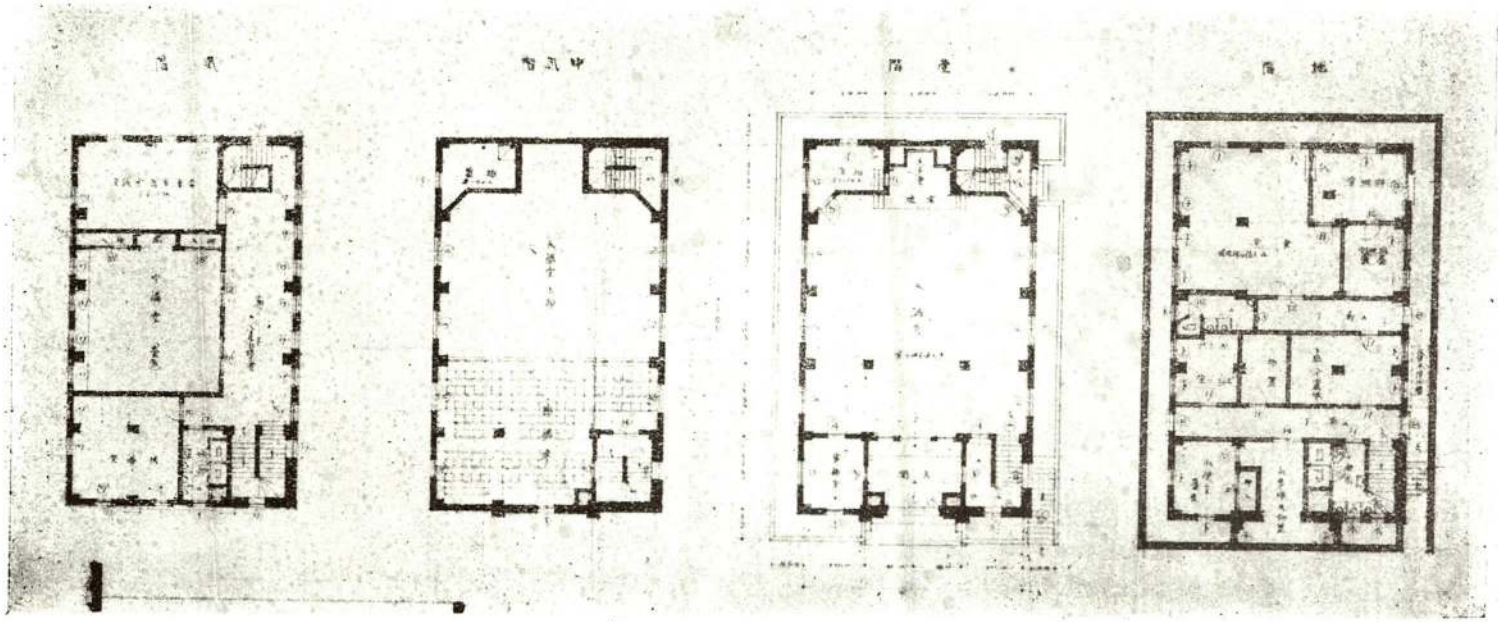
同

玄關

同

大講堂





兵庫縣・芦屋佛教會館・平面圖

建築の概要

位置　兵庫縣武庫郡精道村蘆屋字中程貳百九拾七番地
（蘆屋川畔新國道北）

建築様式　東洋風を加味したる近代式

敷地面積　二〇四坪三八

建築面積　六〇坪〇〇

總延坪　二一三坪二九

内譯

地階　六〇坪〇〇（食堂、同管理人室、料理室、冷藏室、物置、便所、本館管理人室、同炊事場、下足室等）

一階　六〇坪〇〇（大講堂、控室、事務室、玄關、階段室二ケ所）

中二階　二九坪九六（聽講席、電氣配電室、階段室二ケ所）

二階　六〇坪〇〇（貴賓室、中講堂、會議室、廊下、便所、階段室二ケ所）

三階　三坪三三（階段室一ケ所）

本會館は大正十五年八月工事に着手し、工程約十ケ月、昭和二年五月を以て全部の竣工を告ぐ。地下室とも三階建にして壁體、床、屋根に至る全部は鐵筋コンクリート構造なり。

建築様式は東洋風の手法を加味したる近代式にして、殊に内部大講堂の正面には本館建設の主旨に相應しき印度風の手法に意を用ゐたる聖徳太子の御厨子奉安所を設け、中二階の聽講席を加へたる本講堂は約四百人の聽衆を容るゝに足るべし。

三階講堂は疊敷となし、百人内外の座式聽衆を容るゝに適せしめ、特に廊下は幅十二尺となし、休憩室、喫煙室に兼用し、地下室に食堂を設けて、會衆の利用に供す。

二階並に地下室には洗滌式便所を配置し、電燈照明は直接半間接となし、暖房裝置には電熱を用ゆることゝせり。

工事關係者

設計及監督　工學博士　片岡安

建築工事請負者　大阪高橋組

社團法人日本建築協會會報

會合

○定例常務會

昭和二年八月十日自午後五時至同七時

出席者

理事　宗君　日高君
常務　坪井君　松室君　阪口君
　　吉井君　谷君　八木君

報告

一、七月分會計報告

決議事項

一、協會事務所移轉先決定の件
二、建築學會主催建築展覽會開催に關し本協會の態度決定の件
三、會員入退會の件

左記の方の入會を承諾すること

會員　小林市太郎君

左記諸君の退會を承諾すること

會員

多田七五三一君　杉原　茂君
太田　正之君

特賛

武安　笑吾君

普賛

佐藤　武夫君　安藤與右衞門君
三宅　春陽君　手賀　謹次君
黒瀬　政雄君　田口　正治君

四、日本建築士會關西支部事務所に關する件

新入會者宿所

會員

小林市太郎君　府下三島郡吹田町一、一三七

轉勤轉居

會員

野上　一郎君　東京市麹町區丸ノ内ビル　清水組本店内
福島　祿壽君　別府市主催中外産業博覽會囑託技師
戸塚　端君　府下岡町幸通三丁目
五十嵐芳雄君　北區茶屋町五四濟美第一小學校建築場大林組出張所
福永　茂明君　東京府豊多摩郡下澁谷町六四一
山本由太郎君　東淀川區南濱町三ノ二九
上東　辰澄君　東京市神田區山本町神田市場建築場大阪橋本組出張所
水上　昌三君　三重縣三重郡海藏村日本無電會社受信所建築場大林組四日市出張所
岡田初太郎君　東京府下中野町中野三八八四鯉登莊司方
生野彌三郎君　北區曾根崎中二丁目第一曾根崎ビル生野建築事務所
西澤　藤生君　東京市日本橋區箱崎町東神倉庫工事場大林組出張所内
田邊　滿一君　金澤市長町一二ノ六
井上與右衞門君　東京市小石川區大塚上町五住友銀行大塚支店建築場
八尾　眞藏君　東京市外戸塚町諏訪九七ノ五
有田　桂太君　東京市牛込區新小川町二勤先、東京市神田區駿河臺北甲賀町一二東京基督教女子青年會館建築場

普賛

押川　忠夫君　群馬縣群馬郡岩鼻村岩鼻火藥製造所内
岩柳　三朗君　東京府下松澤村松原六七九
上田喜三郎君　（此花區上福島北一ノ三八勤先、渡邊建築事務所）
高濱　利道君　東京市神田區駿河臺鈴木町五高瀬方
鈴木淺太郎君　名古屋市中區御器所町木市二七
遠山　勇吉君　北區中之島日本銀行大阪支店建築場大林組出張所内
酒井　捷治君　同上
藤原　節雄君　東京市芝區赤羽町一簡易保險局建築場大林組出張所
吉田光太郎君　東京市深川區萬年町明治小學校大林組出張所
松久保敬三君　西成區玉出町本通一ノ五八勤先、東區京橋三丁目大林組本店
田中卯三郎君　大阪府警察部建築課
高松　秀行君　福岡市荒戸町三番丁二〇五
清野彌三郎君　京都市上京區吉田下大路町四五
松本末太郎君　橫濱市馬場町二一八
戎　市三郎君　港區石田布屋町一三七

建築事務所開設

會員

生野彌三郎君　生野建築事務所
北區曾根崎中二丁目第一曾根崎ルヂング内（電北二一五五）

寄贈雜誌

電氣評論　每號　其　社
都　人　每號　其　社
學士會月報　每號　學　士　會
建築世界　每號　其　社

朝鮮と建築　每號　朝鮮建築會
セメント界彙報　每號　日本ポートランドセメント同業會
住宅　每號　住宅改良會
建築雜誌　每號　建築學會
工政　每號　其社
經濟資料　每號　東亞經濟調查局
土木建築　每號　其社
建築新潮　每號　洪洋社
大阪工業俱樂部　每號　大阪工業俱樂部
通俗衞生　每號　大阪府衞生會
帝國鐵道協會報　每號　其會
工業評論　每號　其社
電氣學會雜誌　每號　其會
鐵道軌道經營資料　每號　鐵道同志會
趣味ノ園藝　每號　關西園藝會
國際建築時論　每號　國際建築時論社
土木建築之日本　每號　其社
優生學　每號　日本優生學會
工業ト社會　每號　東京工業會
工業　每號　大阪工業會
滿州建築協會雜誌　每號　其協會
日立評論　每號　其社
庭園と風景　每號　日本庭園協會
圖書室月報　每號　東京市政調查會
大阪網島工業會誌　每號　其會
エンヂニヤリング　每號　其社
工業要錄　每號　其發行所
都市研究　每號　兵庫縣都市研究會
名古屋工業會々報　每號　其會
大阪每號　大阪都市協會
生活　每號　生活改善同盟會
建設　每號　其社
都市問題　每號　東京市政調查會
新建築　每號　其社
京都の實業　每號　京都商業會議所
建築　每號　中央建築會
都市創作　每號　其會
研究資料彙報　每號　大分高商調查部
木材彙報　每號　大阪木材協會
建築工　每號　其會
建築時論　每號　其社
建築學研究　每號　其會
動力之節約　每號　工場能率增進研究會

役員

會長　理事　片岡安
副會長　理事　宗兵藏
副會長　理事　日高胖
監事　橫濱勉
監事　松本禹象
主記　常務　坪井誠一
同　常務　松室重光
同　常務　阪口芳三郎
主計　常務　德政金吾
同　常務　吉井長七
同　常務　谷民藏
編輯　常務　池田谷久吉
同　常務　波江悌夫
同　常務　野呂長四郎
同　常務　八木幸次郎

左記の方々から協會宛へ鄭重なる暑中御見舞狀に接しました乍勝手誌上で厚く御禮申上ます

木村組　木村音右衞門殿
同　大黑福松殿
大阪橋本組東京支店殿
竹內建築事務所　竹內綠殿
中村庸二建築事務所殿
柳下建築事務所　柳下實殿
玲光社大阪店　木內眞太郎殿
清水組大阪支店　內山熊八郎殿
久保田筆雄殿
永田三次郎殿

住所不明者

左記の人住所不明に付心當りの御方は御通知を御願致します

普賛伴仲信次君

本誌定價表

冊數	定價	郵稅
一冊	七拾五錢	貳錢
十二冊	九圓	貳拾四錢

昭和二年八月廿一日印刷
昭和二年九月一日發行（每月壹回一日發行）

大阪市東淀川區豐崎西通一ノ七
發行兼編輯人　鳶田夏次郎
大阪市東區內淡路町一丁目七番地
印刷所　大阪活版所
大阪市北區中之島二丁目廿五番地
江商ビルヂング
發行所　社團法人日本建築協會
電話本局四二九二番
振替口座大阪三九九七五

大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀四四〇番）
振替口座二一〇八四番

御購讀の向は本會直接又は特約店へ振替又は爲替にて前金御拂込被下度候

●第一〇集　第九号　掲載広告一覧（掲載順）

永柳商店
笹岡家具装飾店
万年スレート
浅野スレート
日本ペイント製造
三井物産
東洋コルク工業
内外土木建築材料
日本エレベーター製造
東亜ペイント
駒井商店
大阪電気分銅
東洋鉱粉所
大阪鉄板製造
大阪製鎖所
カールツアイス
東洋コンクリート
関西ペイント
葵商会
大元商会
関西建鉄製作所
大理石工業

橋本庭園工務所
西村建築
中村グラニット商会
森川組
飾磨化学工業
池田建築事務所
大阪建築相談所
橋本建築事務所
小笠原建築事務所
岡部建築事務所
大阪建築所
和田建築事務所
横河工務所
片岡建築事務所
吉武建築事務所
宗建築事務所
藤井工業所
国枝工務所
安井建築事務所
増田清建築事務所
設楽建築事務所
真水工務所

真水三橋建築事務所
西原衛生工業所大阪支店
池田勘蔵
大倉土木大阪出張所
大阪橋本組
亀谷開作
竹中工務店
大塚鉄工所
中新
佐伯組
野村組
久保田組
熊取谷熊次郎
松村組
正木工務店
藤木工務店
日本鑿泉
内海工務店
日本塗装工業
銭高組
大林組
吉住和一郎商店
大阪鉄筋混凝土工務所
森鉄扉製作所

岡本工務店
鴻池組
有山組
駒井喜商店
安藤組大阪出張所
辰巳吉之助
森本建築社
清水組大阪支店
佐久間建材工業所
栄進社
SO商会
須賀商会
三菱造船神戸造船所
大阪耐火リノリウム
坂本商会大阪出張所
山本東作商店
品川白煉瓦大阪支店
内外エレベーター
大阪鉄扉製作所
デウエット商会
高島屋呉服店
野沢幸三郎商店
日本工剤
東亜鉄工所

玲光社
米本商店
KENSEI SHOKAI
大阪建材商会
三井物産
浅野物産
油脂化工社
阿部鉄工所
日本建築紙工
田村商会
日本スレート販売大阪支店
大平工業所
佐村木勝吉
三熊製畳所
浅海商店
山本窯業商店
城口研究所大阪支店
伊丹商店
原田商会
木下謹三商店
政正
日本洋瓦大阪出張所
矢橋大理石商店
日本メタルラス製造所

トーペー、アンド、ダート、ペイント会社
桐田商会
松本商店
王子製瓦
佐治タイル
宮田鉄工所
新田ベニヤ製造所
大和工業
大阪窯業
米国貿易会社
島貿易
小野田セメント
東京建鉄大阪支店
建築金物商会